

はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」検証に関する アンケート調査の集計結果

- P1～ 参考資料1① 「茶の文化」フォーラム
P19～ 参考資料1② はなやか関西茶会記
P41～ 参考資料1③ 非公開茶室の見学(大徳寺コース)
P81～ 参考資料1④ 非公開茶室の見学(東山コース)
P121～ 参考資料1⑤ 非公開茶室の見学(山崎コース)
P159～ 参考資料1⑥ 取組参加団体
P187～ 参考資料1⑦ 準備会構成機関

**「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」
“「茶の文化」フォーラム”に関するアンケート調査**

集計結果

平成 24 年 3 月

国土交通省 近畿地方整備局

- 目次 -

I. 実施概要	1
1. 実施概要	1
2. アンケート集計結果	2
(1) 属性	2
(2) 本フォーラムの認知媒体・来場目的	4
(3) 本フォーラムへの評価等	6
(4) 本プログラム全体について	9
(5) 関西の「本物の文化」の継承・発展に向けて	12
(6) 関西の「本物の文化」をテーマとした取組について	14

I. 実施概要

1. 実施概要

【目的】

『はなやか関西～文化首都年～』初年度にあたり、「関西の『本物』: 茶の文化」や「『本物』を活かした関西の地域づくり」について、各界有識者にご議論いただき、広く人々に知っていただくことで、「文化首都圏・関西」の形成に向け「茶の文化」に関連する地域づくり活動の活発化や取組間の連携を力強く推進させることを目的に実施。

【日時】 平成 23 年 11 月 18 日(金)13 時 30 分～16 時 15 分

【場所】 大阪歴史博物館 4 階 講堂

【参加人数】 71 名（市民、地域づくり関係者、文化関係者、行政 等）

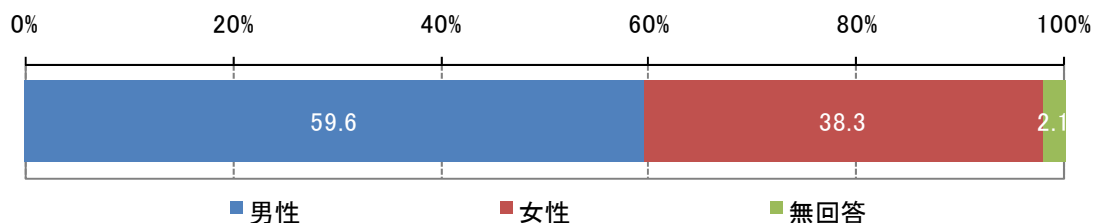
【プログラム】

プログラム	時間	内容
開会挨拶	13:30～13:35	堀井 良殷 氏（はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」実行委員長・(財)大阪 21 世紀協会理事長）
基調講演	13:35～14:20	「関西と茶の文化」 谷 晃 氏（茶の湯文化学会会長・野村美術館館長）
— 休憩 —	14:20～14:30	
パネルディスカッション	14:30～14:45	■趣旨説明 橋爪 紳也 氏（大阪府立大学特別教授）
	14:45～16:00	■パネルディスカッション 【コーディネーター】 橋爪 紳也 氏（大阪府立大学特別教授） 【パネリスト】 角山 榮 氏（和歌山大学名誉教授） 千田 稔 氏（奈良県立図書館情報館館長） 佐藤 友美子 氏（公益財団法人サントリー文化財団 上席研究フェロー） 寺本 益英 氏（関西学院大学教授）
	16:00～16:10	■質疑応答
閉会挨拶	16:10～16:15	はなやか関西～文化首都年～2011 年「茶の文化」取組参加団体 学生代表 京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科

2. アンケート集計結果

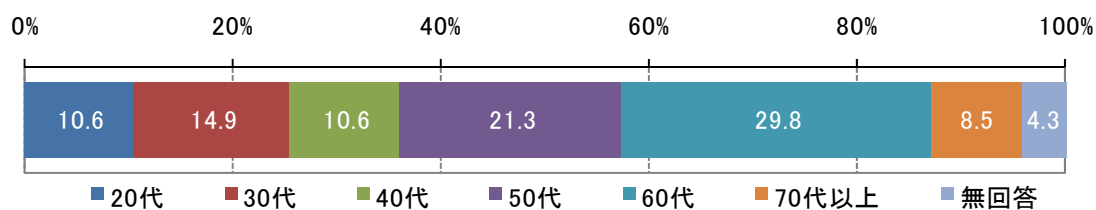
(1) 属性

① 性別



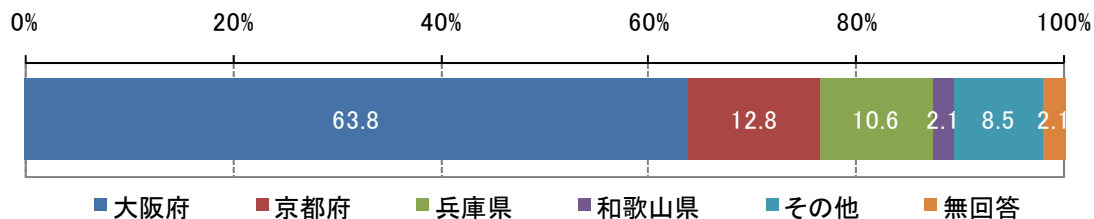
	男性	女性	無回答	計
件数	28	18	1	47
割合(%)	59.6	38.3	2.1	100.0

② 年齢



	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	計
件数	5	7	5	10	14	4	2	47
割合(%)	10.6	14.9	10.6	21.3	29.8	8.5	4.3	100.0

③ 居住地



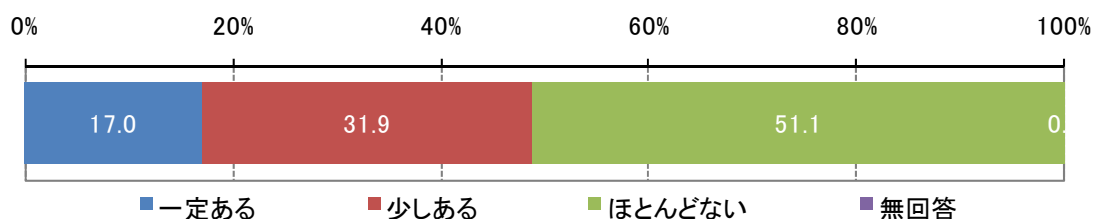
	大阪府	京都府	兵庫県	和歌山県	その他	無回答	計
件数	30	6	5	1	4	1	47
割合(%)	63.8	12.8	10.6	2.1	8.5	2.1	100.0

【「その他」内容】

- ・ 三重県 : 1名
- ・ 静岡県 : 1名
- ・ 東京都 : 1名
- ・ 神奈川県 : 1名

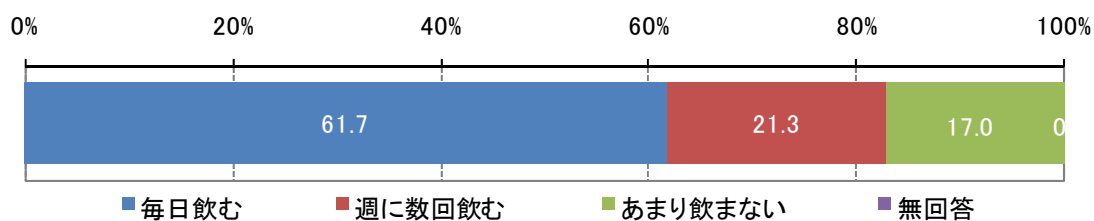
④ 「茶の文化」に関する活動

④-1. 茶道の経験・知識



	一定ある	少しある	ほとんどない	無回答	計
件数	8	15	24	0	47
割合 (%)	17.0	31.9	51.1	0.0	100.0

④-2. 日本茶を飲む習慣



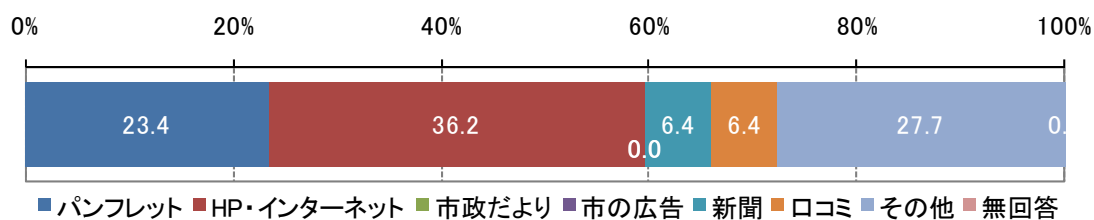
	毎日飲む	週に数回飲む	あまり飲まない	無回答	計
件数	29	10	8	0	47
割合 (%)	61.7	21.3	17.0	0.0	100.0

(2) 本フォーラムの認知媒体・来場目的

① 本フォーラムの認知媒体

○ HP・インターネットが 36.2%、パンフレットが 23.4%と高くなっている。

図. 本フォーラムの認知媒体(単数回答, n=47)



	パンフレット	HP・インターネット	市政だより	市の広告	新聞	ロコミ	その他	無回答	計
件数	11	17	0	0	3	3	13	0	47
割合 (%)	23.4	36.2	0.0	0.0	6.4	6.4	27.7	0.0	100.0

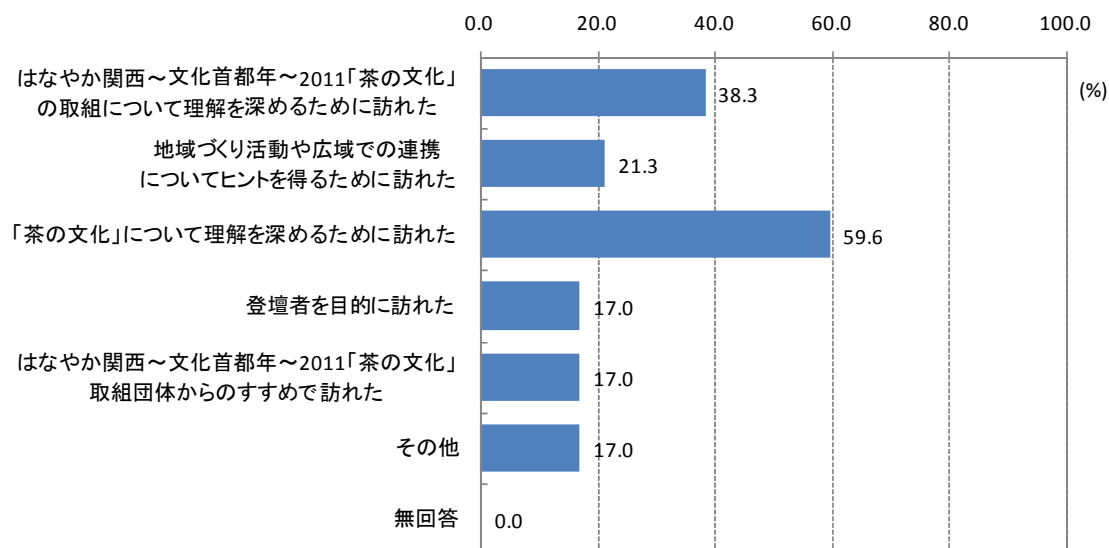
【「その他」内容】

- ・ 学校、大学より(2名)
- ・ Eメール案内(2名)
- ・ 参加団体より
- ・ 橋爪先生のご紹介
- ・ 先生からの紹介
- ・ 大阪 21 世紀協会賛助会員資料
- ・ 近畿地方整備局の紹介

② 本フォーラムへの来場目的

○ 『茶の文化』について理解を深めるために訪れた」が 59.6%と高くなっている。

図. 本フォーラムへの来場目的(複数回答, n=47)



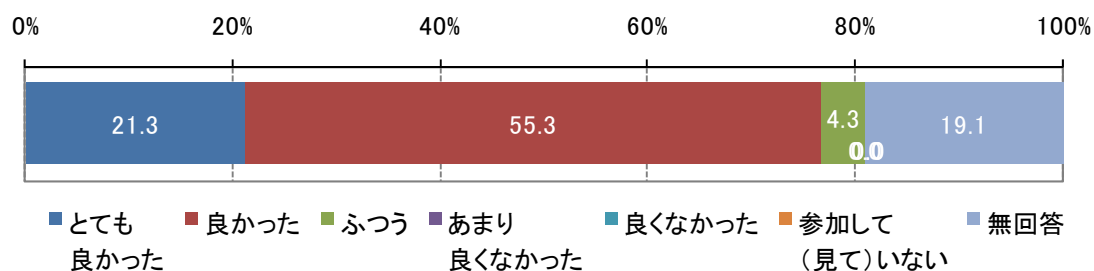
	件数	割合 (%)
はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」の取組について理解を深めるために訪れた	18	38.3
地域づくり活動や広域での連携についてヒントを得るために訪れた	10	21.3
「茶の文化」について理解を深めるために訪れた	28	59.6
登壇者を目的に訪れた	8	17.0
はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」取組団体からのすすめで訪れた	8	17.0
その他	8	17.0
無回答	0	0.0
	80	

(3) 本フォーラムへの評価等

① 全体評価

○ 「良かった」が55.3%、次いで「とても良かった」が21.3%となっている。

図. 本フォーラムの全体評価(単数回答, n=47)



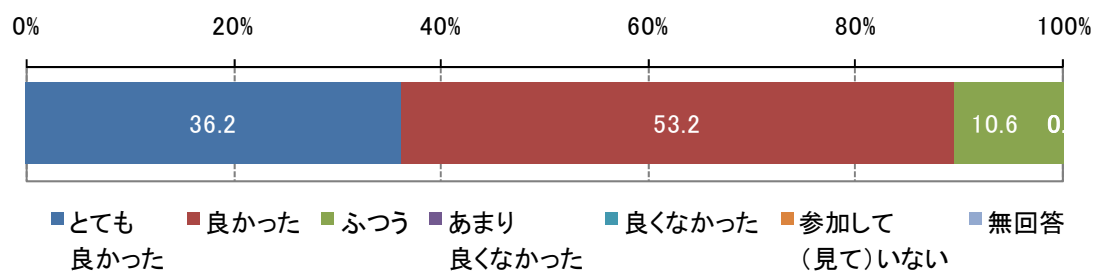
	とても良かった	良かった	ふつう	あまり良かった	良くなかった	参加して(見て)いない	無回答	計
件数	10	26	2	0	0	0	9	47
割合 (%)	21.3	55.3	4.3	0.0	0.0	0.0	19.1	100.0

② 各フォーラムへの評価

②-1. 基調講演

○ 「良かった」が53.2%、「とても良かった」が36.2%となっている。

図. 基調講演についての評価(単数回答, n=47)

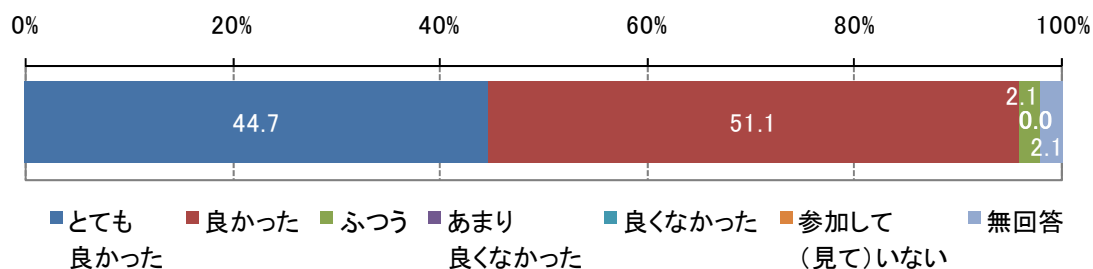


	とても良かった	良かった	ふつう	あまり良かった	良くなかった	参加して(見て)いない	無回答	計
件数	17	25	5	0	0	0	0	47
割合 (%)	36.2	53.2	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

②-2. パネルディスカッション

○ 「良かった」が51.1%、「とても良かった」が44.7%であった。

図. パネルディスカッションについての評価(単数回答, n=47)

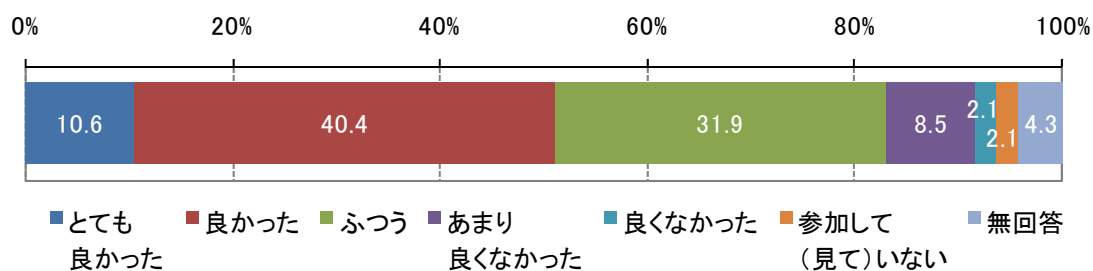


	とても良かった	良かった	ふつう	あまり良かった	良くなかった	参加して(見て)いない	無回答	計
件数	21	24	1	0	0	0	1	47
割合 (%)	44.7	51.1	2.1	0.0	0.0	0.0	2.1	100.0

②-3. パネル展示

○ 「良かった」が40.4%、「ふつう」が31.9%であった。

図. パネル展示についての評価(単数回答, n=47)



	とても良かった	良かった	ふつう	あまり良かった	良くなかった	参加して(見て)いない	無回答	計
件数	5	19	15	4	1	1	2	47
割合 (%)	10.6	40.4	31.9	8.5	2.1	2.1	4.3	100.0

③ 良かった点・悪かった点

【意見内容】

■良かった点

- ・ とても様々な面からお茶の話をいただき、とても参考になりました。
- ・ 各方面からの茶の文化に詳しい先生のお話が良かった。
- ・ お茶の文化について考えるきっかけになった。
- ・ 話の内容に深みがあり、啓発的であった。
- ・ 自分が茶の湯の起こりを知りたかったので良かった。
- ・ 経済的な視点からのアプローチがあった点が良かった。
- ・ 5人の先生方の講話に、あらためて日本本来のほんまものの日本文化を再認識でき、子供達、孫達、これからの生活の中に取り入れてもらいたいと思いました。
- ・ 特にパネルディスカッションで、様々な先生方が興味深いお話をしてくださり、とても勉強になりました。
- ・ パネルディスカッションの内容がすばらしかったと思います。
- ・ パネルディスカッションは、自分自身の考える範囲を超え、大きな視点での話が聞けて良かった。
- ・ 基調講演の谷先生の話がわかりやすかった。
- ・ 角山氏の話聞いて良かったです。
- ・ 谷先生のレジュメを見ない見事な解説にはアツパレ。
- ・ 角山先生のレシピ初めて知りました。ありがとうございました。
- ・ 大変おもしろい話を聞くことができた。特に角山先生のような熱い方の話は大変興味をひかれた。

■良くなかった点

- ・ 今後のことをもっと話すべき。過去のことはもう変えることはできない。発展について聞きたいし、論議すべき。
- ・ 議論に深みがない。関西の、攻めていこうと目指している方向が見えてこなかった。
- ・ 時間の割にポイントが拡散した感があった。
- ・ パネルディスカッションのスクリーンの字が見えにくかった。
- ・ パネルに小さい文字が多い。絵を用いたお茶の歴史を置いてはどうか。
- ・ パネルは読むのに時間がかかり過ぎ、ざっと見るにとどまった。
- ・ パネルの文字を少なくしてほしい。
- ・ パネル展示が目の高さだと見やすかったと思います。
- ・ 会場が寒かったです。

■その他

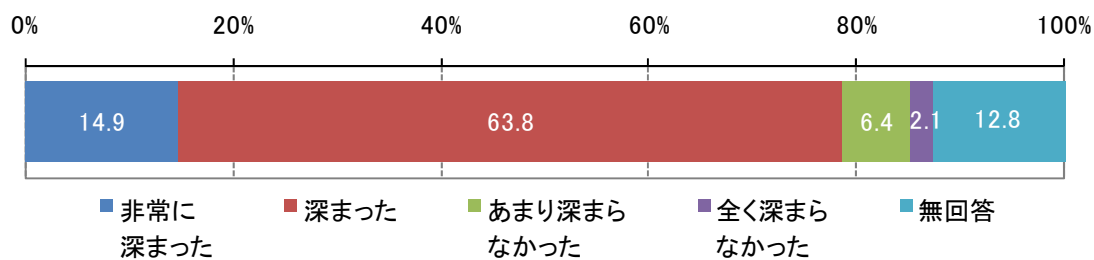
- ・ リーフ茶離れに困っています。いろいろの意見を拝聴させて頂きましたが、リーフ茶の薬効をもっとPRしても医事法には触れないのでしょうか。

(4) 本プログラム全体について

① 今回のプログラムを通じて、「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか。

○ 「深まった」が63.8%、「非常に深まった」が14.9%となっている。

図. 「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか(単数回答, n=47)

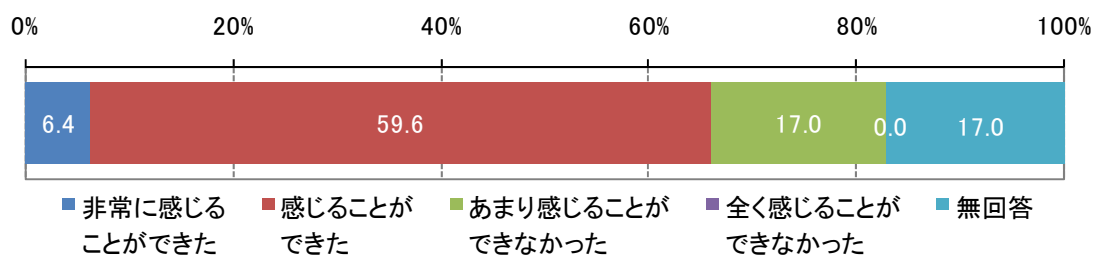


	非常に深まった	深まった	あまり深まらなかった	全く深まらなかった	無回答	計
件数	7	30	3	1	6	47
割合 (%)	14.9	63.8	6.4	2.1	12.8	100.0

② 今回のプログラムを通じて、関西の「本物の文化」を感じる事ができたか。

○ 「感じる事ができた」が59.6%、「あまり感じる事ができなかった」が17.0%となっている。

図. 関西の「本物の文化」を感じる事ができたか(単数回答, n=47)

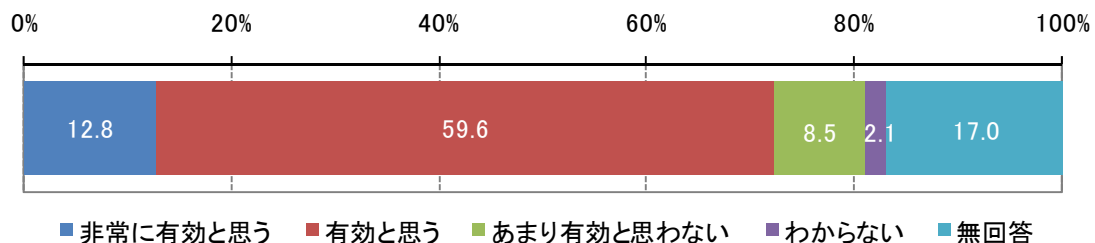


	非常に感じる事ができた	感じる事ができた	あまり感じる事ができなかった	全く感じる事ができなかった	無回答	計
件数	3	28	8	0	8	47
割合 (%)	6.4	59.6	17.0	0.0	17.0	100.0

③ 今回のプログラムは、関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効と思うか。

○ 「有効と思う」が 59.6%、「非常に有効と思う」が 12.8%であった。

図. 関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効か(単数回答, n=47)



	非常に有効と思う	有効と思う	あまり有効と思わない	わからない	無回答	計
件数	6	28	4	1	8	47
割合 (%)	12.8	59.6	8.5	2.1	17.0	100.0

④ 関西の「茶の文化」に関して、見学・体験してみたいと思うプログラムの提案。

【意見内容】

■茶室、茶器、生産現場などの見学

- ・ 茶室見学会。
- ・ 茶室見学、関係寺院、茶の生産現場の見学。
- ・ 普段目にするできないお茶室などを拝見できたら良いなあと思っております。素晴らしい日本文化を、若い人、子供達にも興味を持っていただけるように導いていきたいと思っております。
- ・ 6月、10月の非公開茶室見学のようなもの。建築、茶文化、歴史などの先生との一日現地講習。残念ながら抽選にもれましたが、素晴らしい企画内容だったので。
- ・ 非公開茶室見学時の中村先生の解説をもう一度じっくりと伺ってみたいと思います。前回、利休と秀吉とが相いれない心理を見事に論破されました。脱帽。最敬礼。
- ・ 博物館の見学等(お茶道具等)、お茶室の見学会も。茶道具の生産など、無料でなくてもきっかけを与えてもらえたらと思う。
- ・ 茶、茶器、茶室の文化をあわせてPRすることが重要。
- ・ 焼物や軸装など、茶と関連の深いものや、その技術。
- ・ 茶生産者との交流(生産の苦労話を聞く、茶畑を見学する)。
- ・ 講演会と現地見学会(現地での講演会)を組み合わせてもらえると非常に興味がわき、参加しやすい。
- ・ 堺での茶道体験とまちあるき。
- ・ 「茶の文化・世界遺産のルート」を体験してみたい。大阪城、千利休、炭、茶、茶道の歴史、茶の産地などの遺産ルートを次世代に伝えていくことが大切。伝統文化はなかなか忘れがち。日本人は特に。特に若い人にPRは必要と思う。

■茶会

- ・ 茶会。
- ・ 普段味わえない、茶、茶菓子、茶スイーツの食べ放題、飲み放題があると行きたいです。
- ・ 煎茶道のお教室に通いたいと思うがたくさんの流派があるので、どれが自分に合うのかわかりません。一度その違いを教えてください。身近な煎茶を楽しめる茶会(多数の流派を集めて)をする等、気軽な場を設けてください。

■その他

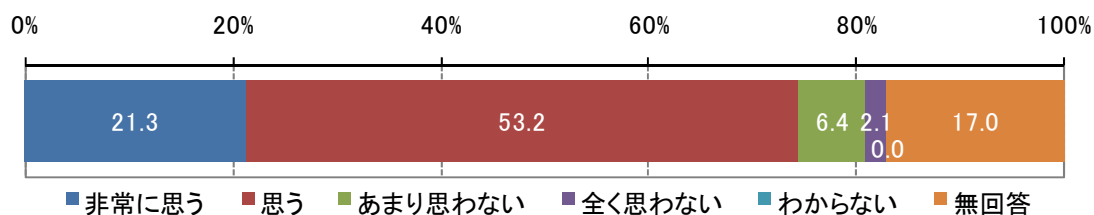
- ・ 私は日本茶インストラクターとして仕事をしていますが、急須を使ってのお茶の淹れ方を学生さん達に広めたいと思っておりますが、なかなか入口がありません。

(5) 関西の「本物の文化」の継承・発展に向けて

① 関西の「本物の文化」が今も根付く、我が国一番の地域(文化首都)だと思うか。

○ 「非常に思う」が 53.2%、「思う」が 21.3%となっている。

図. 関西は文化首都と思うか(単数回答, n=47)

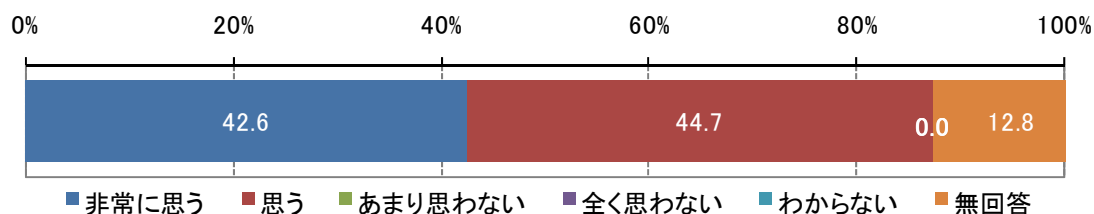


	非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	10	25	3	1	0	8	47
割合 (%)	21.3	53.2	6.4	2.1	0.0	17.0	100.0

② 関西が「本物の文化」をテーマとし、文化の継承・発展に取り組むとともに、国内外へ発信することに意義があると思うか。

○ 無回答者を除くすべての人が「非常に思う」・「思う」と答えている。

図. 文化の継承・発展、国内外への発信は意義があるか(単数回答, n=47)

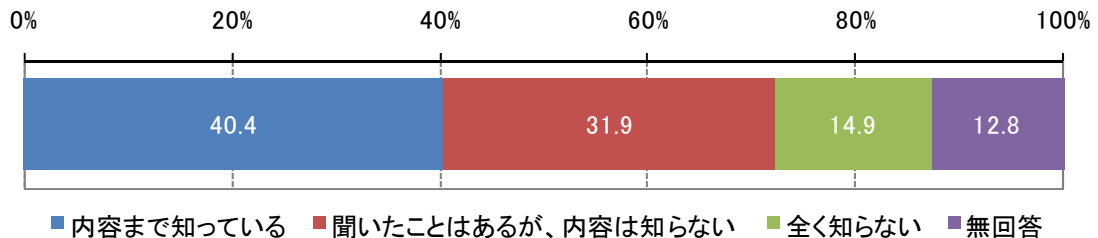


	非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	20	21	0	0	0	6	47
割合 (%)	42.6	44.7	0.0	0.0	0.0	12.8	100.0

③ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の取組を知っているか。

○ 「内容まで知っている」が40.4%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が31.9%、「全く知らない」が14.9%であった。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を知っているか(単数回答, n=47)

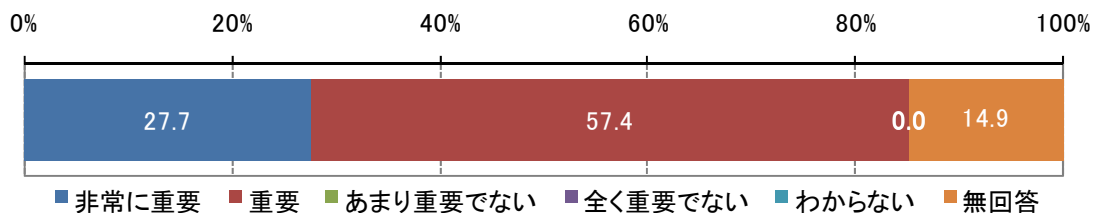


	内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	全く知らない	無回答	計
件数	19	15	7	6	47
割合 (%)	40.4	31.9	14.9	12.8	100.0

④ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」のような取組を重要だと思うか。

○ 無回答者を除くすべての人が「非常に重要」・「重要」と答えている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」のような取組を重要だと思うか(単数回答, n=47)



	非常に重要	重要	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	計
件数	13	27	0	0	0	7	47
割合 (%)	27.7	57.4	0.0	0.0	0.0	14.9	100.0

(6) 関西の「本物の文化」をテーマとした取組について

【意見内容】

■継続性・活動の継続が必要

- ・ 継続が必要です。
- ・ 茶の文化をテーマに今回のシンポジウムが開催されたが、他の文化をテーマにしたイベントも来年度以降、継続的に開催していただきたい。
- ・ たとえば茶をテーマにする場合、日本文化の様々なものに影響を与えている(建築、庭園、焼物、作法など)ので、消化不良にならないように、継続的、体系的な取組をお願いしたい。
- ・ 関西は個性の強い地域が多いので、広範囲でまとめると焦点がぼやけるように思います。それぞれの地域がいい意味で競い合っていることが今後の発展につながります。東京が文化の中心だとはそもそも誰も思っていないので、もっと特色を主張し合って、人と人がつながれるような取組を期待します。また来年度以降にどのように取り組むかが大事なので、一般の人達に認知度を上げられることが楽しみだと思います。
- ・ パネルディスカッション中にもお話がありました。やはり文化発信、そして受け取りには時間がかかるものだと思いますので、続けることが大切であると強く思います。続け、発信し続けるためにも、今回のイベントできっかけとなる要素を多く吸収できればと感じております。また、イベント時には1プロジェクトとして参加させていただきますが、上に記しましたことを心がけ、後に繋がる企画としていけたらと思います。本日は貴重なお話をありがとうございました。

■効果的なPR・発信力の強化

- ・ 関西の文化を発信することは重要とは思いますが、この取組の知名度、認知度は決して高くはないと思う。本物の発信が必要。
- ・ 地域民にもっと情報公開すべきです。
- ・ 関西の「本物の文化」を集めた本を発行し、PRしていく必要があると思います。
- ・ 「関西の本物の文化」を展開するなら、もっと「本気度」がいるのではないのでしょうか。外部から見ているとよくわかりません。直接訴求、間接訴求のPR不足ですね。一言で言うと。本当に関西のためにやっているのでしょうか。もう少し「茶の文化」の盛り上げ方が不足ですね。「プレ」もあってもよいと思います。たくさん「玉」を打っていく必要がありますね。「伝統文化」の難しさを感じます。

■アイデア、希望など

- ・ 先生方の話の中にもあったが、茶文化が高尚化して距離が遠くなってしまっているようなので、講演会も、商品のヒントになる儲かる話や、楽しい遊び的なものを交えたらどうかと思いました。講演会、パネルディスカッションは、これはこれでおもしろいものであったと思います。
- ・ お茶に関してのみ言えませんが、日本茶インストラクターの人達がたくさんおりますし、市等がもっと関与して、小・中・高・大学生等に、おいしい日本茶の淹れ方を広めていったら如何でしょうか。
- ・ 世界の本物との比較も必要。
- ・ 「食文化」をテーマにしてほしいと思います。
- ・ 市民レベルでお茶の応援団になりたいと思いました。
- ・ 省庁間の縦割りに陥らないように希望します。

■感謝の意見など

- ・ 本年度、非公開茶室の見学会や、黄金の茶室の見学などをさせていただくことから更に茶器や着物等への関心も強くなりました。良いきっかけを与えてもらえたと感じています。
- ・ 秋の非公開お茶室拝見の企画には大変感銘を受けました。お世話になりましたありがとうございます。

じました。タクシーを準備していただいて、スムーズな移動、昼食もありで、無駄のない時間の配分に満足を致しました。まだまだたくさんの方も興味がおありだと思います。どうぞこれからもよろしくお願い致します。知人にもお見せいたしました。(遠州流お茶室コピー写真)喜んでいらっしゃいました。

■当フォーラムの問題点など

- パネリストの紹介を長々やるのは時間の無駄。
- せっかくのフォーラム開催に対して、聴講者が少ない。約 100 名程度。もっと事前に宣伝を行う必要があると思う。
- 集客のための事前PRに問題なかったか。(空席が目立つ。)

**「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」
“はなやか関西茶会記”に関するアンケート調査**

集計結果

平成 24 年 3 月

国土交通省 近畿地方整備局

- 目次 -

I. 実施概要	1
1. 実施概要	1
II. アンケート集計結果	2
1. アンケート集計結果	2
(1) 属性	2
(2) 本イベントの認知媒体・来場目的	5
(3) 本イベントへの評価等	7
(4) 本プログラム全体について	12
(5) 関西の「本物の文化」の継承・発展に向けて	15
(6) 関西の「本物の文化」をテーマとした取組について	17

I. 実施概要

1. 実施概要

【概要】

関西は日本トップクラスの文化資源を抱える地域であり、日本の文化のルーツでもある。

このような強みを活かし、関西では有識者、自治体や経済界の参画のもと“文化首都圏の確立”をめざし取組を進めている。その取組の一環として「はなやか関西～文化首都年～」を平成 23 年度にモデル実施することとなった。

平成 23 年度のテーマは日本の心を象徴する「茶の文化」である。事業の実施にあたっては、茶道流派や製茶会社、茶葉産地等の参画を得ながら、本事業のシンボル事業として、千利休等、茶の歴史に大きく関わる大阪城を舞台とした総合イベントを実施し、日本・関西の茶の文化を日本人・外国人に幅広く伝えることを目的とする。

「関西文化の日」(関西一円の文化施設を 11 月の第 3 土日など 11 月の一定期間の入場料を無料で利用いただく日を設定)の「西の丸庭園」無料開放日にあわせて実施した。

【日時】 平成 23 年 11 月 19 日(土)～20 日(日)10 時 00 分～16 時 00 分

【場所】 大阪城(西の丸庭園・大阪迎賓館・豊松庵)、豊國神社

【プログラム】 別紙参照

【西の丸庭園入場者数・アンケート回答者数】

日程	天候	入場者数	回答者数
平成 23 年 11 月 19 日 (土)	大雨・暴風雨のち曇り	749 名	33 名
平成 23 年 11 月 20 日 (日)	晴れのち曇り	5,538 名	96 名
計		6,287 名	129 名

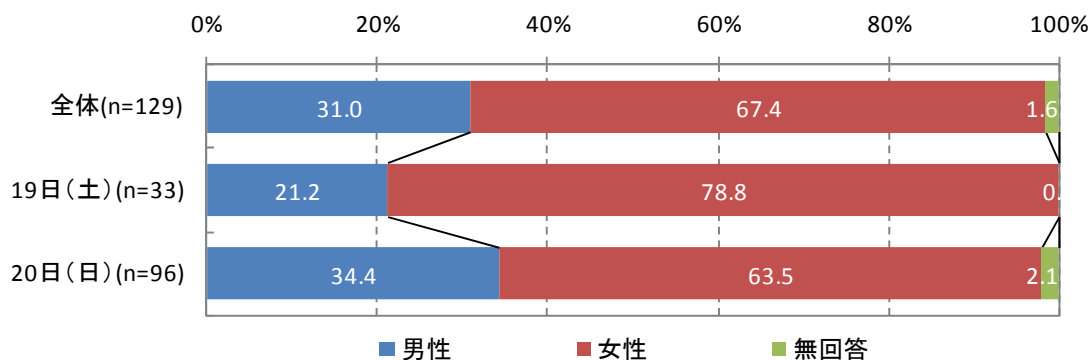
(資料) 入場者数は、大阪市ゆとりとみどり振興局調べ

II. アンケート集計結果

1. アンケート集計結果

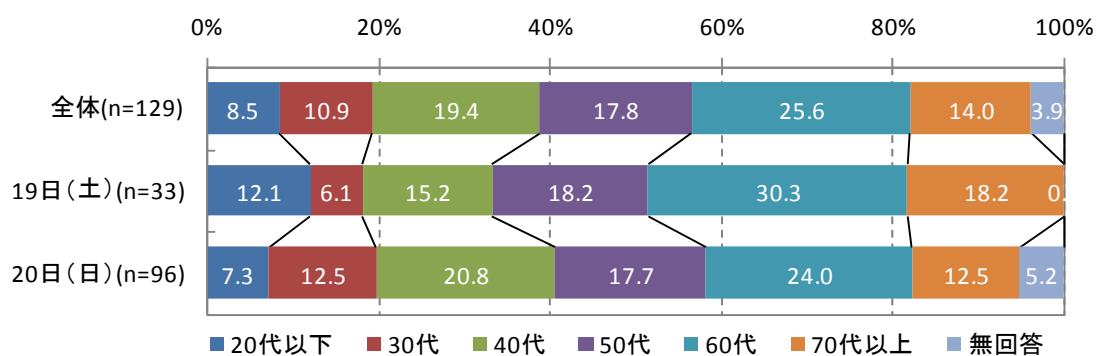
(1) 属性

① 性別



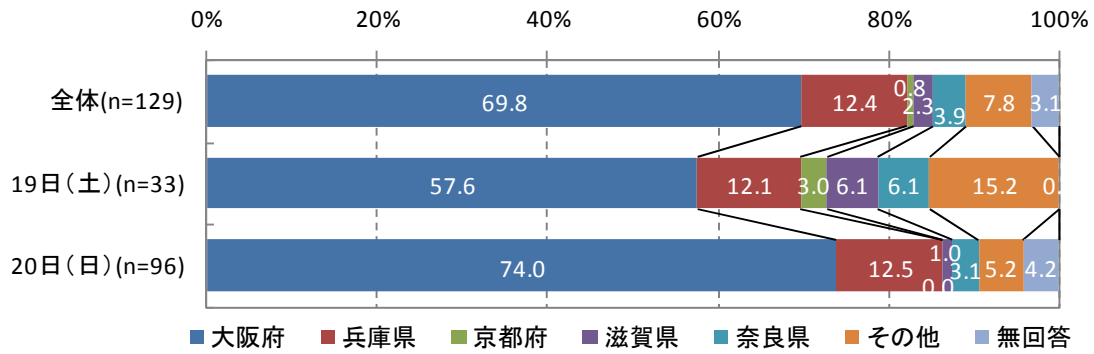
		男性	女性	無回答	計
件数	全体	40	87	2	129
	19日(土)	7	26	0	33
	20日(日)	33	61	2	96
割合 (%)	全体(n=129)	31.0	67.4	1.6	100.0
	19日(土)(n=33)	21.2	78.8	0.0	100.0
	20日(日)(n=96)	34.4	63.5	2.1	100.0

② 年齢



		20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	計
件数	全体	11	14	25	23	33	18	5	129
	19日(土)	4	2	5	6	10	6	0	33
	20日(日)	7	12	20	17	23	12	5	96
割合 (%)	全体(n=129)	8.5	10.9	19.4	17.8	25.6	14.0	3.9	100.0
	19日(土)(n=33)	12.1	6.1	15.2	18.2	30.3	18.2	0.0	100.0
	20日(日)(n=96)	7.3	12.5	20.8	17.7	24.0	12.5	5.2	100.0

③ 居住地



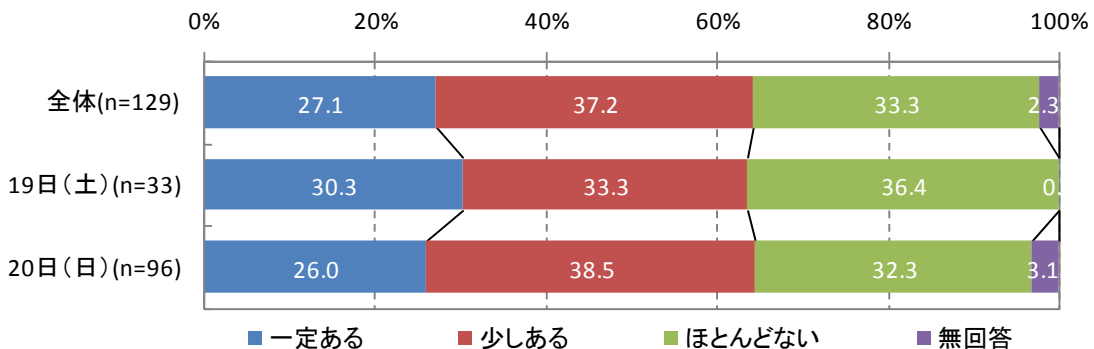
		大阪府	兵庫県	京都府	滋賀県	奈良県	その他	無回答	計
件数	全体	90	16	1	3	5	10	4	129
	19日(土)	19	4	1	2	2	5	0	33
	20日(日)	71	12	0	1	3	5	4	96
割合 (%)	全体(n=129)	69.8	12.4	0.8	2.3	3.9	7.8	3.1	100.0
	19日(土)(n=33)	57.6	12.1	3.0	6.1	6.1	15.2	0.0	100.0
	20日(日)(n=96)	74.0	12.5	0.0	1.0	3.1	5.2	4.2	100.0

【「その他」内容】

- ・ 東京都：4名
- ・ 愛知県：4名
- ・ 福岡県：1名
- ・ 広島県：1名

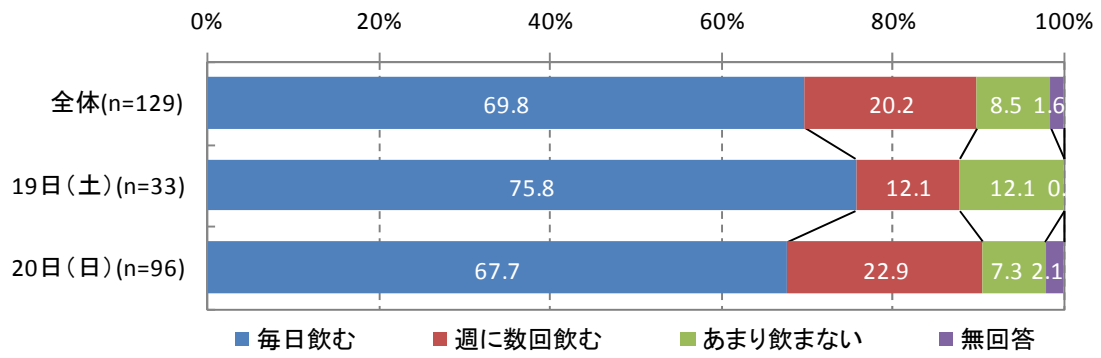
④ 「茶の文化」に関する活動

④-1. 茶道の経験・知識



		一定ある	少しある	ほとんどない	無回答	計
件数	全体	35	48	43	3	129
	19日(土)	10	11	12	0	33
	20日(日)	25	37	31	3	96
割合 (%)	全体(n=129)	27.1	37.2	33.3	2.3	100.0
	19日(土)(n=33)	30.3	33.3	36.4	0.0	100.0
	20日(日)(n=96)	26.0	38.5	32.3	3.1	100.0

④-2. 日本茶を飲む習慣



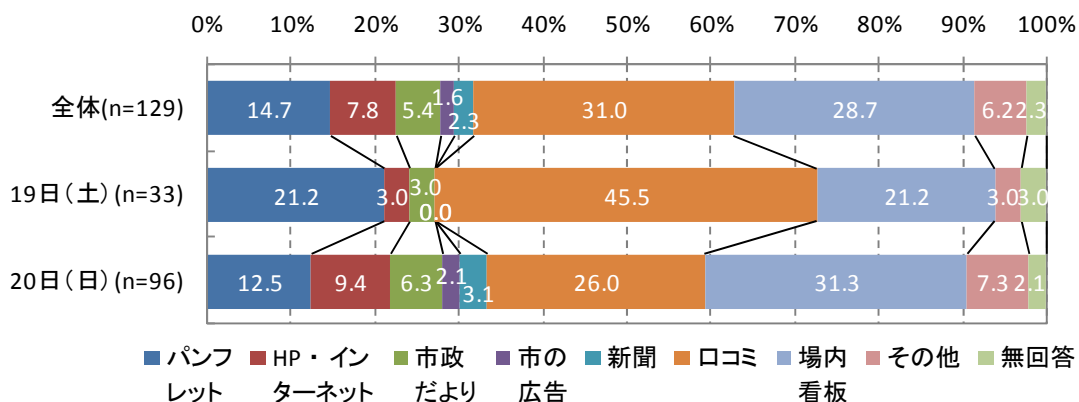
		毎日飲む	週に数回飲む	あまり飲まない	無回答	計
件数	全体	90	26	11	2	129
	19日(土)	25	4	4	0	33
	20日(日)	65	22	7	2	96
割合 (%)	全体(n=129)	69.8	20.2	8.5	1.6	100.0
	19日(土)(n=33)	75.8	12.1	12.1	0.0	100.0
	20日(日)(n=96)	67.7	22.9	7.3	2.1	100.0

(2) 本イベントの認知媒体・来場目的

① 本イベントの認知媒体

○ 土曜日は「口コミ」が45.5%と高いが、日曜日は「場内看板」が31.3%と高くなっている。

図. 本イベントの認知媒体(単数回答, n=129)



		パンフレット	HP・インターネット	市政だより	市の広告	新聞	口コミ	場内看板	その他	無回答	計
件数	全体	19	10	7	2	3	40	37	8	3	129
	19日(土)	7	1	1	0	0	15	7	1	1	33
	20日(日)	12	9	6	2	3	25	30	7	2	96
割合(%)	全体(n=129)	14.7	7.8	5.4	1.6	2.3	31.0	28.7	6.2	2.3	100.0
	19日(土)(n=33)	21.2	3.0	3.0	0.0	0.0	45.5	21.2	3.0	3.0	100.0
	20日(日)(n=96)	12.5	9.4	6.3	2.1	3.1	26.0	31.3	7.3	2.1	100.0

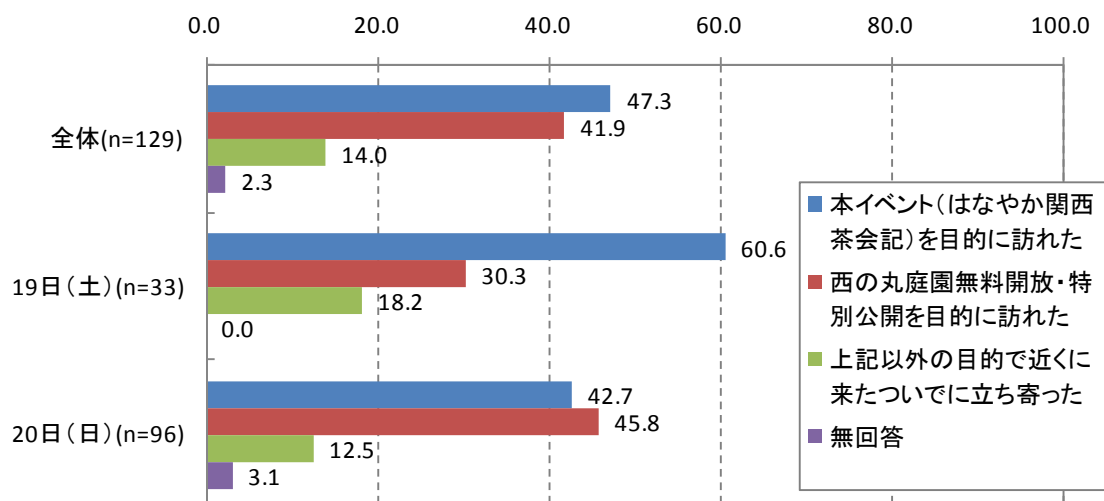
【「その他」内容】

- ・ テレビニュースを見て(2名)
- ・ HP・インターネット+口コミ(2名)
- ・ パンフレット+市政だより
- ・ パンフレット+場内看板
- ・ 市政だより+場内看板

② 本イベントへの来場目的

○ 土曜日は本イベントを目的に訪れた人が 60.6%であるが、日曜日は西の丸庭園無料開放・特別公開を目的に訪れた人が 45.8%と高くなっている。

図. 本イベントへの来場目的(複数回答, n=129)



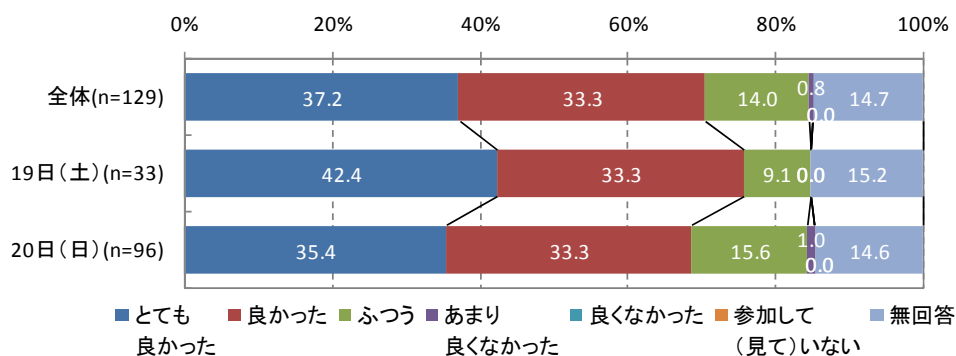
		本イベント(はなやか関西茶会記)を目的に訪れた	西の丸庭園無料開放・特別公開を目的に訪れた	上記以外の目的で近くに来たついでに立ち寄った	無回答	計
件数	全体	61	54	18	3	136
	19日(土)	20	10	6	0	36
	20日(日)	41	44	12	3	100
割合(%)	全体(n=129)	47.3	41.9	14.0	2.3	
	19日(土)(n=33)	60.6	30.3	18.2	0.0	
	20日(日)(n=96)	42.7	45.8	12.5	3.1	

(3) 本イベントへの評価等

① 全体評価

○ 土曜日は「とても良かった」が42.4%であるのに対し、日曜日は35.4%と若干低くなっている。

図. 本イベントの全体評価(単数回答, n=129)



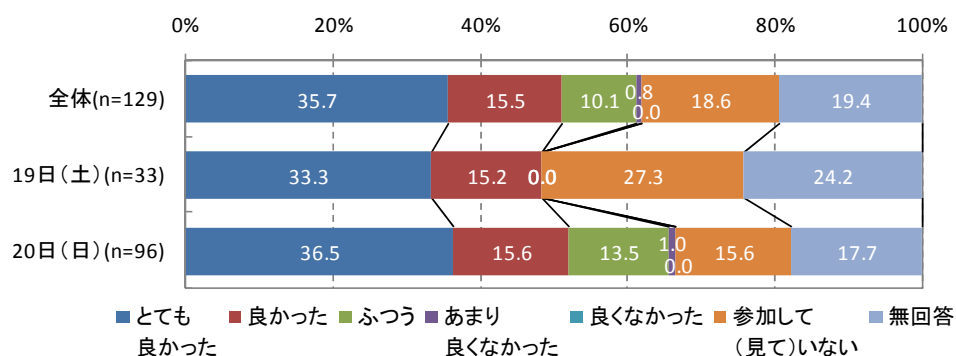
		とても良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった	参加して(見て)いない	無回答	計
件数	全体	48	43	18	1	0	0	19	129
	19日(土)	14	11	3	0	0	0	5	33
	20日(日)	34	32	15	1	0	0	14	96
割合(%)	全体(n=129)	37.2	33.3	14.0	0.8	0.0	0.0	14.7	100.0
	19日(土)(n=33)	42.4	33.3	9.1	0.0	0.0	0.0	15.2	100.0
	20日(日)(n=96)	35.4	33.3	15.6	1.0	0.0	0.0	14.6	100.0

② 各プログラムへの評価

②-1. 関西大茶会/茶会

○ 全体で「とても良かった」が35.7%、「良かった」が15.5%となっている。

図. 関西大茶会/茶会についての評価(単数回答, n=129)

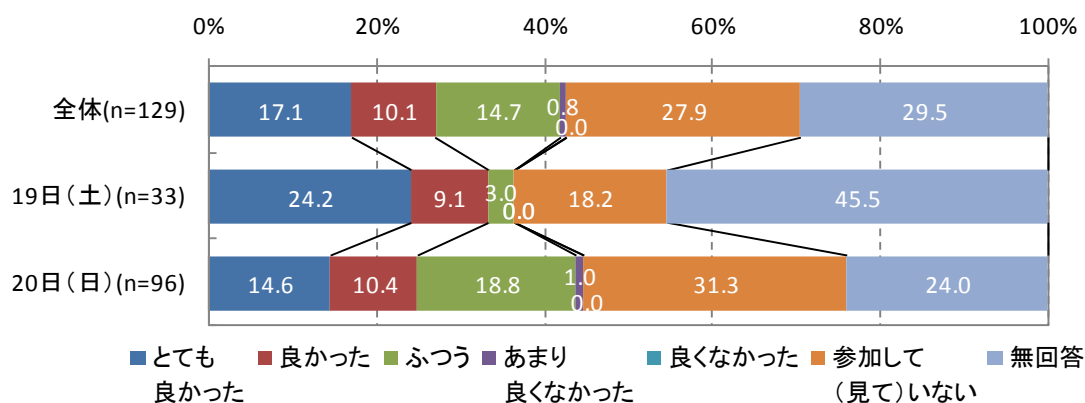


		とても良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった	参加して(見て)いない	無回答	計
件数	全体	46	20	13	1	0	24	25	129
	19日(土)	11	5	0	0	0	9	8	33
	20日(日)	35	15	13	1	0	15	17	96
割合(%)	全体(n=129)	35.7	15.5	10.1	0.8	0.0	18.6	19.4	100.0
	19日(土)(n=33)	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	27.3	24.2	100.0
	20日(日)(n=96)	36.5	15.6	13.5	1.0	0.0	15.6	17.7	100.0

②-2. 関西大茶会／野点席

○ 土曜日では「とても良かった」が24.2%であるが、日曜日では「ふつう」が18.8%となっている。

図. 関西大茶会／野点席についての評価(単数回答, n=129)

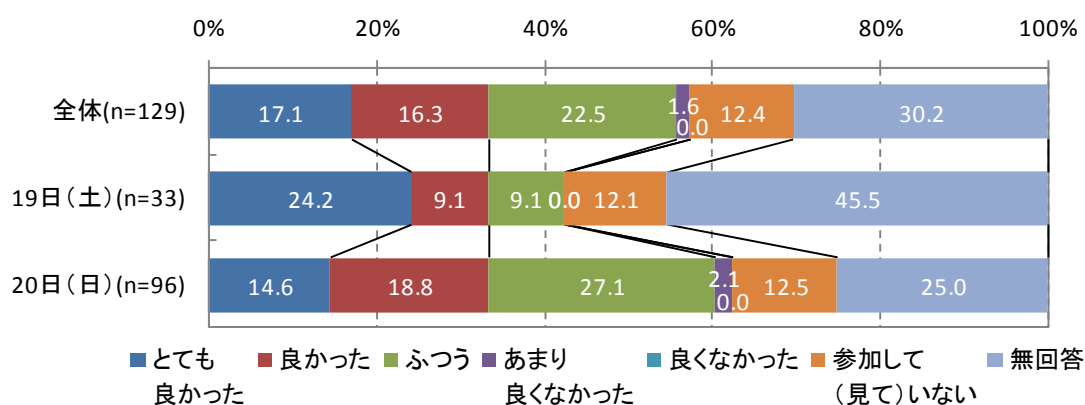


		とても良かった	良かった	ふつう	あまり良かった	良くなかった	参加して(見て)いない	無回答	計
件数	全体	22	13	19	1	0	36	38	129
	19日(土)	8	3	1	0	0	6	15	33
	20日(日)	14	10	18	1	0	30	23	96
割合(%)	全体(n=129)	17.1	10.1	14.7	0.8	0.0	27.9	29.5	100.0
	19日(土)(n=33)	24.2	9.1	3.0	0.0	0.0	18.2	45.5	100.0
	20日(日)(n=96)	14.6	10.4	18.8	1.0	0.0	31.3	24.0	100.0

②-3. 茶マルシェ

○ 土曜日では「とても良かった」が24.2%であるが、日曜日では「ふつう」が27.1%となっている。

図. 茶マルシェについての評価(単数回答, n=129)

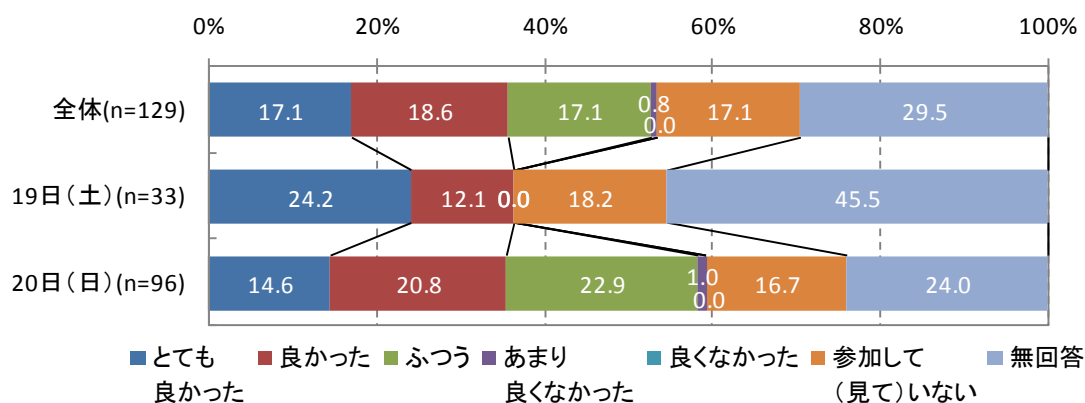


		とても良かった	良かった	ふつう	あまり良かった	良くなかった	参加して(見て)いない	無回答	計
件数	全体	22	21	29	2	0	16	39	129
	19日(土)	8	3	3	0	0	4	15	33
	20日(日)	14	18	26	2	0	12	24	96
割合(%)	全体(n=129)	17.1	16.3	22.5	1.6	0.0	12.4	30.2	100.0
	19日(土)(n=33)	24.2	9.1	9.1	0.0	0.0	12.1	45.5	100.0
	20日(日)(n=96)	14.6	18.8	27.1	2.1	0.0	12.5	25.0	100.0

②-4. 「茶の文化」展

○ 土曜日では「とても良かった」が24.2%であるが、日曜日では「ふつう」が22.9%となっている。

図. 「茶の文化」展についての評価(単数回答, n=129)

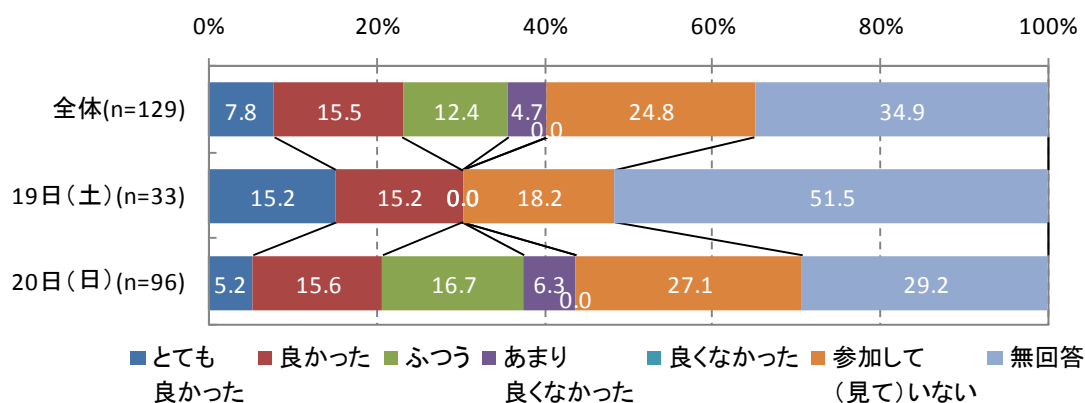


		とても良かった	良かった	ふつう	あまり良かった	良くなかった	参加して(見て)いない	無回答	計
件数	全体	22	24	22	1	0	22	38	129
	19日(土)	8	4	0	0	0	6	15	33
	20日(日)	14	20	22	1	0	16	23	96
割合(%)	全体(n=129)	17.1	18.6	17.1	0.8	0.0	17.1	29.5	100.0
	19日(土)(n=33)	24.2	12.1	0.0	0.0	0.0	18.2	45.5	100.0
	20日(日)(n=96)	14.6	20.8	22.9	1.0	0.0	16.7	24.0	100.0

②-5. ミニステージ

○ 土曜日では「とても良かった」が15.2%であるが、日曜日では「ふつう」が16.7%となっている。

図. ミニステージについての評価(単数回答, n=129)



		とても良かった	良かった	ふつう	あまり良かった	良くなかった	参加して(見て)いない	無回答	計
件数	全体	10	20	16	6	0	32	45	129
	19日(土)	5	5	0	0	0	6	17	33
	20日(日)	5	15	16	6	0	26	28	96
割合(%)	全体(n=129)	7.8	15.5	12.4	4.7	0.0	24.8	34.9	100.0
	19日(土)(n=33)	15.2	15.2	0.0	0.0	0.0	18.2	51.5	100.0
	20日(日)(n=96)	5.2	15.6	16.7	6.3	0.0	27.1	29.2	100.0

③ 良かった点・悪かった点

【意見内容】

■全体に対しての評価

- ・ 悪天候にも関わらず、とてもすばらしいパフォーマンスでした。
- ・ 今日雨で残念でした。皆さん主催のご苦勞を思うと大変良かったです。ありがとうございました。
- ・ 皆様活発にやられていました。悪かった点はなしです。
- ・ 色々な主体が参加し、良かったと思います。
- ・ 皆さん親切でした。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 係の方々の心配りが感じられ、とてもさわやかな良い一日が過ごせました。
- ・ 最高のお天気、十分に楽しみました。来年も期待しています。
- ・ ありがとうございました。もてなしが良かった。
- ・ 野点をいただいたが、日頃の練習の結果を披露していただき、良かった。
- ・ お茶席で頂けたのが良かったです。
- ・ 雨でさんざんでしたが、茶席は楽しめました。
- ・ 雰囲気、お道具、作法、しつらえ、全てにおいてバランスが整って、大変勉強になり、感動しました。

■説明がわかりやすい、よく理解できた、など

- ・ 説明がわかりやすく理解できた。
- ・ お茶の奥深さを学ぶことができた。
- ・ 説明がわかりやすかった。間近にお道具を見られた。
- ・ いろんな地区のお茶のことがわかって良かった。
- ・ 茶会は裏千家の解説が丁寧でわかりやすかった。
- ・ お茶の良さを認識した。
- ・ お煎茶席(小笠原流だったと思う)で文房かざりを拝見したこと。その説明の中で盆栽のかざりや書のかざり、絵のかざりのようなものもあってと言われていたのは興味深かった。本日は無かったが、またの機会に拝見したいと思いました。
- ・ 関西大茶会は、わかりやすい説明とともにおいしいお抹茶をいただけて嬉しかったです。お茶のおけいこを始めたところなので。ありがとうございます。

■学生への評価

- ・ 学生のブースでは、皆さん丁寧に説明してくださり、熱心さが伝わった。
- ・ 学生さんがお茶に関する発表や説明をしていたのが良かったです。高校生の茶席も良いと思います。
- ・ 女高生さんの真面目に取り組む姿に好感がもてた。
- ・ 緑茶の健康への効能を学生さんに教えてもらい、とてもよく理解できました。また、生産者の方にお茶の種類を教わり、疑問が解消されて良かった。

■迎賓館等が良かった

- ・ 迎賓館に入ってお茶が飲めた。
- ・ 迎賓館を見学できたことが良かった。
- ・ 迎賓館の中での茶会。
- ・ お茶室と迎賓館に入館できて良かった。またこのようなイベントを年に一度していただきたい。

- ・ 普段とは違う空間の中で日本の文化に触れることができました。ありがとうございました。
- ・ 普段入れない所へ行けて良かった。またすばらしいお道具(煎茶)を拝見できてうれしかった。

■お茶、お菓子への評価

- ・ お茶がおいしかったです。
- ・ おいしいお茶と和菓子が良かった。
- ・ 味が良かった。
- ・ 熊野本宮音無茶が美味しかった。二種買ってしまいました。

■良くなかった点

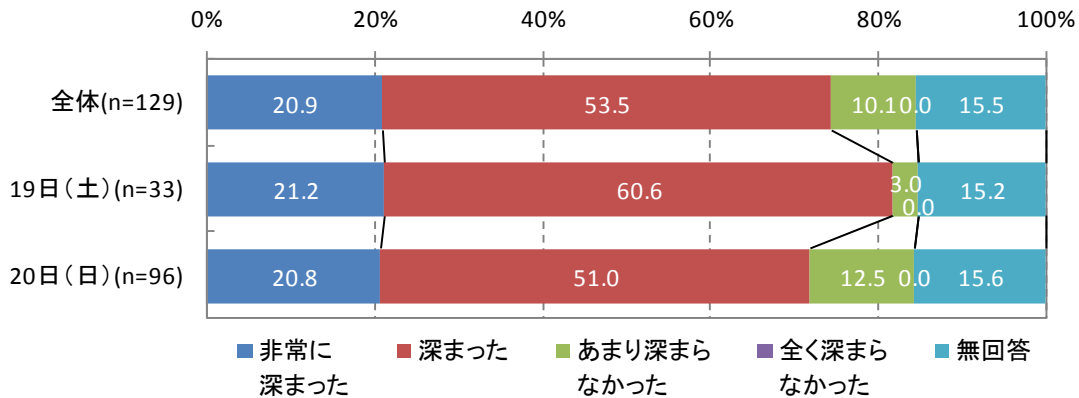
- ・ 場所が離れていて、看板や案内、宣伝をもっとした方が良いかと思う。
- ・ イベントの内容をもっと早い時期から広告して皆にわかるようにしてほしい。
- ・ 当日券のことを考えてくださると良いと思います。
- ・ 野点席は後ろの方に座ってお点前が見えなかった。
- ・ もう少し大きな声ではっきりと説明してください。
- ・ お茶席が少し高い。
- ・ 出店が少ない。
- ・ もう少しゆっくり味わいたかった。
- ・ 閉会間際に片付けかけていた。
- ・ 終了時刻(締切時間)が早かった。
- ・ お茶はちょっと苦かったです。
- ・ 大雨で足もとが悪かった。
- ・ 大雨で大変だった。

(4) 本プログラム全体について

① 今回のプログラムを通じて、「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか。

○ 全体で「深まった」が 53.5%、「非常に深まった」が 20.9%であった。土曜日では「あまり深まらなかった」が 12.5%と若干高くなっている。

図. 「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか(単数回答, n=129)

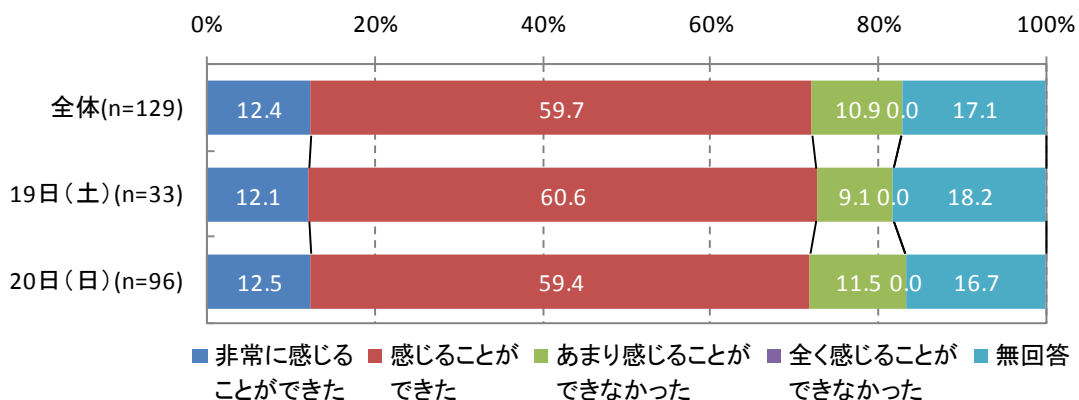


		非常に深まった	深まった	あまり深まらなかった	全く深まらなかった	無回答	計
件数	全体	27	69	13	0	20	129
	19日(土)	7	20	1	0	5	33
	20日(日)	20	49	12	0	15	96
割合(%)	全体(n=129)	20.9	53.5	10.1	0.0	15.5	100.0
	19日(土)(n=33)	21.2	60.6	3.0	0.0	15.2	100.0
	20日(日)(n=96)	20.8	51.0	12.5	0.0	15.6	100.0

② 今回のプログラムを通じて、関西の「本物の文化」を感じることができたか。

○ 全体で「感じることができた」が 59.7%であり、土日の差はほとんど見られない。

図. 関西の「本物の文化」を感じることができたか(単数回答, n=129)

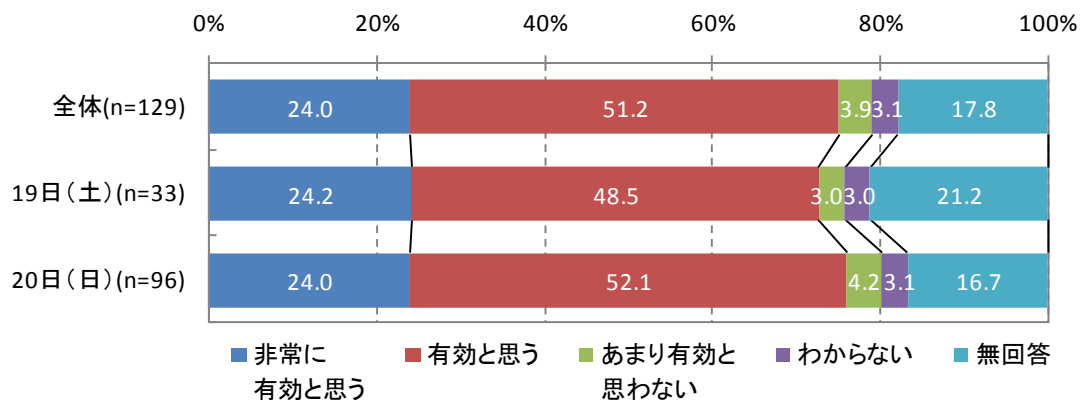


		非常に感じる ことができた	感じることが できた	あまり感じる could not	全く感じる could not	無回答	計
件数	全体	16	77	14	0	22	129
	19日(土)	4	20	3	0	6	33
	20日(日)	12	57	11	0	16	96
割合(%)	全体(n=129)	12.4	59.7	10.9	0.0	17.1	100.0
	19日(土)(n=33)	12.1	60.6	9.1	0.0	18.2	100.0
	20日(日)(n=96)	12.5	59.4	11.5	0.0	16.7	100.0

③ 今回のプログラムは、関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効と思うか。

○ 全体で「有効と思う」が 51.2%、「非常に有効と思う」が 24.0%であった。

図. 関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効か(単数回答, n=129)



		非常に有効と思う	有効と思う	あまり有効と思わない	わからない	無回答	計
件数	全体	31	66	5	4	23	129
	19日(土)	8	16	1	1	7	33
	20日(日)	23	50	4	3	16	96
割合 (%)	全体(n=129)	24.0	51.2	3.9	3.1	17.8	100.0
	19日(土)(n=33)	24.2	48.5	3.0	3.0	21.2	100.0
	20日(日)(n=96)	24.0	52.1	4.2	3.1	16.7	100.0

④ 関西の「茶の文化」に関して、見学・体験してみたいと思うプログラムの提案。

【提案内容】

■茶会、茶席

- ・ 今回のようなお茶会がもっとあれば参加させていただきます。
- ・ お茶会。
- ・ 茶会。
- ・ お点前コーナー。
- ・ それぞれの流派のお点前。
- ・ お茶席。
- ・ 野点。
- ・ 次回は茶席に参加したい。

■茶室見学など

- ・ お茶室めぐり。
- ・ お茶室へ入りたかった。
- ・ 本格的な茶室にて、お茶を味わってみたい。
- ・ 建物(歴史的なもの)見学。

■講座、レクチャーなどで学びたい

- ・ 講座、歴史、味、色々と総合的に。
- ・ お茶の歴史(抹茶と煎茶の違いなど)を学びたい。
- ・ お茶をいただく前の礼儀作法や、どんな意味があるのかなどレクチャーしてもらいたい。
- ・ 初心者でもわかるマナーを知りたいです。
- ・ 着物を着たり、道具をそろえたりと形式にとらわれない気軽な茶道を学びたい。

■生産現場体験

- ・ 茶畑で実際に茶摘みをしてみたいです。
- ・ 茶摘み。
- ・ 茶づくりの実習、茶摘み。
- ・ 茶摘み、ほうじ茶を作る、茶道プログラム。
- ・ 作り方を見たい。
- ・ 茶生産の話聞ける場所があれば良いと思う。

■和菓子

- ・ 和菓子体験。
- ・ 和菓子作り。
- ・ ねりきりを作りたい。

■飲み比べ、茶かぶき(利き茶)

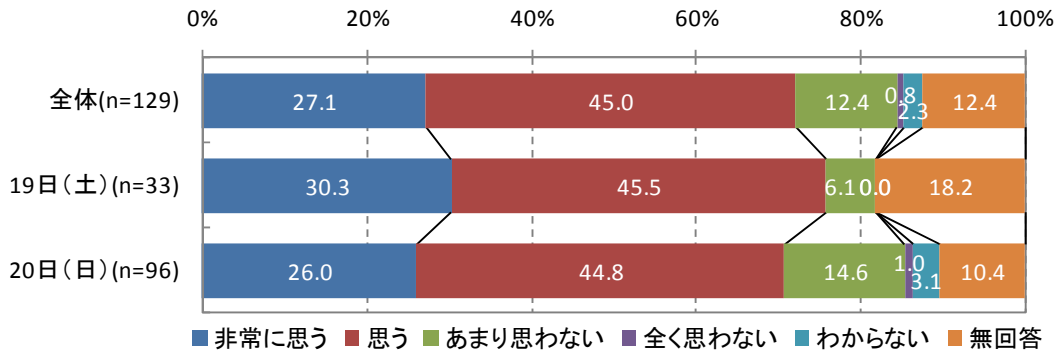
- ・ 抹茶、煎茶、飲み比べドリンクバー(all you can drink)
- ・ 茶かぶき(茶歌舞伎)のようなもの。お茶につきものの香、香具のようなもの。

(5) 関西の「本物の文化」の継承・発展に向けて

① 関西の「本物の文化」が今も根付く、我が国一番の地域(文化首都)だと思うか。

○ 全体では「思う」が45.0%、「非常に思う」が27.1%となっている。土曜日で「あまり思わない」が14.6%と若干高くなっている。

図. 関西は文化首都と思うか(単数回答, n=129)

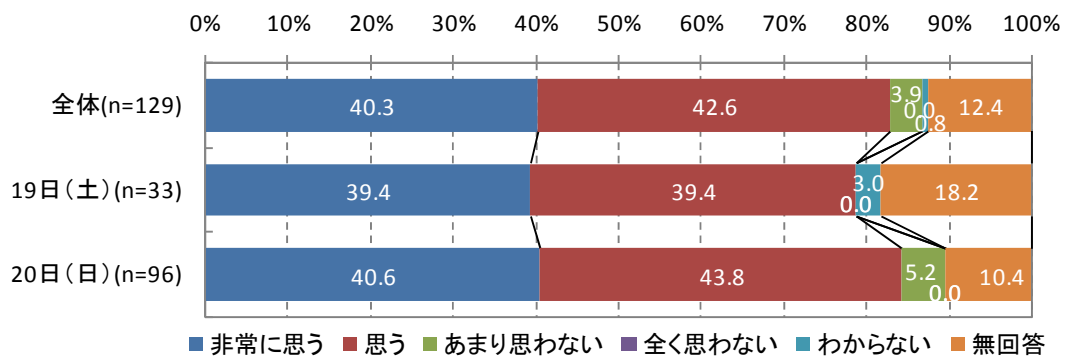


		非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	全体	35	58	16	1	3	16	129
	19日(土)	10	15	2	0	0	6	33
	20日(日)	25	43	14	1	3	10	96
割合(%)	全体(n=129)	27.1	45.0	12.4	0.8	2.3	12.4	100.0
	19日(土)(n=33)	30.3	45.5	6.1	0.0	0.0	18.2	100.0
	20日(日)(n=96)	26.0	44.8	14.6	1.0	3.1	10.4	100.0

② 関西が「本物の文化」をテーマとし、文化の継承・発展に取り組むとともに、国内外へ発信することに意義があると思うか。

○ 「思う」が42.6%、「非常に思う」が40.3%となっている。

図. 文化の継承・発展、国内外への発信は意義があるか(単数回答, n=129)

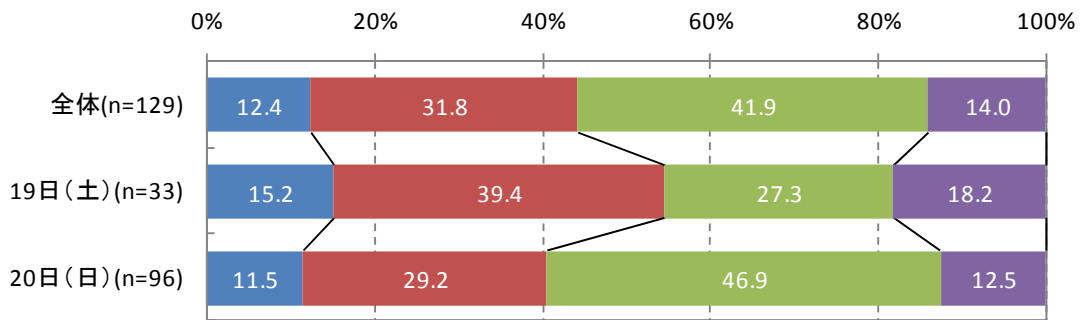


		非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	全体	52	55	5	0	1	16	129
	19日(土)	13	13	0	0	1	6	33
	20日(日)	39	42	5	0	0	10	96
割合(%)	全体(n=129)	40.3	42.6	3.9	0.0	0.8	12.4	100.0
	19日(土)(n=33)	39.4	39.4	0.0	0.0	3.0	18.2	100.0
	20日(日)(n=96)	40.6	43.8	5.2	0.0	0.0	10.4	100.0

③ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の取組を知っているか。

○ 日曜日は「全く知らない」が46.9%と高くなっている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を知っているか(単数回答, n=129)



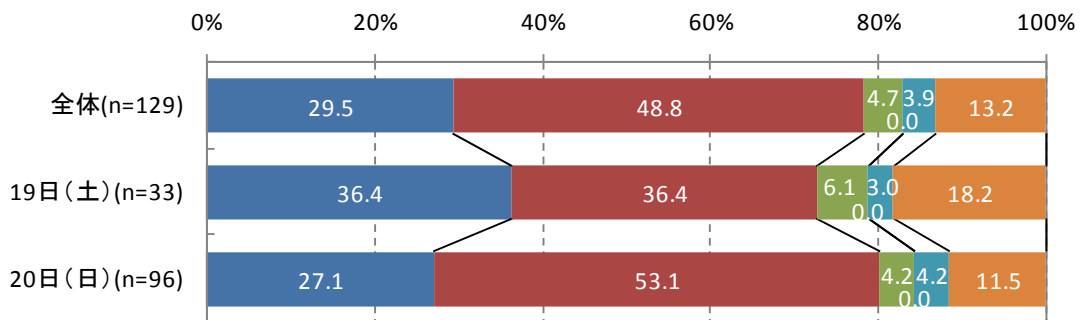
■ 内容まで知っている ■ 聞いたことはあるが、内容は知らない ■ 全く知らない ■ 無回答

		内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	全く知らない	無回答	計
件数	全体	16	41	54	18	129
	19日(土)	5	13	9	6	33
	20日(日)	11	28	45	12	96
割合(%)	全体(n=129)	12.4	31.8	41.9	14.0	100.0
	19日(土)(n=33)	15.2	39.4	27.3	18.2	100.0
	20日(日)(n=96)	11.5	29.2	46.9	12.5	100.0

④ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」のような取組を重要だと思うか。

○ 全体で「重要」が48.8%、「非常に重要」が29.5%となっている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」のような取組を重要だと思うか(単数回答, n=129)



■ 非常に重要 ■ 重要 ■ あまり重要でない ■ 全く重要でない ■ わからない ■ 無回答

		非常に重要	重要	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	計
件数	全体	38	63	6	0	5	17	129
	19日(土)	12	12	2	0	1	6	33
	20日(日)	26	51	4	0	4	11	96
割合(%)	全体(n=129)	29.5	48.8	4.7	0.0	3.9	13.2	100.0
	19日(土)(n=33)	36.4	36.4	6.1	0.0	3.0	18.2	100.0
	20日(日)(n=96)	27.1	53.1	4.2	0.0	4.2	11.5	100.0

(6) 関西の「本物の文化」をテーマとした取組について

【意見内容】

■当イベントの宣伝不足について

- ・ もっと宣伝したら良いと思います。もったいないです。
- ・ もう少し広く知らせたら良いのではないのでしょうか。関心のある人は多いと思います。
- ・ あまり宣伝がされていないようだったので、もう少し駅や電車の中などの広告が必要だと思う。
- ・ ここに来て初めて知りました。もっといろんな所で広報があるといいなと思いました。せっかくすばらしい行事があるのに残念です。
- ・ 宣伝不足。学校関係の仕事で茶道部もあるが、全て内容に関しての案内はない。関西文化の日のポスターさえ校内に貼られていない。

■文化の発信について

- ・ 伝統文化は伝えていかなければ残らないものです。人の心に残るよう努力してください。
- ・ 関西に埋もれている文化をPRしてほしい。
- ・ 関西発信を行う文化イベントはとても大事。京都、奈良以外でも外国からのお客様に案内できる場所を拡げていくべきと思う。
- ・ テレビ、映画、新聞等メディア、インターネットでの発信が大事。経済利益も得るように取り組む。
- ・ 関西、特に京都ではブランド力があると思っても、全国、海外となるとまだまだのところもある。そういう点で、関西が一体となって発信していくことは意味のある取組だと思う。
- ・ 歴史、遺物、色んな物が総合的にからむのが文化。もっとじっくりと腰をすえて公開講座やお茶教室などの体験講座を開いてほしい。
- ・ 落語や文楽なども発信してほしい。
- ・ 日本、関西らしさを打ち出す企画をどんどんやってください。
- ・ イベントとしてどしどしやってください。
- ・ 衣食住に関することから考えられたら身近にたくさんあるかと存じます。衣→和服、関西出身のコシノヒロコさん他、食→くいどうらくの大阪、黒門、京の錦市場、食材では昔の大阪かぶら、尼崎の尼いも、住→本家、湿度に強い工夫。

■教育の必要性

- ・ 幼稚園児にお茶のけいこの勉強をしてほしい。正座、礼、作法を知って、大きくなってからお茶のけいこを習えると思います。
- ・ 水都にしても統一性がない。イベントもこまぎれ。能、狂言も歴史があっても身近でない。全てが専門家にだけ任せ、教養に結びついてなく、中途半端。子供の時から教育に力を入れるべきだ。

■感謝の意見など

- ・ こういった機会があり、とても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・ 小笠原流のお席がすばらしかったです。豊松庵でのお茶会を毎月でも流派にこだわらずやっていただきたいです。
- ・ また来年も来ます。お茶会(学生と裏千家)、ためになりました。「イヌイヤグラ」作りがすごい。知りたいことがたくさんあります。また来年聞きに来ます。
- ・ チケット販売の方たちの対応がとても良かった。
- ・ 頑張ってください。

■アイデア、提案など

- ・ 茶道具販売があっても良かった。

- ・ 関西のお昼御飯を食べる所が欲しかったです。
- ・ 滋賀県で開催してください。

■その他

- ・ 「本物」の定義がわかりにくいですね。
- ・ どのような文化なのか教えてほしい。

「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」
“非公開茶室の見学”に関するアンケート調査
（大徳寺コース）

集計結果

平成 24 年 3 月

国土交通省 近畿地方整備局

- 目次 -

I. 実施概要	1
1. 実施概要	1
II. アンケート集計結果	1
1. アンケート集計結果	1
(1) 属性	1
(2) 本見学への参加・きっかけ・目的	3
(3) 本見学会への評価等	9
(4) 本プログラム全体について	17
(5) 関西の「本物の文化」の継承・発展に向けて	24
(6) 関西の「本物の文化」をテーマとした取組について	35

I. 実施概要

1. 実施概要

日時:平成 23 年 6 月 6 日(月)10 時 30 分～16 時 00 分

参加人数:33 名 (応募者多数のため「募集要項」に基づき抽選で参加者を決定)

対象:参加者

回収数:33 件

回収率:100.0%

行程:大徳寺(聚光院+三玄院+高桐院+孤篷庵)コース

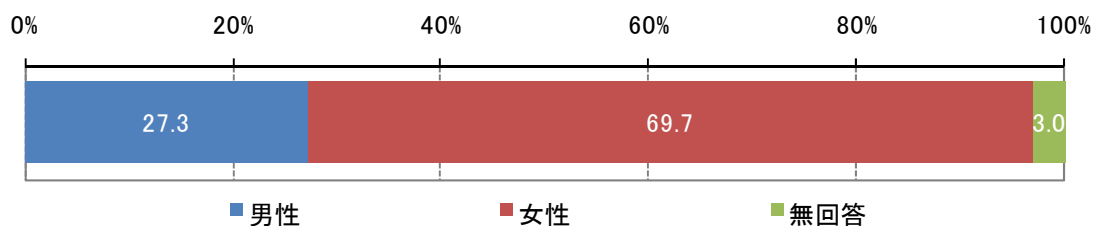
時間	項目
10:30～	大徳寺休憩所に集合・受付(参加費用徴収・資料配付) 実行委員長挨拶・解説案内者の紹介 (10 分)
10:40～	<small>じゅこういん</small> 聚光院(重要文化財茶室閑隠席・枳床席) (50 分)
11:30～	移動(徒歩) (5 分)
11:35～	<small>さんげんいん</small> 三玄院(茶室篁庵) (50 分)
12:25～	移動(徒歩) (10 分)
12:35～	屋食 <small>いづせん</small> 「泉仙」鉄鉢料理 (50 分)
13:25～	移動(徒歩) (10 分)
13:35～	<small>こうとういん</small> 高桐院(茶室松向軒・鳳葉席) (60 分) ※お抹茶とお菓子
14:35～	移動(徒歩) (15 分)
14:50～	<small>こほうあん</small> 孤篷庵(重要文化財茶室忘筌・山雲床) (60 分)
16:00～	解散

II. アンケート集計結果

1. アンケート集計結果

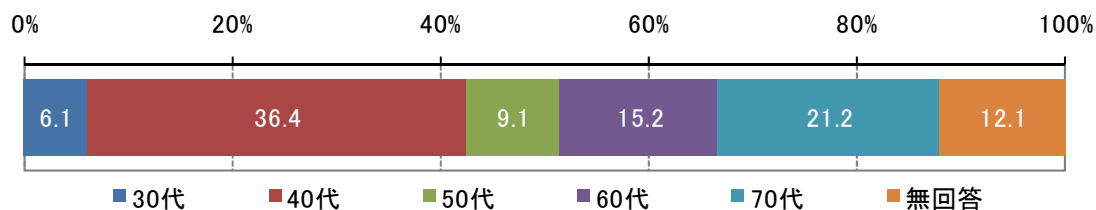
(1) 属性

① 性別



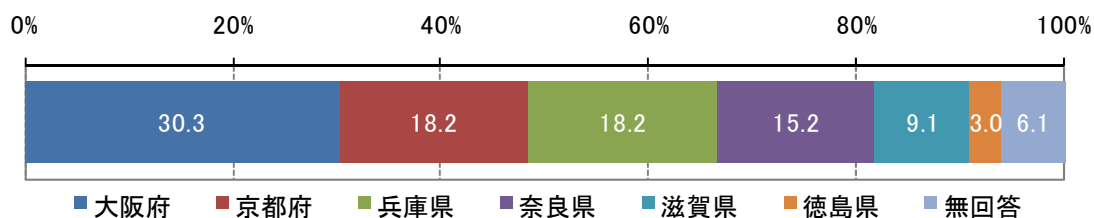
	男性	女性	無回答	計
件数	9	23	1	33
割合(%)	27.3	69.7	3.0	100.0

② 年齢



	30代	40代	50代	60代	70代	無回答	計
件数	2	12	3	5	7	4	33
割合(%)	6.1	36.4	9.1	15.2	21.2	12.1	100.0

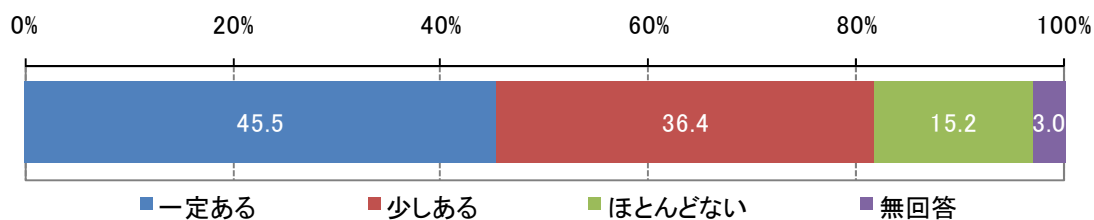
③ 居住地



	大阪府	京都府	兵庫県	奈良県	滋賀県	徳島県	無回答	計
件数	10	6	6	5	3	1	2	33
割合(%)	30.3	18.2	18.2	15.2	9.1	3.0	6.1	100.0

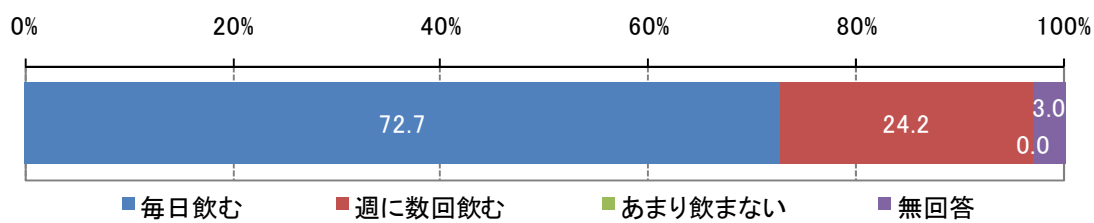
④ 「茶の文化」に関する活動

④-1. 茶道の経験・知識



	一定ある	少しある	ほとんどない	無回答	計
件数	15	12	5	1	33
割合 (%)	45.5	36.4	15.2	3.0	100.0

④-2. 日本茶を飲む習慣



	毎日飲む	週に数回飲む	あまり飲まない	無回答	計
件数	24	8	0	1	33
割合 (%)	72.7	24.2	0.0	3.0	100.0

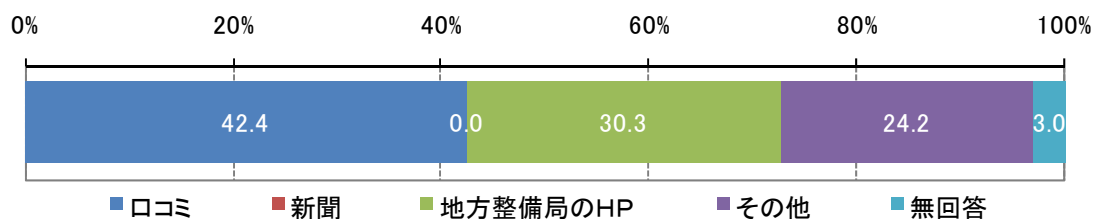
(2) 本見学への参加・きっかけ・目的

① 本見学会参加のきっかけ

【全体】

○ 「口コミ」が42.4%、「地方整備局のHP」が30.3%と高くなっている。

図. 本見学会参加のきっかけ(単数回答, n=33)



	口コミ	新聞	地方整備局のHP	その他	無回答	計
件数	14	0	10	8	1	33
割合 (%)	42.4	0.0	30.3	24.2	3.0	100.0

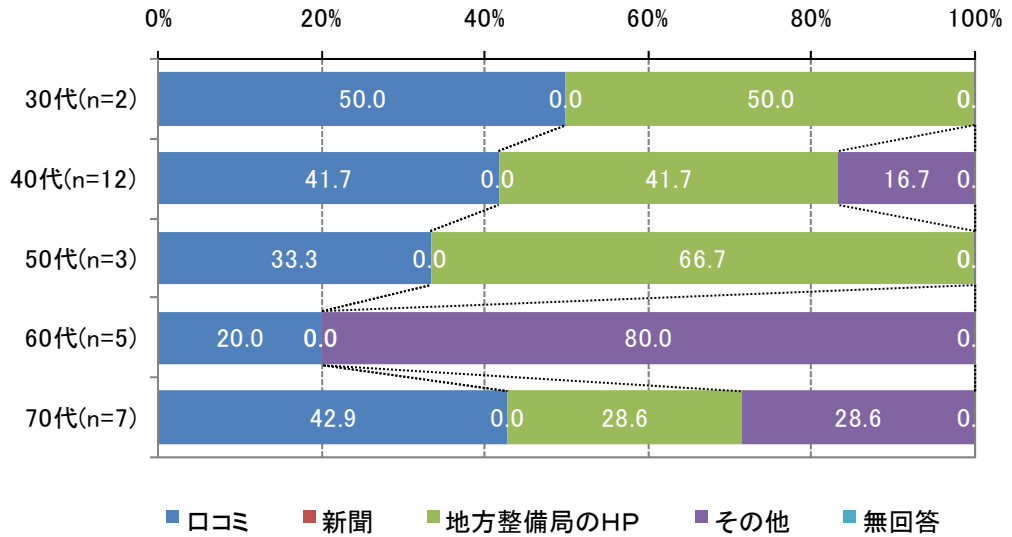
【「その他」内容】

- ・ 美術館紹介
- ・ 野村美術館で聞いた (2名)
- ・ ホームページ、メールマガジン

【年代別】

○ いずれの年代も「口コミ」・「地方整備局のHP」が高い割合となっているが、60代は「その他」（美術館の紹介など）が80.0%にのびた。

図. 本見学会参加のきっかけ(単数回答, n=29)

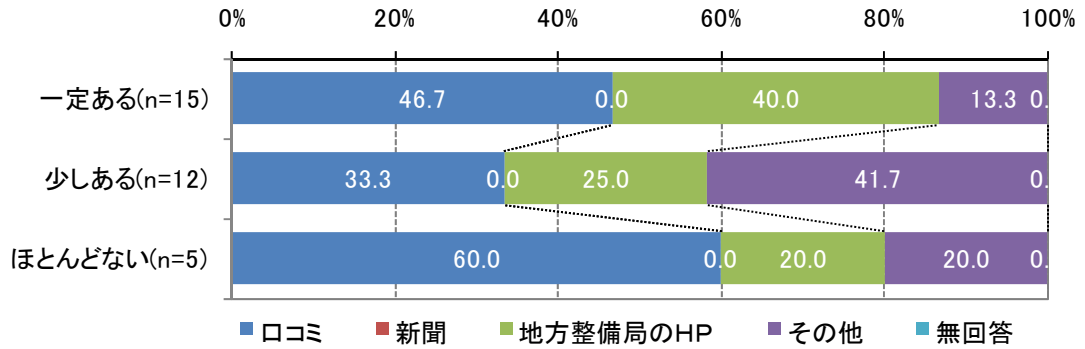


		口コミ	新聞	地方整備局のHP	その他	無回答	計
件数	30代	1	0	1	0	0	2
	40代	5	0	5	2	0	12
	50代	1	0	2	0	0	3
	60代	1	0	0	4	0	5
	70代	3	0	2	2	0	7
	無回答	3	0	0	0	1	4
割合(%)	30代(n=2)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=12)	41.7	0.0	41.7	16.7	0.0	100.0
	50代(n=3)	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	100.0
	60代(n=5)	20.0	0.0	0.0	80.0	0.0	100.0
	70代(n=7)	42.9	0.0	28.6	28.6	0.0	100.0
	無回答(n=4)	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 全体的に「口コミ」・「地方整備局のHP」が高いが、茶道の経験が「少しある」人では「その他」（美術館の紹介など）が41.7%と高くなっている。

図. 本見学会参加のきっかけ(単数回答, n=32)



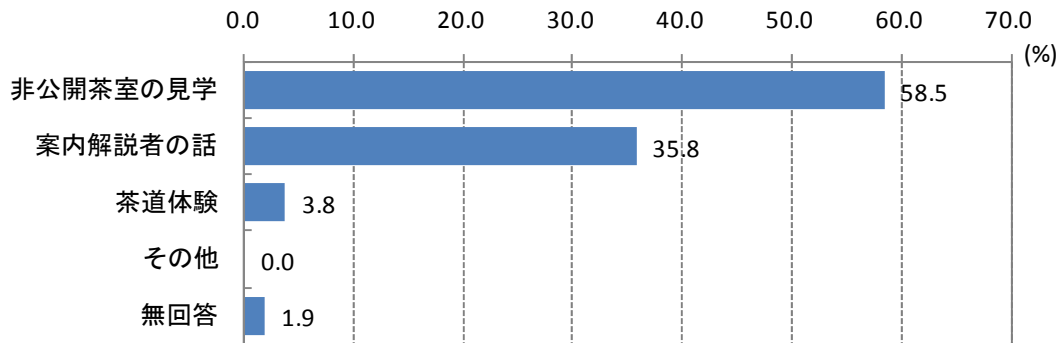
		口コミ	新聞	地方整備局のHP	その他	無回答	計
件数	一定ある	7	0	6	2	0	15
	少しある	4	0	3	5	0	12
	ほとんどない	3	0	1	1	0	5
	無回答	0	0	0	0	1	1
割合(%)	一定ある(n=15)	46.7	0.0	40.0	13.3	0.0	100.0
	少しある(n=12)	33.3	0.0	25.0	41.7	0.0	100.0
	ほとんどない(n=5)	60.0	0.0	20.0	20.0	0.0	100.0
	無回答(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0

② 本見学会への参加目的

【全体】

○ 「非公開茶室の見学」が58.5%、「案内解説者の話」が35.8%と高くなっている。

図. 本見学会への参加目的(複数回答, n=33)

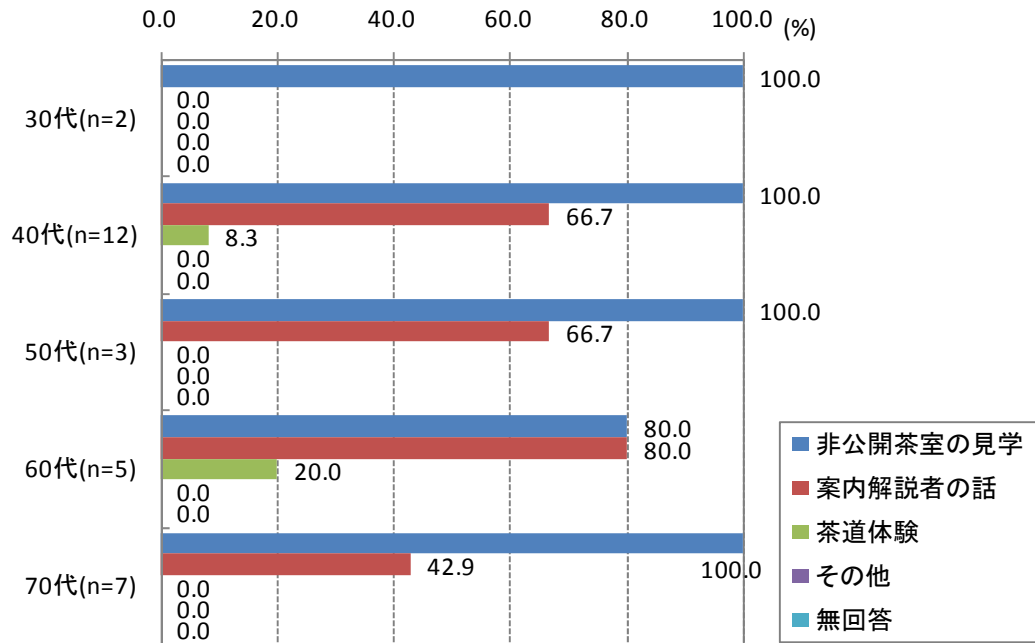


	件数	割合 (%)
非公開茶室の見学	31	58.5
案内解説者の話	19	35.8
茶道体験	2	3.8
その他	0	0.0
無回答	1	1.9
	53	

【年代別】

○ 60代を除く全ての年代で、100%の人が「非公開茶室の見学」と答えている。

図. 本見学会への参加目的(複数回答, n=29)

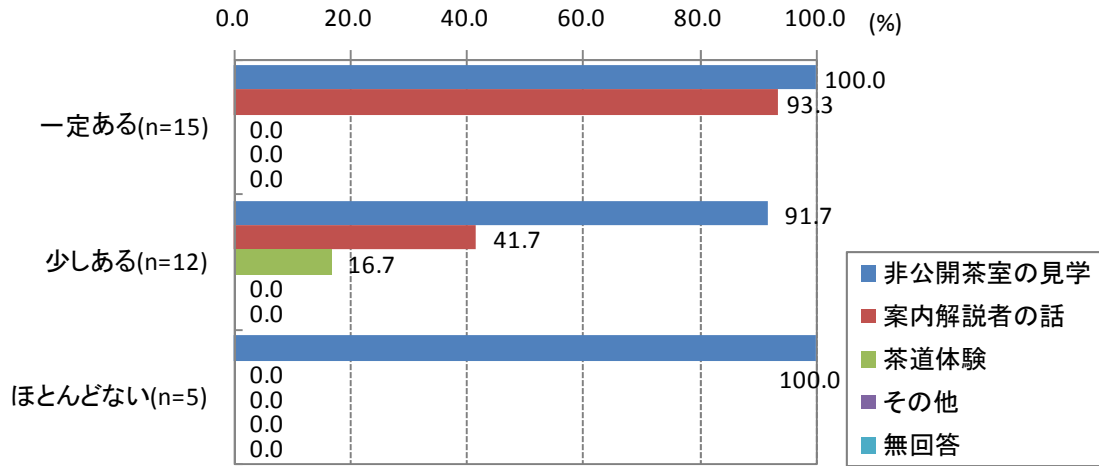


		非公開茶室の見学	案内解説者の話	茶道体験	その他	無回答
件数	30代	2	0	0	0	0
	40代	12	8	1	0	0
	50代	3	2	0	0	0
	60代	4	4	1	0	0
	70代	7	3	0	0	0
	無回答	3	2	0	0	1
割合 (%)	30代(n=2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40代(n=12)	100.0	66.7	8.3	0.0	0.0
	50代(n=3)	100.0	66.7	0.0	0.0	0.0
	60代(n=5)	80.0	80.0	20.0	0.0	0.0
	70代(n=7)	100.0	42.9	0.0	0.0	0.0
	無回答(n=4)	75.0	50.0	0.0	0.0	25.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道経験の有無に関わらず「非公開茶室の見学」の回答者が多いが、「一定ある」人では「案内解説者の話」が93.3%と高くなっている。

図. 本見学会への参加目的(複数回答, n=32)



		非公開茶室の見学	案内解説者の話	茶道体験	その他	無回答
件数	一定ある	15	14	0	0	0
	少しある	11	5	2	0	0
	ほとんどない	5	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	1
割合(%)	一定ある(n=15)	100.0	93.3	0.0	0.0	0.0
	少しある(n=12)	91.7	41.7	16.7	0.0	0.0
	ほとんどない(n=5)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

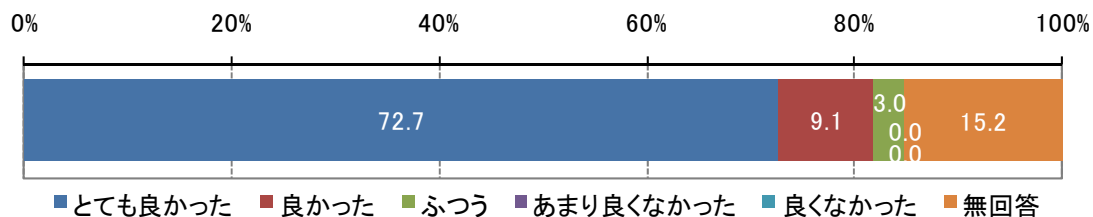
(3) 本見学会への評価等

① 全体評価

【全体】

○ 「とても良かった」・「良かった」合わせて81.8%となっている。

図. 本見学会の全体評価(単数回答, n=33)

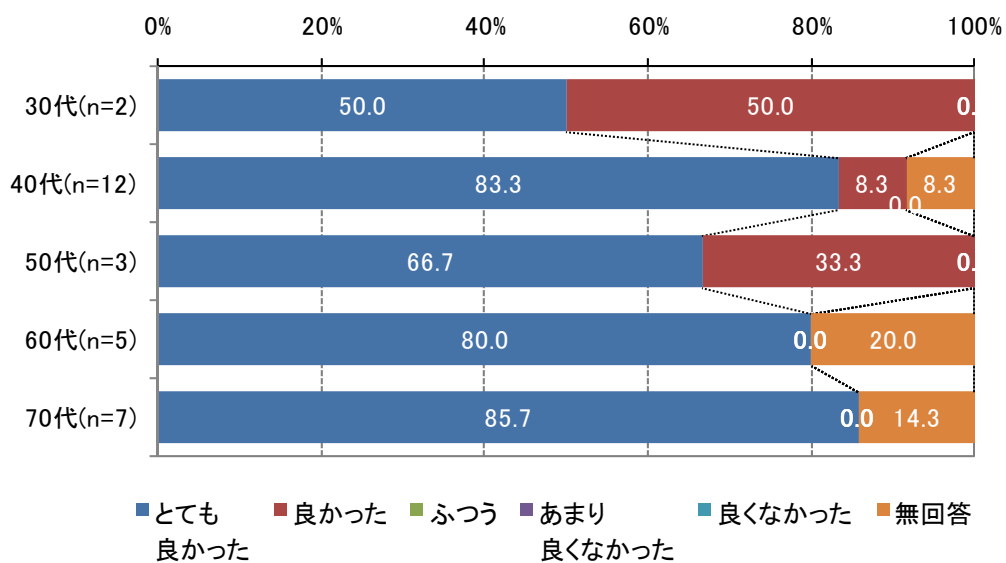


	とても良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	計
件数	24	3	1	0	0	5	33
割合 (%)	72.7	9.1	3.0	0.0	0.0	15.2	100.0

【年代別】

○ いずれの年代も「とても良かった」が高い割合となっている。

図. 本見学会の全体評価(単数回答, n=29)

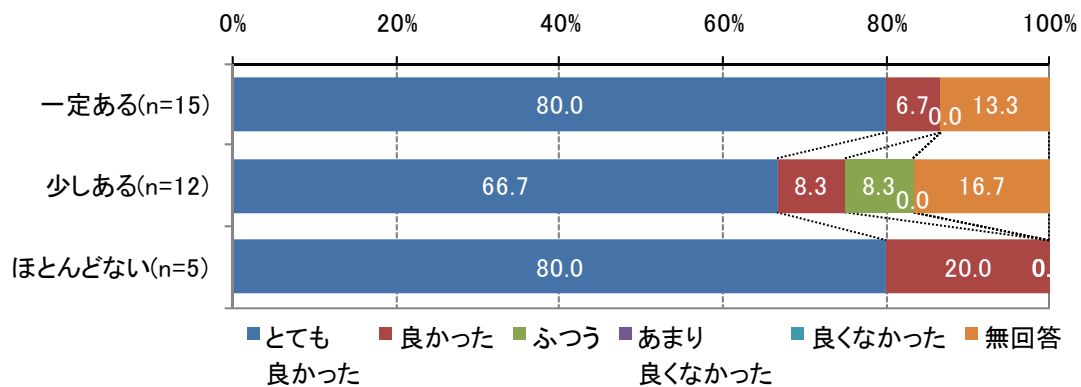


		とても良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	計
件数	30代	1	1	0	0	0	0	2
	40代	10	1	0	0	0	1	12
	50代	2	1	0	0	0	0	3
	60代	4	0	0	0	0	1	5
	70代	6	0	0	0	0	1	7
	無回答	1	0	1	0	0	2	4
割合(%)	30代(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=12)	83.3	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	100.0
	50代(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=5)	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	100.0
	70代(n=7)	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	100.0
	無回答(n=4)	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道の経験有無に関わらず「とても良かった」が高い割合となっている。

図. 本見学会の全体評価(単数回答, n=32)



		とても良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	計
件数	一定ある	12	1	0	0	0	2	15
	少しある	8	1	1	0	0	2	12
	ほとんどない	4	1	0	0	0	0	5
	無回答	0	0	0	0	0	1	1
割合(%)	一定ある(n=15)	80.0	6.7	0.0	0.0	0.0	13.3	100.0
	少しある(n=12)	66.7	8.3	8.3	0.0	0.0	16.7	100.0
	ほとんどない(n=5)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	無回答(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0

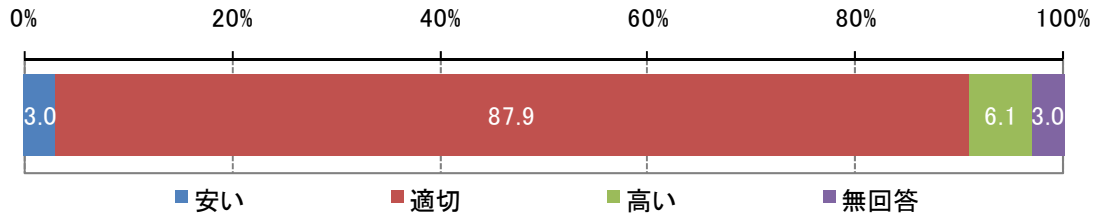
② 費用・時間に関する評価

②-1. 費用について

【全体】

○ 87.9%が「適切」と答え、「高い」と答えたのは6.1%にとどまった。

図. 費用についての評価(単数回答, n=33)

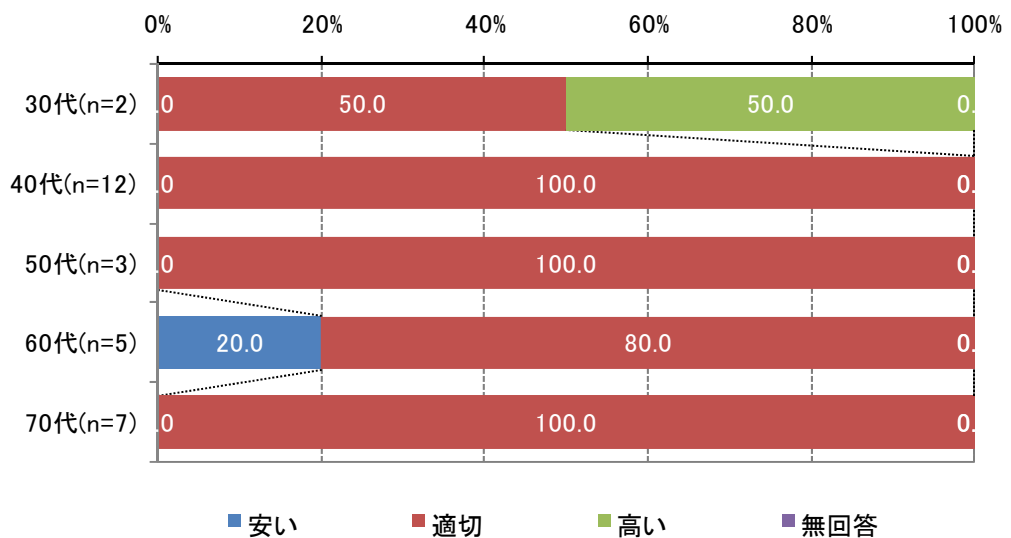


	安い	適切	高い	無回答	計
件数	1	29	2	1	33
割合 (%)	3.0	87.9	6.1	3.0	100.0

【年代別】

○ いずれの年代も「適切」が高い割合となっている。

図. 費用についての評価(単数回答, n=29)

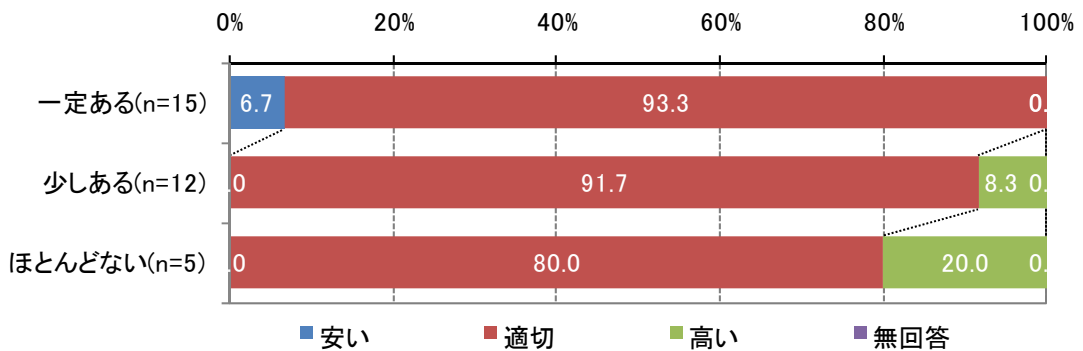


		安い	適切	高い	無回答	計
件数	30代	0	1	1	0	2
	40代	0	12	0	0	12
	50代	0	3	0	0	3
	60代	1	4	0	0	5
	70代	0	7	0	0	7
	無回答	0	2	1	1	4
割合(%)	30代(n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	100.0
	40代(n=12)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=3)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=5)	20.0	80.0	0.0	0.0	100.0
	70代(n=7)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	無回答(n=4)	0.0	50.0	25.0	25.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 全体として「適切」の回答が圧倒的に高い割合となったが、茶道の経験が「一定ある」人では「安い」と答えた人が6.7%おり、逆に経験が「ほとんどない」人では「高い」が20.0%になった。

図. 費用についての評価(単数回答, n=32)



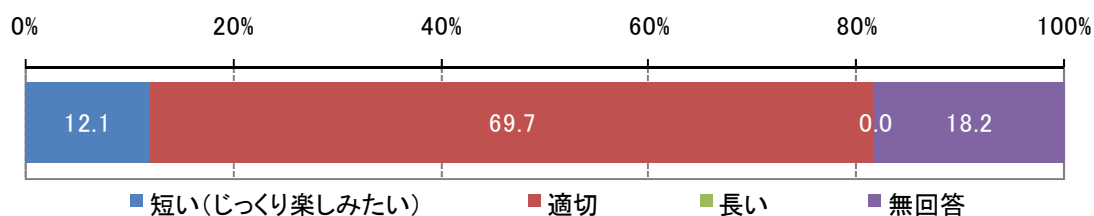
		安い	適切	高い	無回答	計
件数	一定ある	1	14	0	0	15
	少しある	0	11	1	0	12
	ほとんどない	0	4	1	0	5
	無回答	0	0	0	1	1
割合(%)	一定ある(n=15)	6.7	93.3	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=12)	0.0	91.7	8.3	0.0	100.0
	ほとんどない(n=5)	0.0	80.0	20.0	0.0	100.0
	無回答(n=1)	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0

②-2. 時間について

【全体】

○ 「適切」が69.7%と高いが、「短い」と回答した人も12.1%いた。逆に「長い」と答えた人は0.0%であった。

図. 時間についての評価(単数回答, n=33)

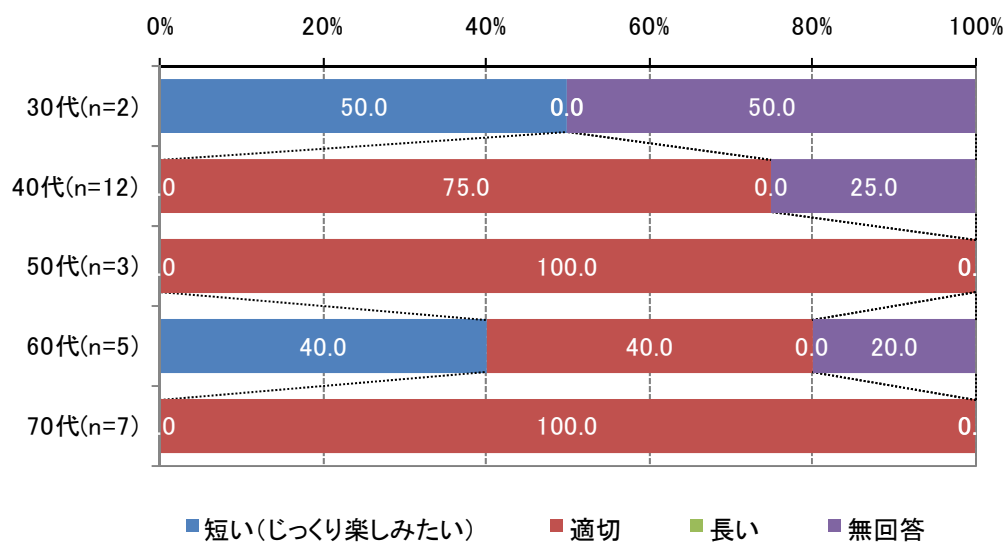


	短い(じっくり楽しみたい)	適切	長い	無回答	計
件数	4	23	0	6	33
割合 (%)	12.1	69.7	0.0	18.2	100.0

【年代別】

○ 全体的に「適切」が高い割合になっているが、60代では「短い」が40%でやや高くなっている。

図. 時間についての評価(単数回答, n=29)

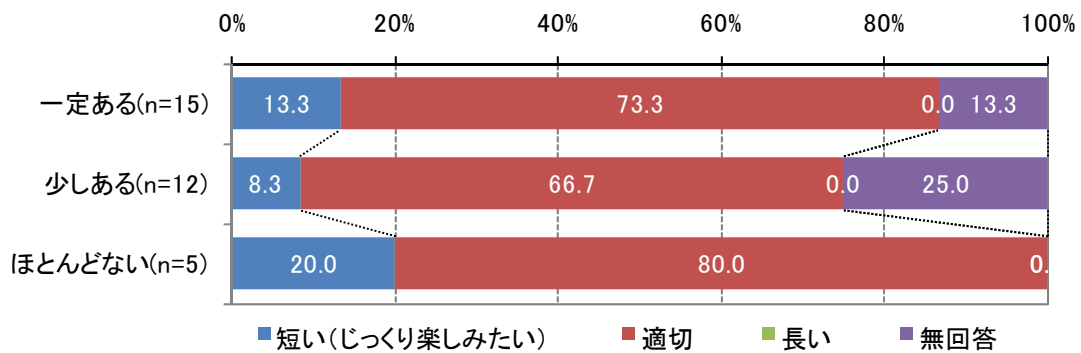


		短い(じっくり 楽しみたい)	適切	長い	無回答	計
件数	30代	1	0	0	1	2
	40代	0	9	0	3	12
	50代	0	3	0	0	3
	60代	2	2	0	1	5
	70代	0	7	0	0	7
	無回答	1	2	0	1	4
割合(%)	30代(n=2)	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0
	40代(n=12)	0.0	75.0	0.0	25.0	100.0
	50代(n=3)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=5)	40.0	40.0	0.0	20.0	100.0
	70代(n=7)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	無回答(n=4)	25.0	50.0	0.0	25.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ いずれも「適切」の割合が高くなっている。

図. 時間についての評価(単数回答, n=32)



		短い(じっくり 楽しみたい)	適切	長い	無回答	計
件数	一定ある	2	11	0	2	15
	少しある	1	8	0	3	12
	ほとんどない	1	4	0	0	5
	無回答	0	0	0	1	1
割合(%)	一定ある(n=15)	13.3	73.3	0.0	13.3	100.0
	少しある(n=12)	8.3	66.7	0.0	25.0	100.0
	ほとんどない(n=5)	20.0	80.0	0.0	0.0	100.0
	無回答(n=1)	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0

③ 本見学会で特に良かったと思う点

【意見内容】

■先生の解説が良かった

- ・ 中村先生の話が良かった。
- ・ 中村先生の説明がとても細かく良かった。
- ・ 中村先生の懇切丁寧な説明。
- ・ 中村先生の話はとても良かった。利休前後の関係がわかりやすかった。
- ・ 講話、中村先生の説明が非常に良かった。ありがとうございました。
- ・ 中村先生の茶室の説明が大変解りやすく裏千家学園での授業を思い出した。
- ・ 中村先生の細部にわたる詳しい話で、今まで気づくことができなかったことも多く学ばせていただき、大変感じ入った。
- ・ 中村先生の講義は大変勉強になった。今後は見方、捉え方を勉強したい。
- ・ 中村先生とお寺の関係に負うところが多く全てが救われている。中村先生には感謝したい。
- ・ 中村先生、岩崎先生の説明。その時代に思いを馳せながら貴重な茶室を拝見させていただいた。
- ・ 数寄屋造り、書院、茶、座禅のことなど、非常に詳しく説明いただき、本当に良かった。自分も茶の道に益々精進したいと思う。
- ・ 先生の話がすばらしかった。
- ・ 先生の説明が良かった。

■非公開茶室の見学を先生の解説付きでできたことが良かった

- ・ 中村先生の解説付きで見学できたことがとても良かった。
- ・ 非公開茶室を中村先生の解説を拝聴しながら見学できたこと。
- ・ 普段見学することのできない茶室を中村先生の講義を聞きながら見学できたこと。
- ・ 非公開の茶室を中村先生・岩崎先生の案内で拝見できたこと。
- ・ 実際に茶室に入ることができ、良い解説を聞くことができた。本でしか知らなかった茶席ばかりで、本当に充実した一日であった。
- ・ なかなか見られない茶室が見学できたこと。見るだけでは感じとれないことが多く、説明いただくことでよく理解できた。
- ・ 普通入れない茶室に入れたこと。中村先生の解説を聞いたことが大変参考になった。
- ・ 茶室のことが少しわかったので、これから茶室見学に行ったときに楽しく過ごせそうである。和尚さんの話や襖絵がすぐ近くで見られたのもとても良かった。

■非公開茶室を見学できたことがよかった

- ・ 珍しい茶室、知らなかった茶室を拝見できてよかった。
- ・ 茶室が機能的で優美であることに感動した。
- ・ 茶室の創り方が種々異なるのが面白く勉強になった。
- ・ 非公開茶室の見学、庭園。
- ・ 三玄院の見学。忘筌見学。心が引き締まる印象を受けた。
- ・ 忘筌庵見学。

■その他

- ・ 自分以外は茶道関係の方が多かったと思うが、参加者側に一定の知識があるため、進行がスムーズだったと思う。
- ・ 先生方をはじめ、事務局の皆様の行き届いた配慮に心より感謝申し上げます。お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・ 全て良かった。

④ 本見学会をより良くするためのアイデア(プログラム構成等)

【意見内容】

■プログラム構成・運営について

- ・ 時間配分(しかし説明はとても詳しく伺いたいので、時間配分が狂うのも理解できる)。
- ・ (難しいと思うが)段取りを良くしたら、先生の話などがもっとたくさん聞けるのではないかな。
- ・ 係の方が作業を分担し、もう少し工程をスムーズにしていただけると良いと思う。
- ・ 「茶の文化」といいながら、その本質である「もてなしの心」がまったくツアーに活かされていない。仕方なくついてくるだけの役人は不快でさえある。実費とある費用についてはHPで公開してほしい。もてなすべき人がどうあるべきか少し学ぶべき。

■今回の内容で充分満足した

- ・ 改善すべき点なし。
- ・ 特に思い浮かばない。
- ・ 今回の見学会で充分満足した。
- ・ お世話になった。勉強になった。

■今後への期待など

- ・ 非公開茶室をまた拝見したいと思う。
- ・ 一般には非公開の茶室は見学できないし、茶室の中に入れることはほとんどないと思う。今後もこのような機会を多く設けていただけると嬉しく思う。また、近代建築・現代建築・数奇屋建築など、会社ビル・住居などもなかなか拝見できず残念である。関西には素晴らしい文化があるので、勉強する機会が増えると大変嬉しい。
- ・ 大変有意義であり、茶道の根本的な要素である茶室の最高峰のものを拝観させていただき、わかりやすい解説も聞くことができたが、いかんせん少人数しか体験できない。回数を増やすなどの対策が必要と思う。ニーズは高いと思う。
- ・ 煎茶(黄檗山)の企画も楽しいと思う。

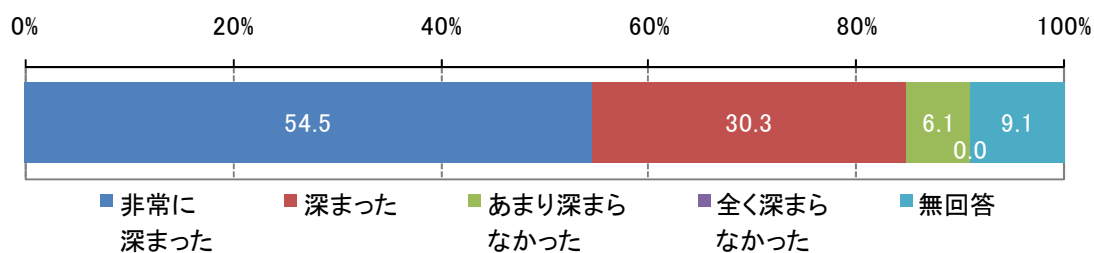
(4) 本プログラム全体について

① 今回のプログラムを通じて、「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか。

【全体】

○ 「非常に深まった」・「深まった」合わせて84.8%となっている。

図. 「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか(単数回答, n=33)

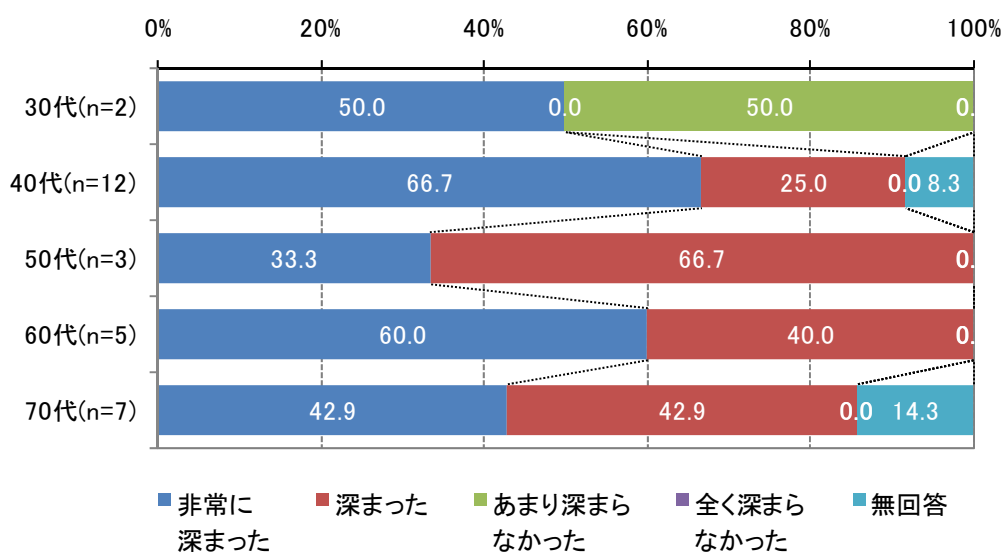


	非常に深まった	深まった	あまり深まらなかった	全く深まらなかった	無回答	計
件数	18	10	2	0	3	33
割合 (%)	54.5	30.3	6.1	0.0	9.1	100.0

【年代別】

○ いずれの年代も「非常に深まった」・「深まった」が高い割合となっているが30代では「あまり深まらなかった」の回答もあった。

図. 「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか(単数回答, n=29)

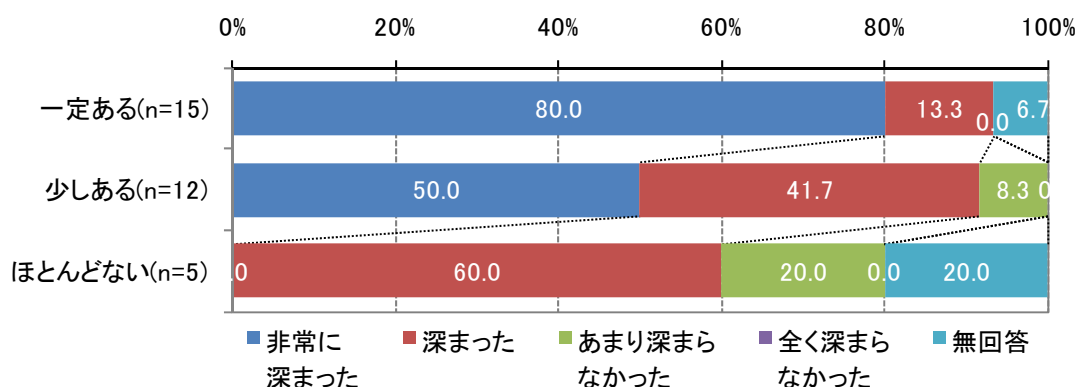


		非常に深まった	深まった	あまり深まらなかった	全く深まらなかった	無回答	計
件数	30代	1	0	1	0	0	2
	40代	8	3	0	0	1	12
	50代	1	2	0	0	0	3
	60代	3	2	0	0	0	5
	70代	3	3	0	0	1	7
	無回答	2	0	1	0	1	4
割合(%)	30代(n=2)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=12)	66.7	25.0	0.0	0.0	8.3	100.0
	50代(n=3)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=5)	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代(n=7)	42.9	42.9	0.0	0.0	14.3	100.0
	無回答(n=4)	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道の経験が「一定ある」人は「非常に深まった」が 80.0%と高くなっているが、逆に経験が「ほとんどない」人は「非常に深まった」が 0%、「あまり深まらなかった」が 20.0%になった。

図. 「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか(単数回答, n=32)



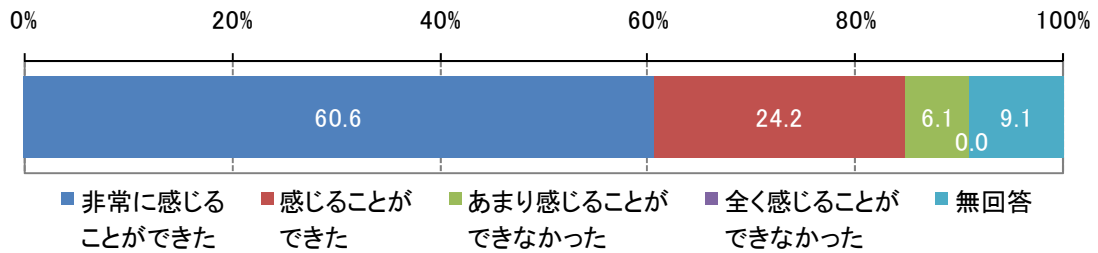
		非常に深まった	深まった	あまり深まらなかった	全く深まらなかった	無回答	計
件数	一定ある	12	2	0	0	1	15
	少しある	6	5	1	0	0	12
	ほとんどない	0	3	1	0	1	5
	無回答	0	0	0	0	1	1
割合(%)	一定ある(n=15)	80.0	13.3	0.0	0.0	6.7	100.0
	少しある(n=12)	50.0	41.7	8.3	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=5)	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0	100.0
	無回答(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0

② 今回のプログラムを通じて、関西の「本物の文化」を感じることができたか。

【全体】

○ 「非常に感じる事ができた」・「感じる事ができた」合わせて 84.6%となっている。

図. 関西の「本物の文化」を感じることができたか(単数回答, n=33)

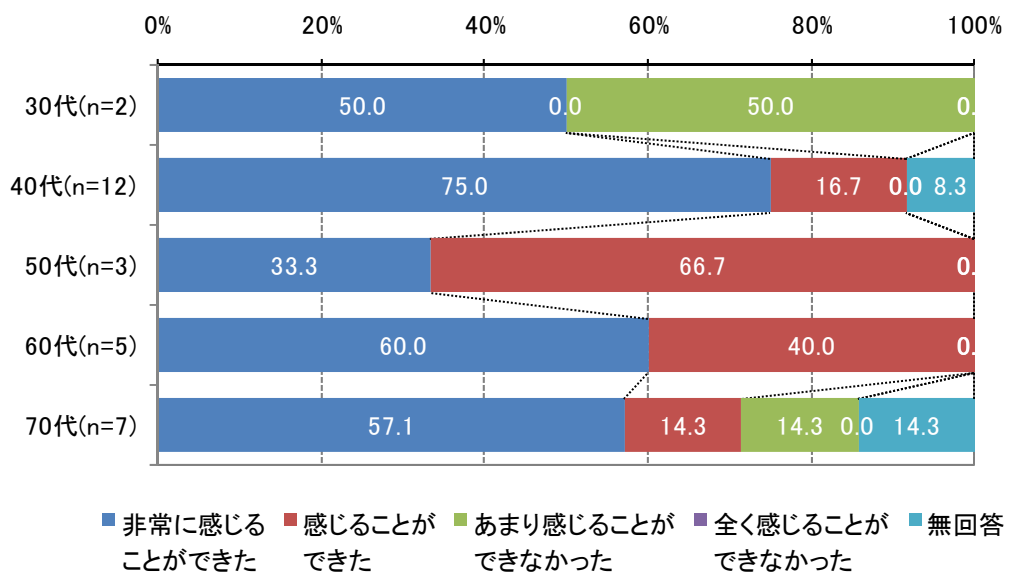


	非常に感じる事ができた	感じる事ができた	あまり感じる事ができなかった	全く感じる事ができなかった	無回答	計
件数	20	8	2	0	3	33
割合 (%)	60.6	24.2	6.1	0.0	9.1	100.0

【年代別】

○ 全体として「非常に感じる事ができた」・「感じる事ができた」が多く占めるが、30代・70代では「あまり感じる事ができなかった」の回答もあった。

図. 関西の「本物の文化」を感じることができたか(単数回答, n=29)

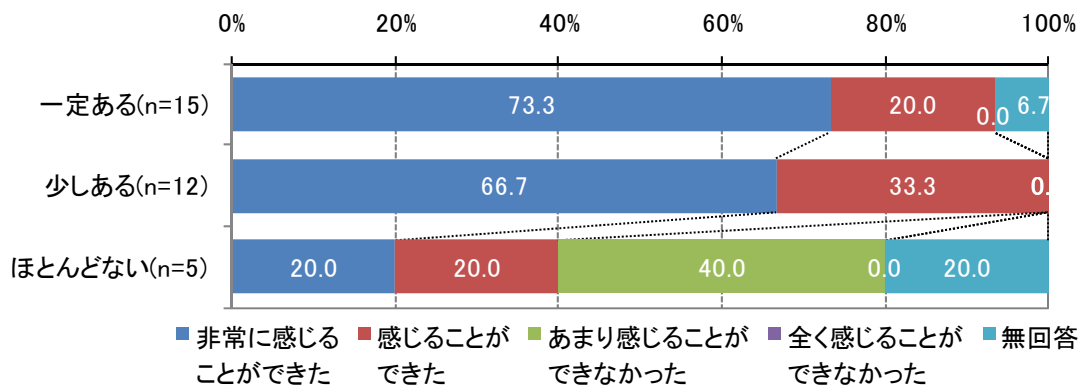


		非常に感じる ことができた	感じるこ とができ た	あまり感 じるこ とが できな かった	全く感 じるこ とが できな かった	無回答	計
件数	30代	1	0	1	0	0	2
	40代	9	2	0	0	1	12
	50代	1	2	0	0	0	3
	60代	3	2	0	0	0	5
	70代	4	1	1	0	1	7
	無回答	2	1	0	0	1	4
割合(%)	30代(n=2)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=12)	75.0	16.7	0.0	0.0	8.3	100.0
	50代(n=3)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=5)	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代(n=7)	57.1	14.3	14.3	0.0	14.3	100.0
	無回答(n=4)	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道の経験がほとんどない人では「あまり感じる事ができなかった」の割合が40.0%と高くなっている。

図. 関西の「本物の文化」を感じる事ができたか(単数回答, n=32)



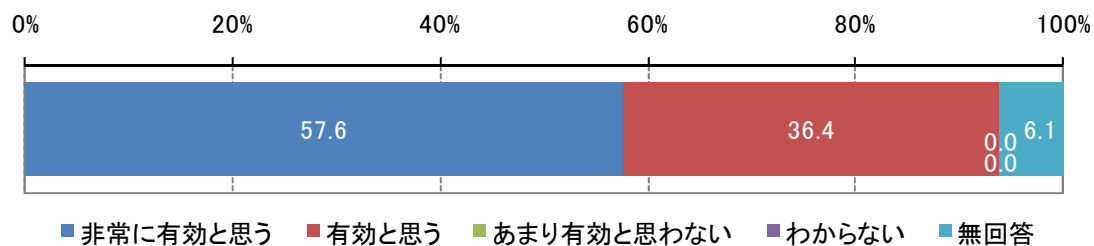
		非常に感じる ことができた	感じるこ とができ た	あまり感 じるこ とが できな かった	全く感 じるこ とが できな かった	無回答	計
件数	一定ある	11	3	0	0	1	15
	少しある	8	4	0	0	0	12
	ほとんどない	1	1	2	0	1	5
	無回答	0	0	0	0	1	1
割合(%)	一定ある(n=15)	73.3	20.0	0.0	0.0	6.7	100.0
	少しある(n=12)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=5)	20.0	20.0	40.0	0.0	20.0	100.0
	無回答(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0

③ 今回のプログラムは、関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効と思うか。

【全体】

○ 「非常に有効と思う」・「有効と思う」が合わせて94.0%となっており、「あまり有効と思わない」・「わからない」と答えた人はいなかった。

図. 関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効か(単数回答, n=33)

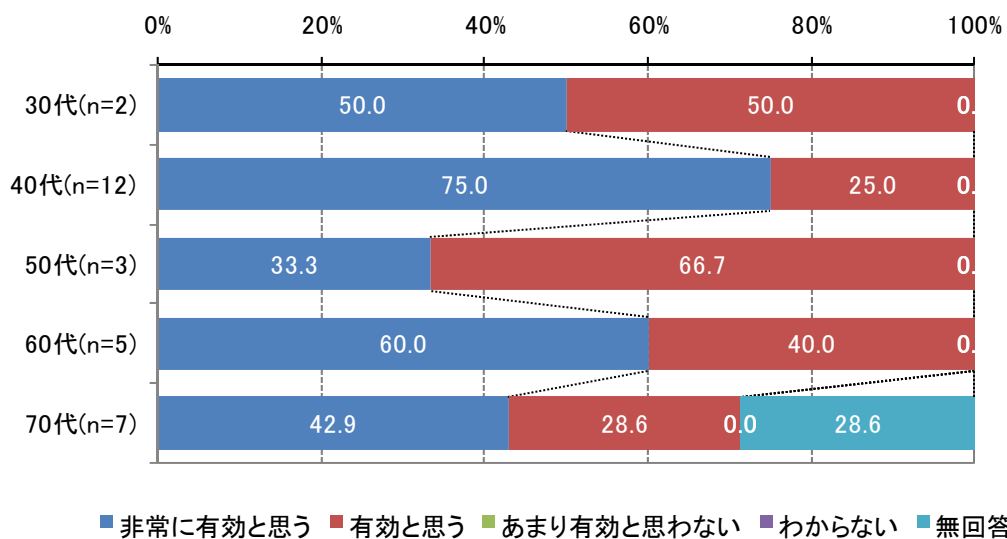


	非常に有効と思う	有効と思う	あまり有効と思わない	わからない	無回答	計
件数	19	12	0	0	2	33
割合 (%)	57.6	36.4	0.0	0.0	6.1	100.0

【年代別】

○ いずれの年代も「非常に有効と思う」・「有効と思う」が高くなっている。

図. 関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効か(単数回答, n=29)

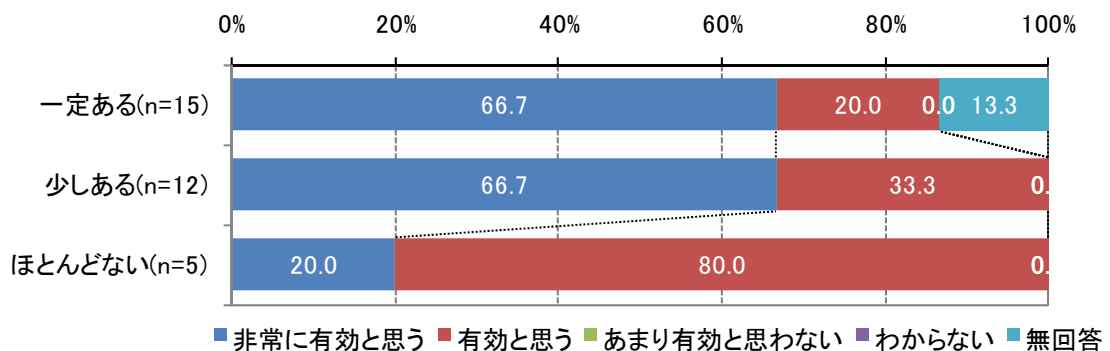


		非常に有効 と思う	有効と思う	あまり有効と 思わない	わからない	無回答	計
件数	30代	1	1	0	0	0	2
	40代	9	3	0	0	0	12
	50代	1	2	0	0	0	3
	60代	3	2	0	0	0	5
	70代	3	2	0	0	2	7
	無回答	2	2	0	0	0	4
割合(%)	30代(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=12)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=3)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=5)	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代(n=7)	42.9	28.6	0.0	0.0	28.6	100.0
	無回答(n=4)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道の経験が「一定ある」・「少しある」人は「非常に有効と思う」がともに 66.7%であったが、経験が「ほとんどない」人は「非常に有効と思う」が 20.0%にとどまっている。

図. 関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効か(単数回答, n=32)



		非常に有効 と思う	有効と思う	あまり有効と 思わない	わからない	無回答	計
件数	一定ある	10	3	0	0	2	15
	少しある	8	4	0	0	0	12
	ほとんどない	1	4	0	0	0	5
	無回答	0	1	0	0	0	1
割合(%)	一定ある(n=15)	66.7	20.0	0.0	0.0	13.3	100.0
	少しある(n=12)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=5)	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	無回答(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0

④ 関西の「茶の文化」に関して、見学・体験してみたいプログラムに関してアイデア。

【意見内容】

■今回のような茶室見学

- ・ 今回のような見学が多くあるように願う。
- ・ 今回のようなプログラムを継続して開催していただきたい。
- ・ 今回の延長線にあるものを体験したい。
- ・ 茶室見学の2回目・3回目のコースにも是非参加できることが一番の願いである。
- ・ 茶室見学。
- ・ 次回以降のプログラムもぜひ参加したい。抽選にもれるとかなわないので同じプログラムで企画していただけると嬉しい。
- ・ 大徳寺の他の茶室の見学。(龍光院、密庵席は特に。他も内部にはなかなか入ることができないので。)

■その他

- ・ 茶室の見学だけでなく、茶道具に関することも実際に見ながら説明を聞いてみたい。
- ・ 茶会（大茶会ではなく）。
- ・ 西大寺大茶盛。
- ・ 茶の製造工場に行ってみたい。
- ・ 懐石料理の調理を体験してみたい。自分でいつか作ってみたいとかねがね考えていたので。
- ・ 村野藤吾氏の建築作品（茶室）。
- ・ 竹中工務店の建築作品（茶室）。

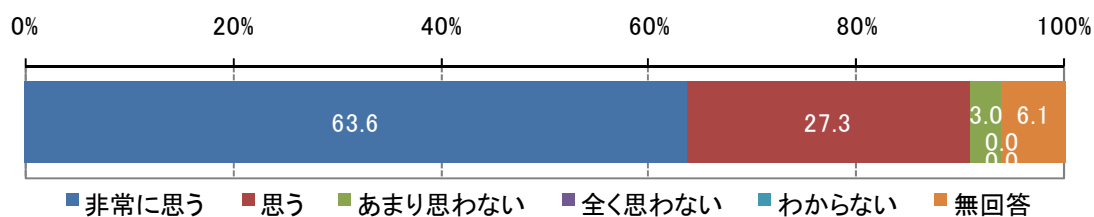
(5) 関西の「本物の文化」の継承・発展に向けて

① 関西の「本物の文化」が今も根付く、我が国一番の地域(文化首都)だと思うか。

【全体】

○ 「非常に思う」・「思う」が合わせて90.9%となっている。

図. 関西は文化首都と思うか(単数回答, n=33)

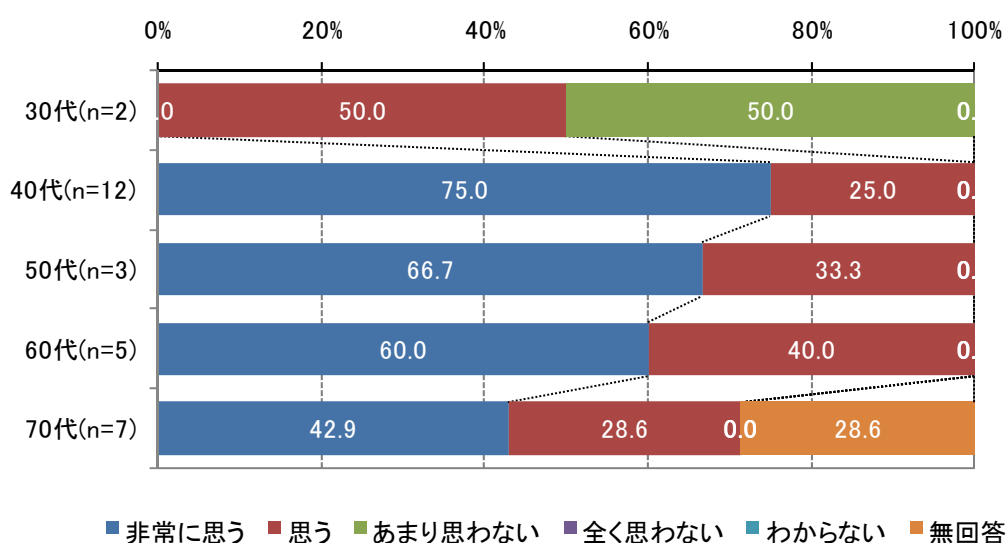


	非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	21	9	1	0	0	2	33
割合 (%)	63.6	27.3	3.0	0.0	0.0	6.1	100.0

【年代別】

○ いずれの年代も「非常に思う」・「思う」が高いが、30代では「非常に思う」が0.0%であり、「あまり思わない」が50.0%であった。

図. 関西は文化首都と思うか(単数回答, n=29)

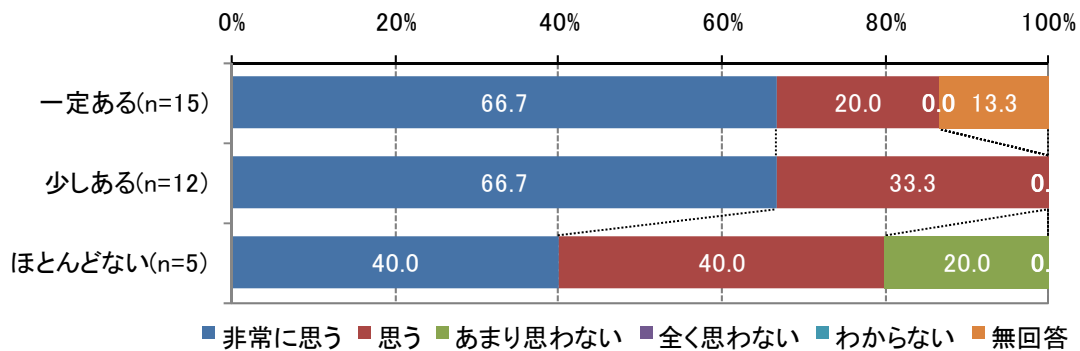


		非常に 思う	思う	あまり 思わない	全く 思わない	わからない	無回答	計
件数	30代	0	1	1	0	0	0	2
	40代	9	3	0	0	0	0	12
	50代	2	1	0	0	0	0	3
	60代	3	2	0	0	0	0	5
	70代	3	2	0	0	0	2	7
	無回答	4	0	0	0	0	0	4
割合(%)	30代(n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=12)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=5)	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代(n=7)	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0	28.6	100.0
	無回答(n=4)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 全体的に「非常に思う」・「思う」が高い割合となっているが、茶道経験が「ほとんどない」人では「あまり思わない」が20.0%となった。

図. 関西は文化首都と思うか(単数回答, n=32)



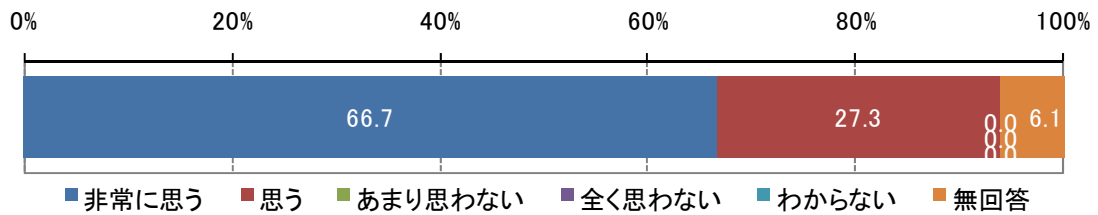
		非常に 思う	思う	あまり 思わない	全く 思わない	わからない	無回答	計
件数	一定ある	10	3	0	0	0	2	15
	少しある	8	4	0	0	0	0	12
	ほとんどない	2	2	1	0	0	0	5
	無回答	1	0	0	0	0	0	1
割合(%)	一定ある(n=15)	66.7	20.0	0.0	0.0	0.0	13.3	100.0
	少しある(n=12)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=5)	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	無回答(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

② 関西が「本物の文化」をテーマとし、文化の継承・発展に取り組むとともに、国内外へ発信することに意義があると思うか。

【全体】

○ 「非常に思う」・「思う」合わせて 94.0% となっており、「あまり思わない」・「思わない」の回答はなかった。

図. 文化の継承・発展、国内外への発信は意義があるか(単数回答, n=33)

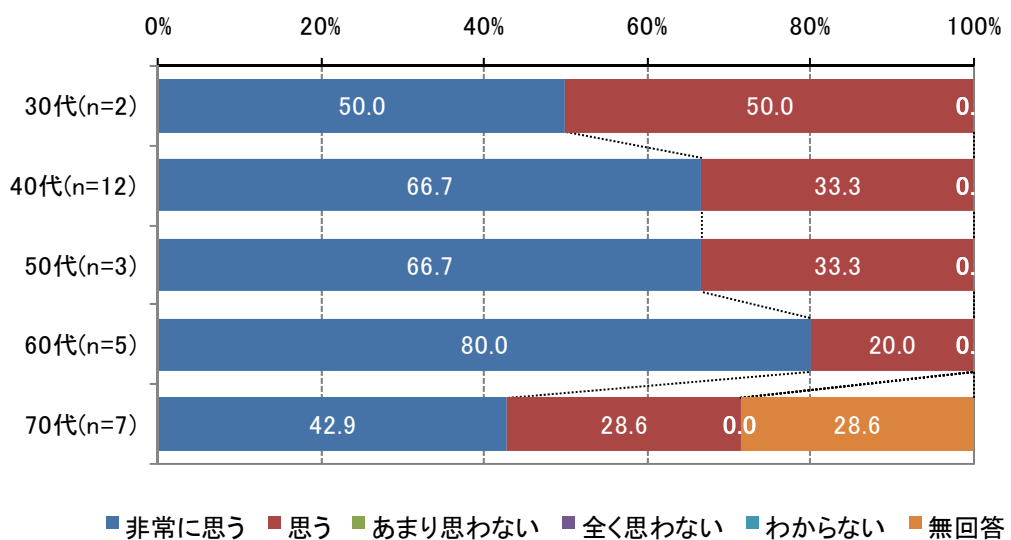


	非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	22	9	0	0	0	2	33
割合 (%)	66.7	27.3	0.0	0.0	0.0	6.1	100.0

【年代別】

○ いずれの年代も「非常に思う」・「思う」が多くなっている。

図. 文化の継承・発展、国内外への発信は意義があるか(単数回答, n=29)

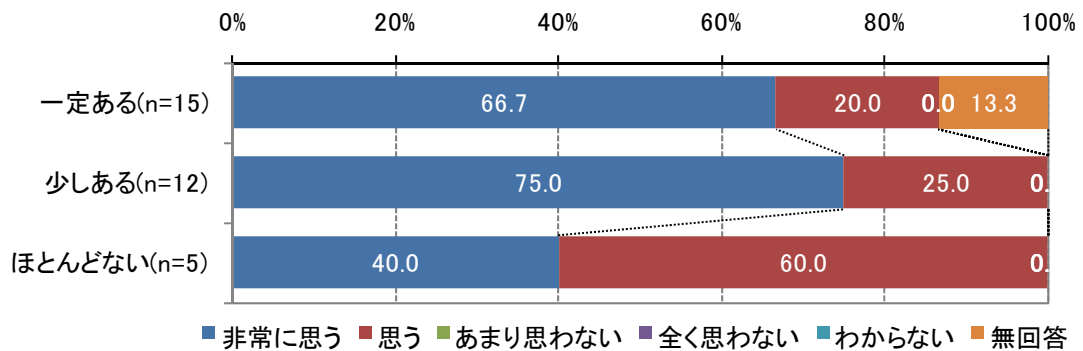


		非常に 思う	思う	あまり 思わない	全く 思わない	わからない	無回答	計
件数	30代	1	1	0	0	0	0	2
	40代	8	4	0	0	0	0	12
	50代	2	1	0	0	0	0	3
	60代	4	1	0	0	0	0	5
	70代	3	2	0	0	0	2	7
	無回答	4	0	0	0	0	0	4
割合(%)	30代(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=12)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=5)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代(n=7)	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0	28.6	100.0
	無回答(n=4)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道経験が「ほとんどない」人では「非常に思う」(40.0%)より「思う」(60.0%)が高くなっている。

図. 文化の継承・発展、国内外への発信は意義があるか(単数回答, n=32)



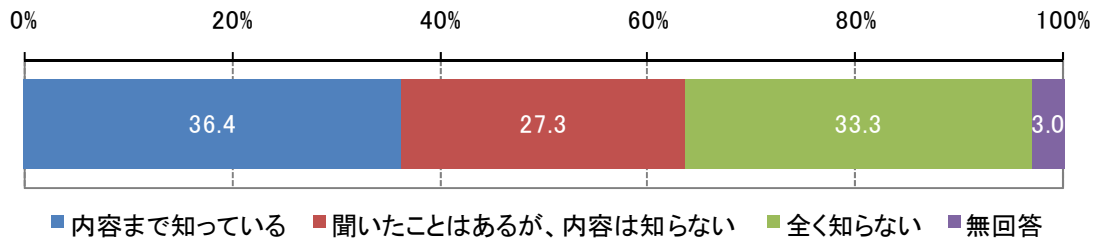
		非常に 思う	思う	あまり 思わない	全く 思わない	わからない	無回答	計
件数	一定ある	10	3	0	0	0	2	15
	少しある	9	3	0	0	0	0	12
	ほとんどない	2	3	0	0	0	0	5
	無回答	1	0	0	0	0	0	1
割合(%)	一定ある(n=15)	66.7	20.0	0.0	0.0	0.0	13.3	100.0
	少しある(n=12)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=5)	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	無回答(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

③ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の取組を知っているか。

【全体】

○ 「内容まで知っている」が36.4%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が27.3%、「全く知らない」が33.3%と、回答が分かれている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を知っているか(単数回答, n=33)

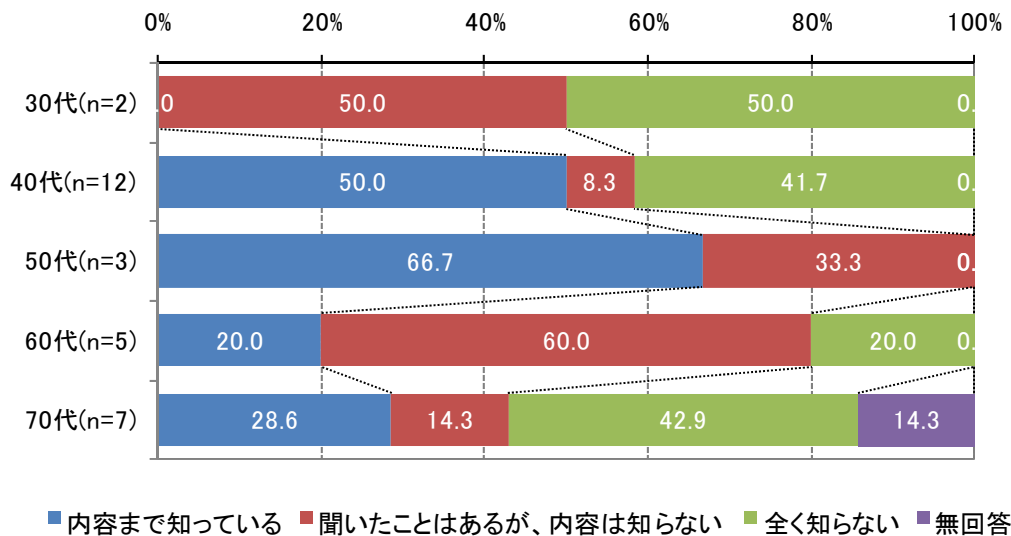


	内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	全く知らない	無回答	計
件数	12	9	11	1	33
割合 (%)	36.4	27.3	33.3	3.0	100.0

【年代別】

○ 40・50・60代では「内容まで知っている」・「聞いたことはある」を合わせると過半数を超えるが、30代と70代では「全く知らない」が半数になる。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を知っているか(単数回答, n=29)

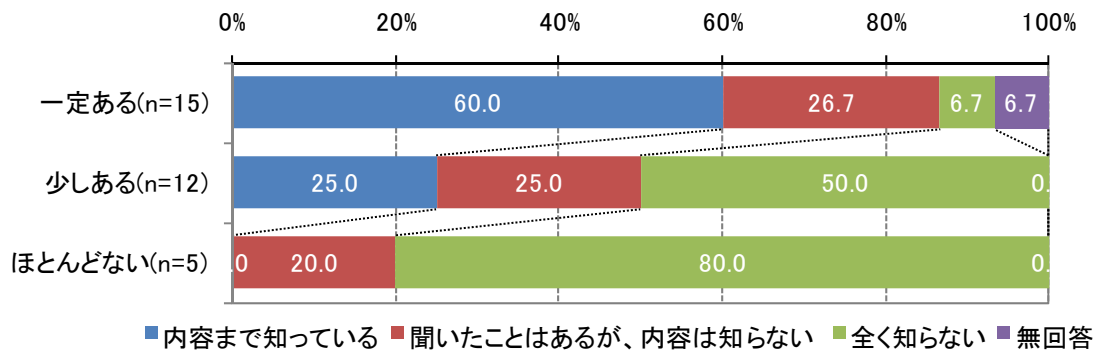


		内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	全く知らない	無回答	計
件数	30代	0	1	1	0	2
	40代	6	1	5	0	12
	50代	2	1	0	0	3
	60代	1	3	1	0	5
	70代	2	1	3	1	7
	無回答	1	2	1	0	4
割合(%)	30代(n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	100.0
	40代(n=12)	50.0	8.3	41.7	0.0	100.0
	50代(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0
	60代(n=5)	20.0	60.0	20.0	0.0	100.0
	70代(n=7)	28.6	14.3	42.9	14.3	100.0
	無回答(n=4)	25.0	50.0	25.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道の経験が一定ある人は「内容まで知っている」が60.0%と高くなっている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を知っているか(単数回答, n=32)



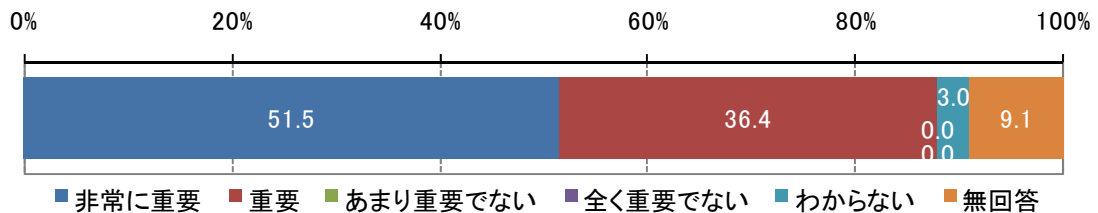
		内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	全く知らない	無回答	計
件数	一定ある	9	4	1	1	15
	少しある	3	3	6	0	12
	ほとんどない	0	1	4	0	5
	無回答	0	1	0	0	1
割合(%)	一定ある(n=15)	60.0	26.7	6.7	6.7	100.0
	少しある(n=12)	25.0	25.0	50.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=5)	0.0	20.0	80.0	0.0	100.0
	無回答(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0

④ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の取組を重要だと思うか。

【全体】

○ 「非常に重要」・「重要」が合わせて87.9%と高くなっており、「あまり重要でない」・「全く重要でない」はともに0.0%であった。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を重要だと思うか(単数回答, n=33)

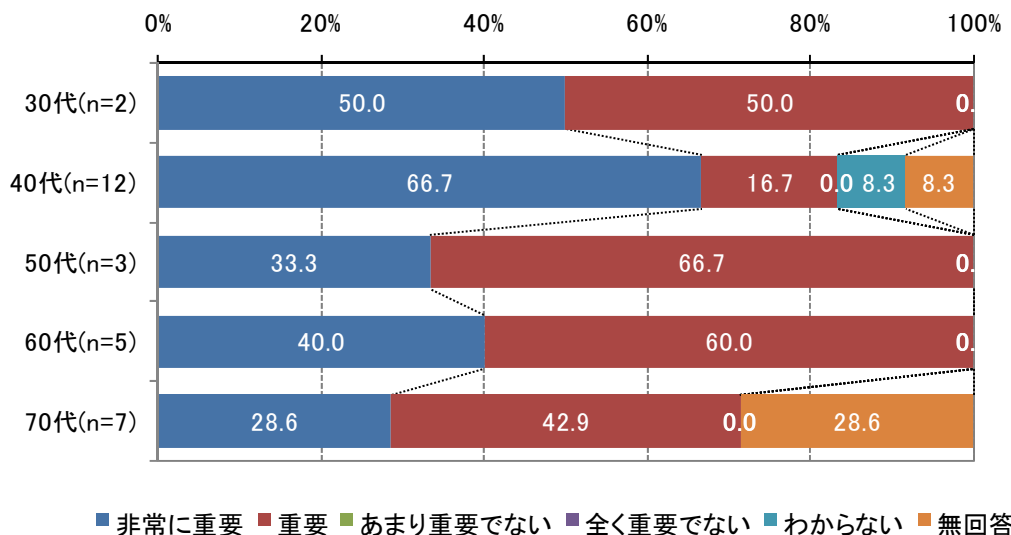


	非常に重要	重要	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	計
件数	17	12	0	0	1	3	33
割合 (%)	51.5	36.4	0.0	0.0	3.0	9.1	100.0

【年代別】

○ いずれの年代も「非常に重要」・「重要」が高くなっている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を重要だと思うか(単数回答, n=29)

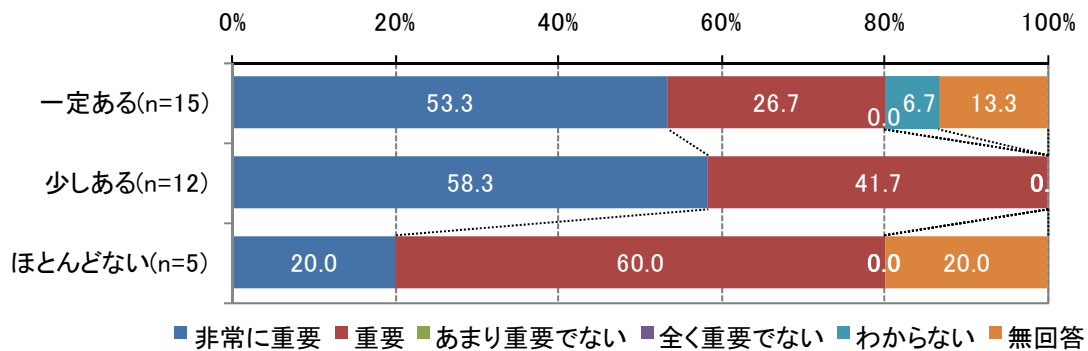


		非常に重要	重要	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	計
件数	30代	1	1	0	0	0	0	2
	40代	8	2	0	0	1	1	12
	50代	1	2	0	0	0	0	3
	60代	2	3	0	0	0	0	5
	70代	2	3	0	0	0	2	7
	無回答	3	1	0	0	0	0	4
割合(%)	30代(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=12)	66.7	16.7	0.0	0.0	8.3	8.3	100.0
	50代(n=3)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=5)	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代(n=7)	28.6	42.9	0.0	0.0	0.0	28.6	100.0
	無回答(n=4)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道経験がある人に比べ、「ほとんどない」人では「非常に重要」(20.0%)より「重要」(60.0%)が高くなっている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を重要だと思うか(単数回答, n=32)



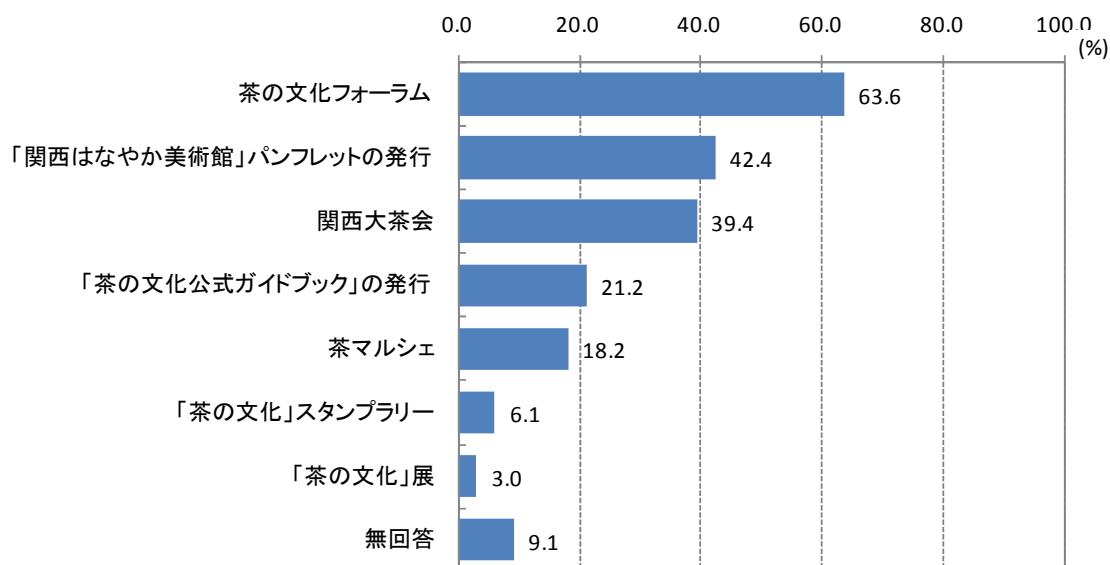
		非常に重要	重要	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	計
件数	一定ある	8	4	0	0	1	2	15
	少しある	7	5	0	0	0	0	12
	ほとんどない	1	3	0	0	0	1	5
	無回答	1	0	0	0	0	0	1
割合(%)	一定ある(n=15)	53.3	26.7	0.0	0.0	6.7	13.3	100.0
	少しある(n=12)	58.3	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=5)	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	100.0
	無回答(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

⑤ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の取組に関して、見学会以外に特に関心のあるプログラムについて。

【全体】

○ 「茶の文化フォーラム」が 63.6%、「『関西はなやか美術館』パンフレットの発行」が 42.4%、「関西大茶会」が 39.4%と高くなっている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組で関心のあるプログラム(複数回答, n=33)

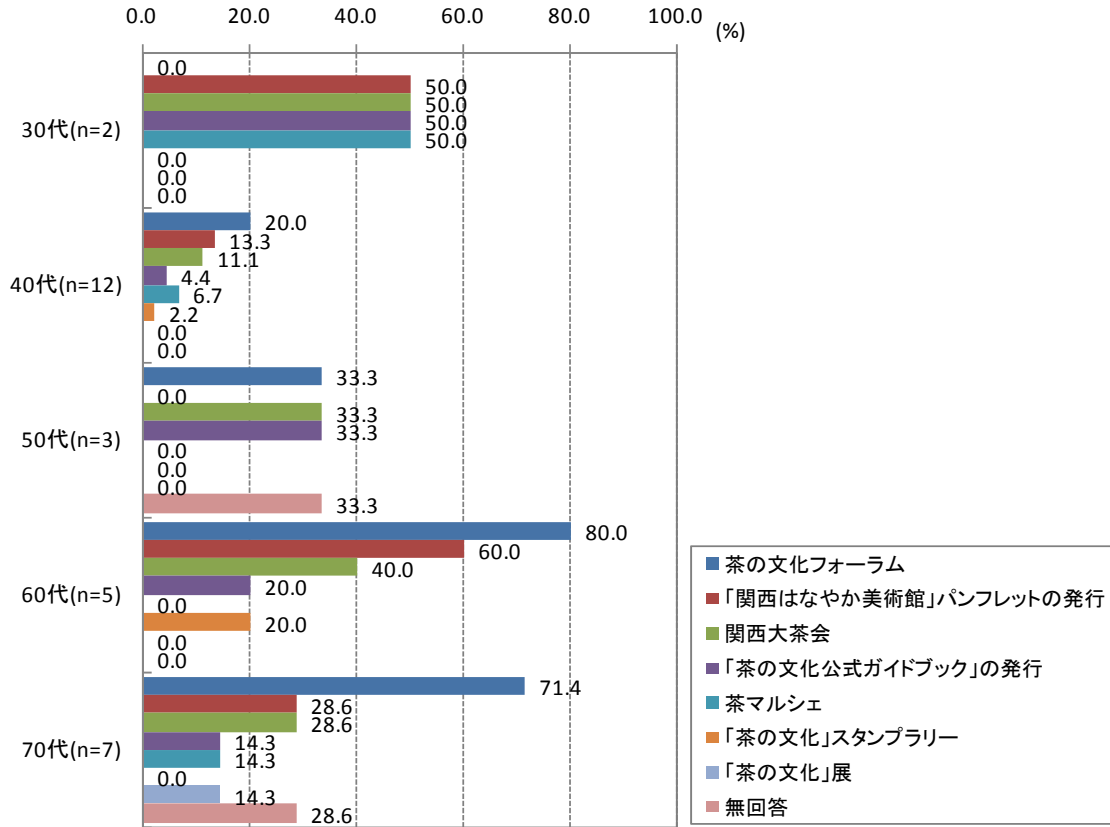


	件数	割合 (%)
茶の文化フォーラム	21	63.6
「関西はなやか美術館」パンフレットの発行	14	42.4
関西大茶会	13	39.4
「茶の文化公式ガイドブック」の発行	7	21.2
茶マルシェ	6	18.2
「茶の文化」スタンプラリー	2	6.1
「茶の文化」展	1	3.0
無回答	3	9.1
	67	

【年代別】

○ いずれの年代も「茶の文化フォーラム」が高い値となっている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組で関心のあるプログラム(複数回答, n=29)

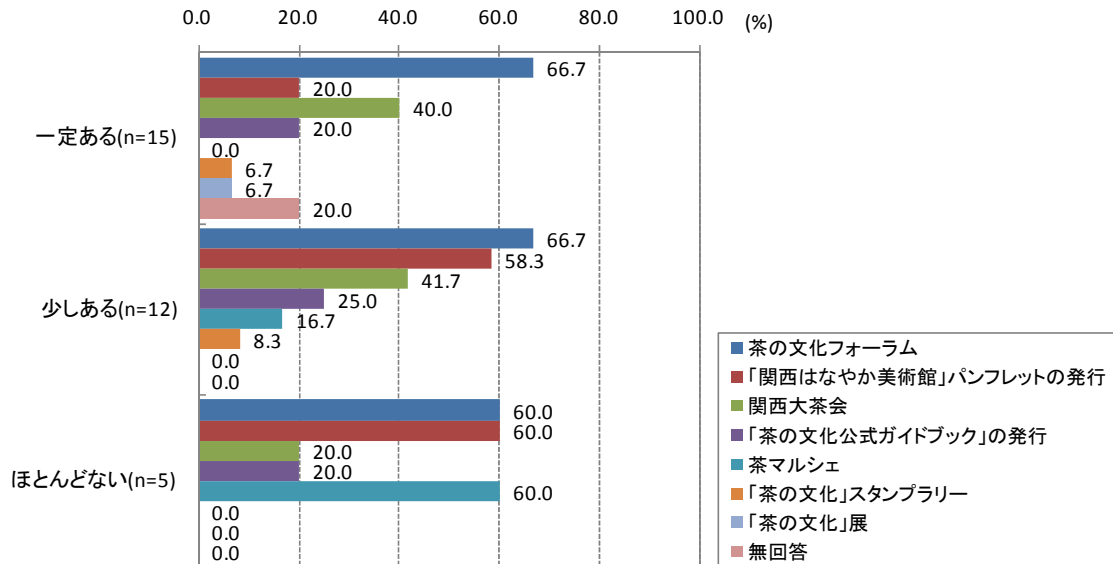


		茶の文化フォーラム	「関西はなやか美術館」パンフレットの発行	関西大茶会	「茶の文化公式ガイドブック」の発行	茶マルシェ	「茶の文化」スタンプラリー	「茶の文化」展	無回答
件数	30代	0	1	1	1	1	0	0	0
	40代	9	6	5	2	3	1	0	0
	50代	1	0	1	1	0	0	0	1
	60代	4	3	2	1	0	1	0	0
	70代	5	2	2	1	1	0	1	2
	無回答	2	2	2	1	1	0	0	0
割合 (%)	30代(n=2)	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	40代(n=12)	20.0	13.3	11.1	4.4	6.7	2.2	0.0	0.0
	50代(n=3)	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3
	60代(n=5)	80.0	60.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	70代(n=7)	71.4	28.6	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3	28.6
	無回答(n=4)	50.0	50.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道経験の有無によらず、「茶の文化フォーラム」は高い値となっているが、経験が「ほとんどない」人では「茶マルシェ」が60.0%と高くなっている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組で関心のあるプログラム(複数回答, n=32)



		茶の文化フォーラム	「関西はなやか美術館」パンフレットの発行	関西大茶会	「茶の文化公式ガイドブック」の発行	茶マルシェ	「茶の文化」スタンプラリー	「茶の文化」展	無回答
件数	一定ある	10	3	6	3	0	1	1	3
	少しある	8	7	5	3	2	1	0	0
	ほとんどない	3	3	1	1	3	0	0	0
	無回答	0	1	1	1	0	1	0	0
割合(%)	一定ある(n=15)	66.7	20.0	40.0	20.0	0.0	6.7	6.7	20.0
	少しある(n=12)	66.7	58.3	41.7	25.0	16.7	8.3	0.0	0.0
	ほとんどない(n=5)	60.0	60.0	20.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0
	無回答(n=1)	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

(6) 関西の「本物の文化」をテーマとした取組について

【意見内容】

■今後への希望など

- 京都の大徳寺と堺の南宗寺の和尚さんは大変つながりが深いので、そういったテーマで茶室見学を今度は堺で如何であろうか。
- 関西の食文化について取り上げてみてはいかがであろうか。食材、味付けについては関西(特に京都)はすばらしいと思う。
- 関西で「茶」以外の文化として何があるのか興味がある。

■感謝の意見など

- 本日は日本建築の良さを堪能した。ぜひこれからも参加したいと思う。茶室座敷または方丈の裏に続いた三畳台目の茶室、どれもすばらしい。感激である。
- このようなすばらしい企画をしていただきありがたい。また、事務局の方々、お世話になり感謝する。たまたま HP を見てこの企画を知った。関西では広報があったのだらうと思うが、全国の方にも知っていただき見学(参加)できたら良いのではと思う。
- 深い知識を得られる機会は大変ありがたく、主婦として仕事を離れると情報も乏しく難しいものである。これからもこのような機会に多く参加できることを望む。大変幸せに感じた。ありがとうございました。
- ありがとうございました。

■その他

- 見学箇所がもう少し減っても良いのではないか。老人には少し疲れた。

「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」
“非公開茶室の見学”に関するアンケート調査
（東山コース）

集計結果

平成 24 年 3 月

国土交通省 近畿地方整備局

- 目次 -

I. 実施概要	1
1. 実施概要	1
II. アンケート集計結果	2
1. アンケート集計結果	2
(1) 属性	2
(2) 本見学への参加・きっかけ・目的	4
(3) 本見学会への評価等	10
(4) 本プログラム全体について	18
(5) 関西の「本物の文化」の継承・発展に向けて	25
(6) 関西の「本物の文化」をテーマとした取組について	36

I. 実施概要

1. 実施概要

日時:平成 23 年 10 月 5 日(水)10 時 30 分～16 時 15 分

参加人数:29 名 (応募者多数のため「募集要項」に基づき抽選で参加者を決定)

対象:参加者

回収数:28 件

回収率:96.5%

行程:東山(金戒光明寺西翁院+曼殊院+南禅寺金地院)コース

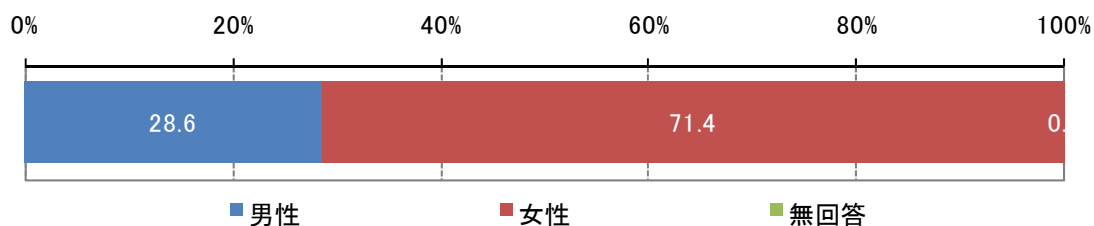
時間	項目
10:30～	黒谷・金戒光明寺 高麗門に集合・受付(参加費用徴収・資料及びアンケート配付) 実行委員長挨拶・解説案内者の紹介 (10 分)
10:50～	金戒光明寺西翁院 茶室漱着席(重要文化財) (90 分)
12:20～	移動(車両) (30 分)
12:50～	曼殊院 茶室八窓軒(重要文化財) (60 分)
13:50～	移動(徒歩) (曼殊院門跡・弁天堂境内)
13:55～	昼食「弁天茶屋」門跡そばセット (40 分)
14:35～	移動(車両) (35 分)
15:10～	南禅寺金地院 茶室八窓席(重要文化財) (60 分)
16:10～	モニタリングのためのアンケート用紙回収
16:15～	解散

II. アンケート集計結果

1. アンケート集計結果

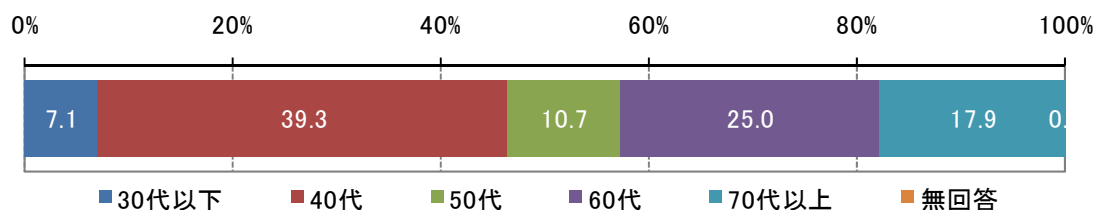
(1) 属性

① 性別



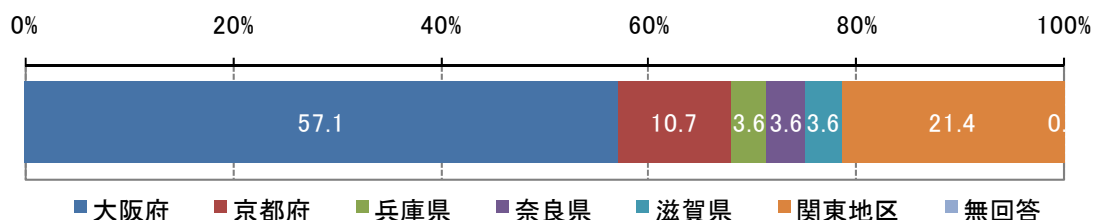
	男性	女性	無回答	計
件数	8	20	0	28
割合 (%)	28.6	71.4	0.0	100.0

② 年齢



	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	無回答	計
件数	2	11	3	7	5	0	28
割合 (%)	7.1	39.3	10.7	25.0	17.9	0.0	100.0

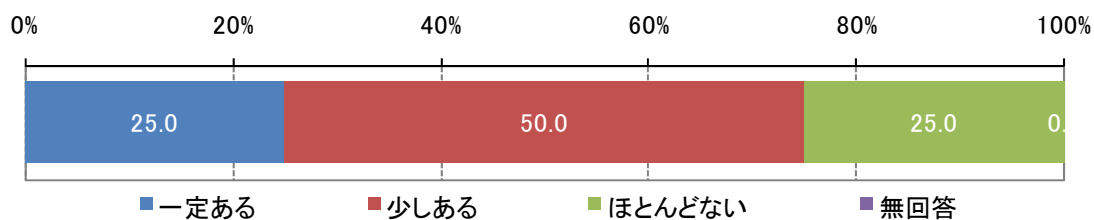
③ 居住地



	大阪府	京都府	兵庫県	奈良県	滋賀県	関東地区	無回答	計
件数	16	3	1	1	1	6	0	28
割合 (%)	57.1	10.7	3.6	3.6	3.6	21.4	0.0	100.0

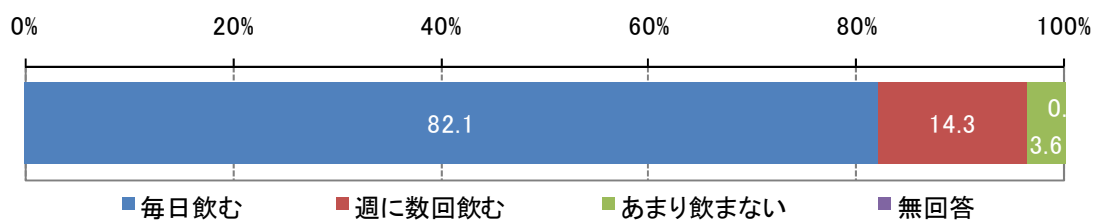
④ 「茶の文化」に関する活動

④-1. 茶道の経験・知識



	一定ある	少しある	ほとんどない	無回答	計
件数	7	14	7	0	28
割合 (%)	25.0	50.0	25.0	0.0	100.0

④-2. 日本茶を飲む習慣



	毎日飲む	週に数回飲む	あまり飲まない	無回答	計
件数	23	4	1	0	28
割合 (%)	82.1	14.3	3.6	0.0	100.0

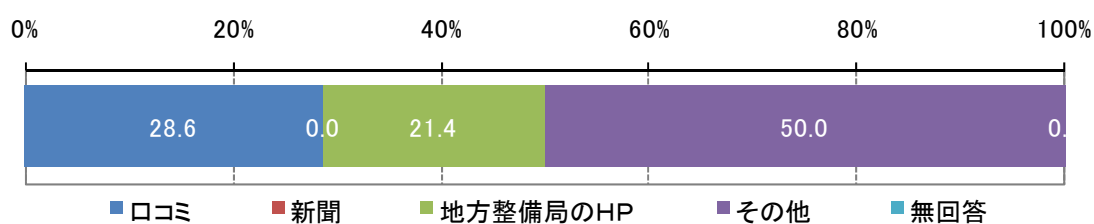
(2) 本見学への参加・きっかけ・目的

① 本見学会参加のきっかけ

【全体】

○ 「口コミ」28.6%、「地方整備局のHP」21.4%の他、「その他」（美術館の紹介など）が半数にのぼっている。

図. 本見学会参加のきっかけ(単数回答, n=28)



	口コミ	新聞	地方整備局のHP	その他	無回答	計
件数	8	0	6	14	0	28
割合 (%)	28.6	0.0	21.4	50.0	0.0	100.0

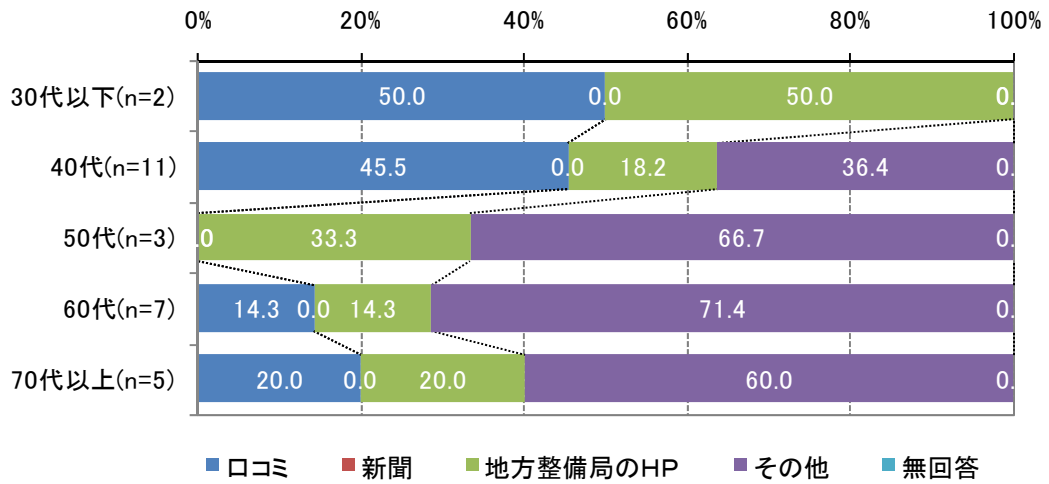
【「その他」内容】

- ・ 東洋陶磁美術館の紹介(4名)
- ・ 野村美術館の紹介(2名)
- ・ HP、ネット、サイト(3名)
- ・ 大阪府メルマガ
- ・ 池田炭・菊炭クラブからの案内
- ・ 親戚より紹介
- ・ 友人からの誘い
- ・ 前回参加により

【年代別】

○ 年齢の高い層が特に「その他」（美術館の紹介など）が高くなっている。

図. 本見学会参加のきっかけ(単数回答, n=28)

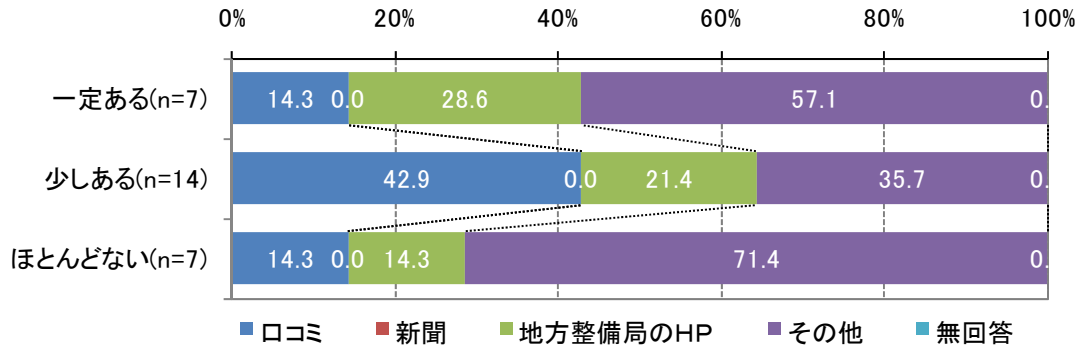


		口コミ	新聞	地方整備局のHP	その他	無回答	計
件数	30代以下	1	0	1	0	0	2
	40代	5	0	2	4	0	11
	50代	0	0	1	2	0	3
	60代	1	0	1	5	0	7
	70代以上	1	0	1	3	0	5
割合(%)	30代以下(n=2)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=11)	45.5	0.0	18.2	36.4	0.0	100.0
	50代(n=3)	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	100.0
	60代(n=7)	14.3	0.0	14.3	71.4	0.0	100.0
	70代以上(n=5)	20.0	0.0	20.0	60.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ いずれの層も「その他」が高くなっている。

図. 本見学会参加のきっかけ(単数回答, n=28)



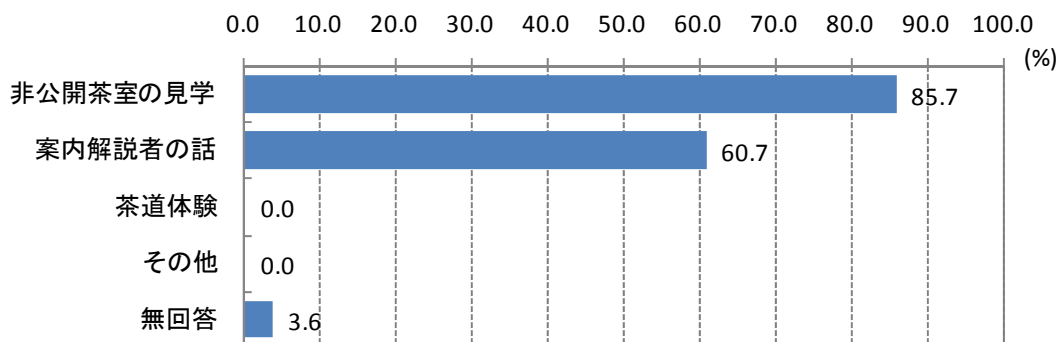
		口コミ	新聞	地方整備局のHP	その他	無回答	計
件数	一定ある	1	0	2	4	0	7
	少しある	6	0	3	5	0	14
	ほとんどない	1	0	1	5	0	7
割合(%)	一定ある(n=7)	14.3	0.0	28.6	57.1	0.0	100.0
	少しある(n=14)	42.9	0.0	21.4	35.7	0.0	100.0
	ほとんどない(n=7)	14.3	0.0	14.3	71.4	0.0	100.0

② 本見学会への参加目的

【全体】

○ 「非公開茶室の見学」が85.7%、「案内解説者の話」が60.7%と高くなっている。

図. 本見学会への参加目的(複数回答, n=28)

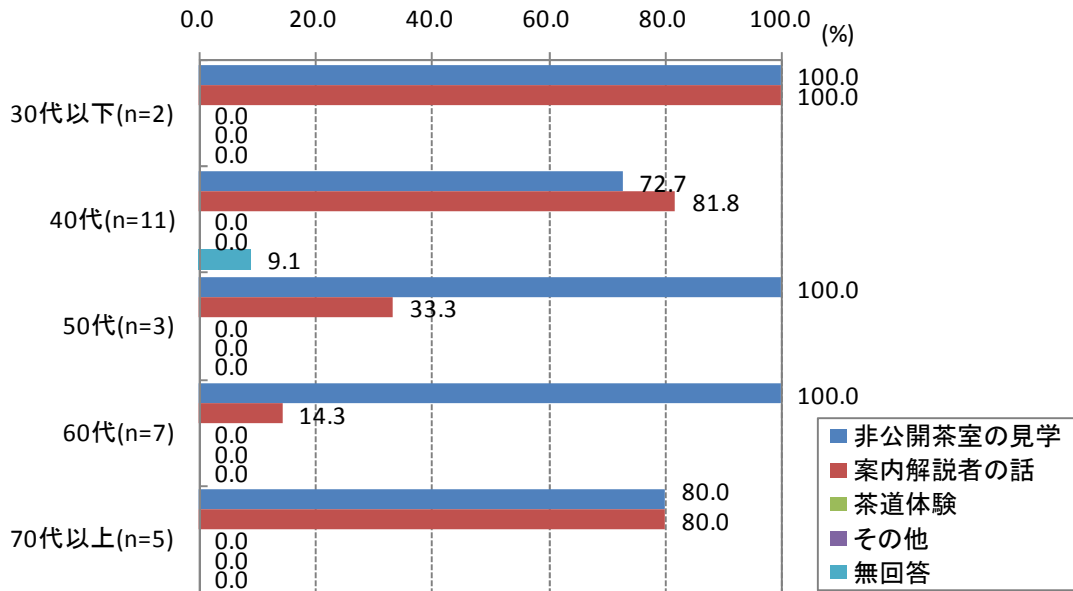


	件数	割合 (%)
非公開茶室の見学	24	85.7
案内解説者の話	17	60.7
茶道体験	0	0.0
その他	0	0.0
無回答	1	3.6
	42	

【年代別】

○ いずれの年代も「非公開茶室の見学」が高くなっている。

図. 本見学会への参加目的(複数回答, n=28)

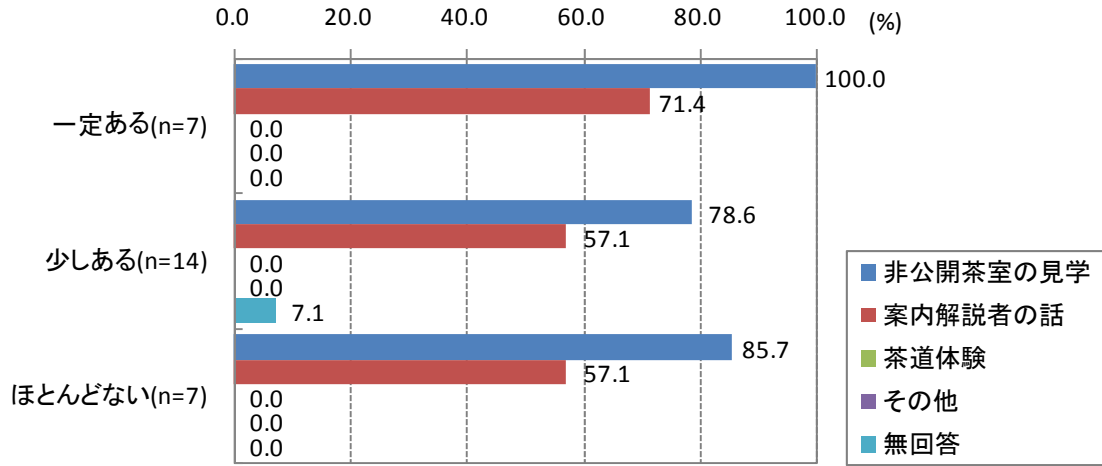


		非公開茶室の見学	案内解説者の話	茶道体験	その他	無回答
件数	30代以下	2	2	0	0	0
	40代	8	9	0	0	1
	50代	3	1	0	0	0
	60代	7	1	0	0	0
	70代以上	4	4	0	0	0
割合(%)	30代以下(n=2)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	40代(n=11)	72.7	81.8	0.0	0.0	9.1
	50代(n=3)	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	60代(n=7)	100.0	14.3	0.0	0.0	0.0
	70代以上(n=5)	80.0	80.0	0.0	0.0	0.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道経験の有無に関わらず「非公開茶室の見学」が高くなっている。

図. 本見学会への参加目的(複数回答, n=28)



		非公開茶室 の見学	案内解説者 の話	茶道体験	その他	無回答
件数	一定ある	7	5	0	0	0
	少しある	11	8	0	0	1
	ほとんどない	6	4	0	0	0
割合(%)	一定ある(n=7)	100.0	71.4	0.0	0.0	0.0
	少しある(n=14)	78.6	57.1	0.0	0.0	7.1
	ほとんどない(n=7)	85.7	57.1	0.0	0.0	0.0

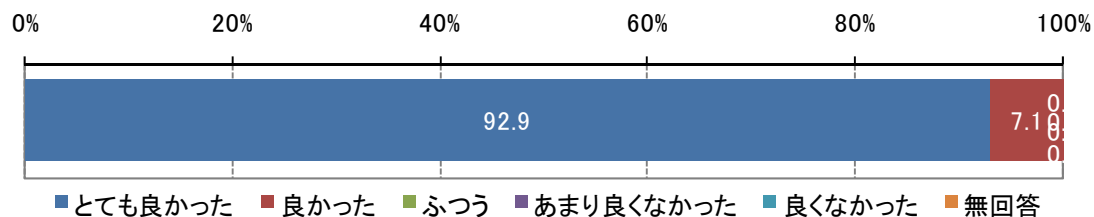
(3) 本見学会への評価等

① 全体評価

【全体】

○ 「とても良かった」・「良かった」合わせて全ての人が「良かった」と答えている。

図. 本見学会の全体評価(単数回答, n=28)

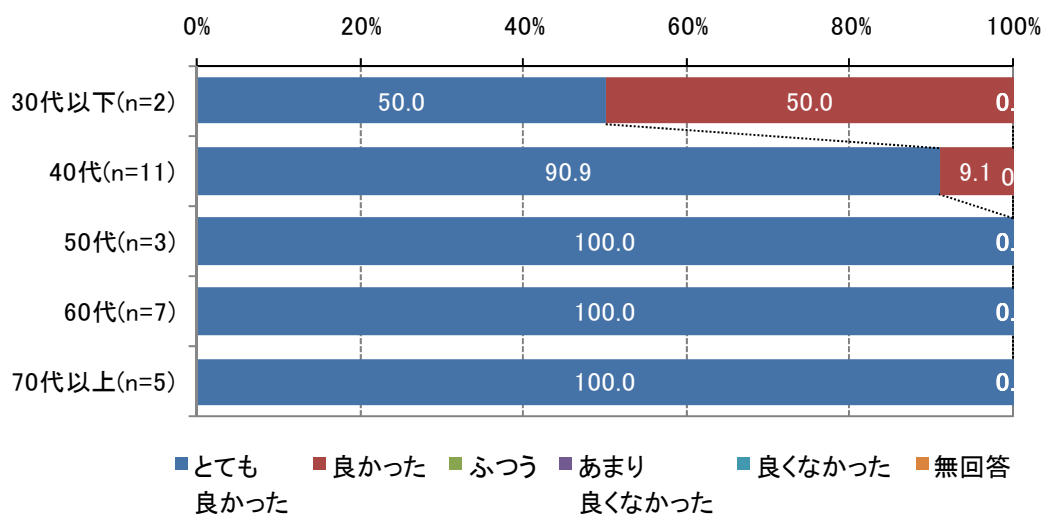


	とても良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	計
件数	26	2	0	0	0	0	28
割合 (%)	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【年代別】

○ いずれの年代も「とても良かった」が高い割合となっている。

図. 本見学会の全体評価(単数回答, n=28)

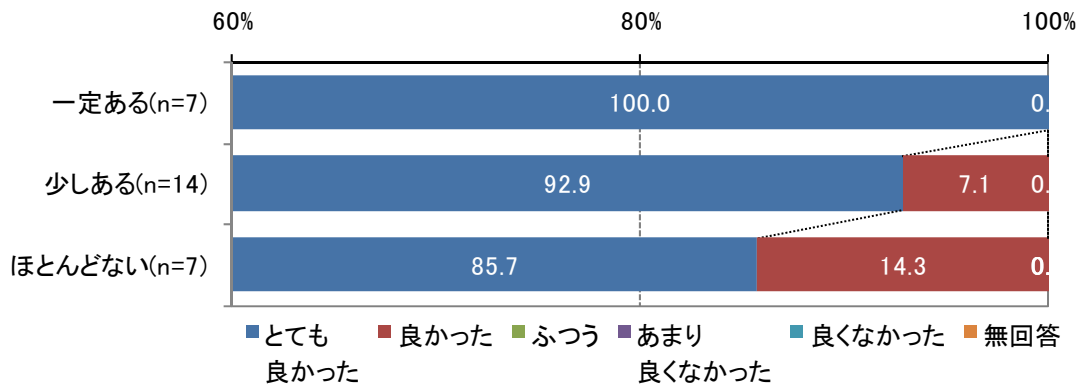


		とても良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	計
件数	30代以下	1	1	0	0	0	0	2
	40代	10	1	0	0	0	0	11
	50代	3	0	0	0	0	0	3
	60代	7	0	0	0	0	0	7
	70代以上	5	0	0	0	0	0	5
割合(%)	30代以下(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=11)	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=3)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=7)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代以上(n=5)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道の経験有無に関わらず「とても良かった」が高い割合となっている。

図. 本見学会の全体評価(単数回答, n=28)



		とても良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	計
件数	一定ある	7	0	0	0	0	0	7
	少しある	13	1	0	0	0	0	14
	ほとんどない	6	1	0	0	0	0	7
割合(%)	一定ある(n=7)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=14)	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=7)	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

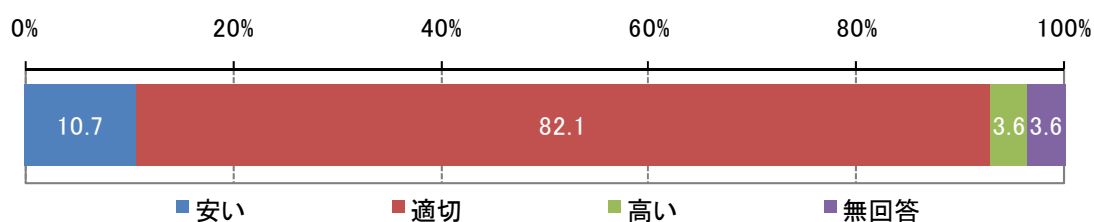
② 費用・時間に関する評価

②-1. 費用について

【全体】

○ 82.1%が「適切」、10.7%が「安い」と答え、「高い」と答えたのは3.6%にとどまった。

図. 費用についての評価(単数回答, n=28)

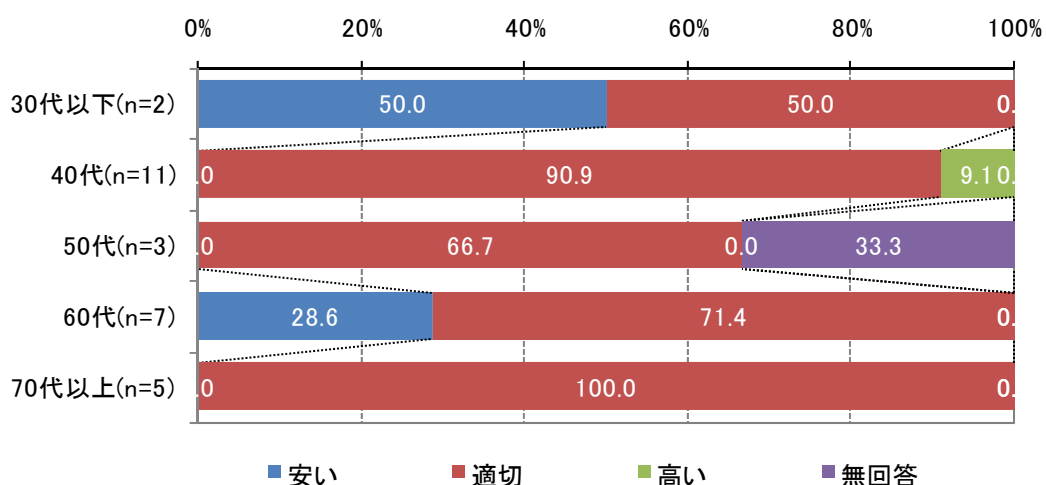


	安い	適切	高い	無回答	計
件数	3	23	1	1	28
割合 (%)	10.7	82.1	3.6	3.6	100.0

【年代別】

○ いずれの年代も「適切」が高い割合となっている。

図. 費用についての評価(単数回答, n=28)

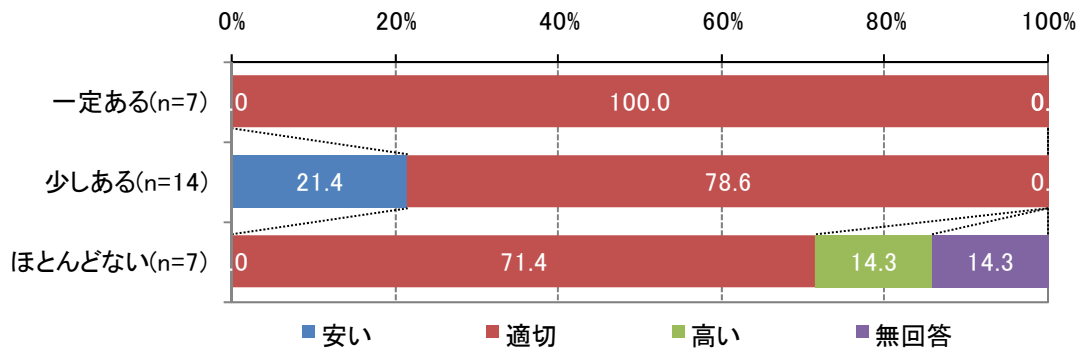


		安い	適切	高い	無回答	計
件数	30代以下	1	1	0	0	2
	40代	0	10	1	0	11
	50代	0	2	0	1	3
	60代	2	5	0	0	7
	70代以上	0	5	0	0	5
割合(%)	30代以下(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=11)	0.0	90.9	9.1	0.0	100.0
	50代(n=3)	0.0	66.7	0.0	33.3	100.0
	60代(n=7)	28.6	71.4	0.0	0.0	100.0
	70代以上(n=5)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 全体として「適切」の回答が高い割合となっている。

図. 費用についての評価(単数回答, n=28)



		安い	適切	高い	無回答	計
件数	一定ある	0	7	0	0	7
	少しある	3	11	0	0	14
	ほとんどない	0	5	1	1	7
割合(%)	一定ある(n=7)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=14)	21.4	78.6	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=7)	0.0	71.4	14.3	14.3	100.0

(適切と考える費用)

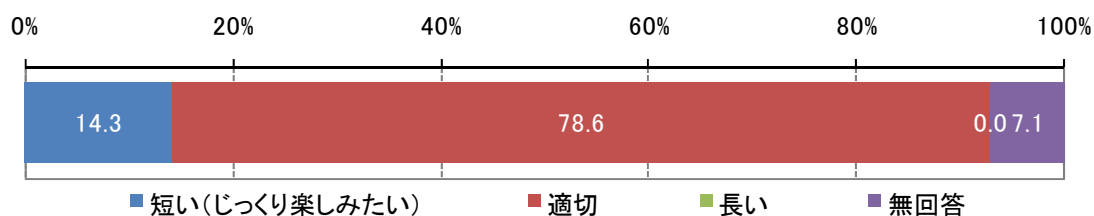
- ・ 5,000円～6,000円 (1名)
- ・ いくらでも内訳が開示できれば良い (1名)

②-2. 時間について

【全体】

○ 「適切」が78.6%と高いが、「短い」と回答した人も14.3%いた。逆に「長い」と答えた人は0.0%であった。

図. 時間についての評価(単数回答, n=28)

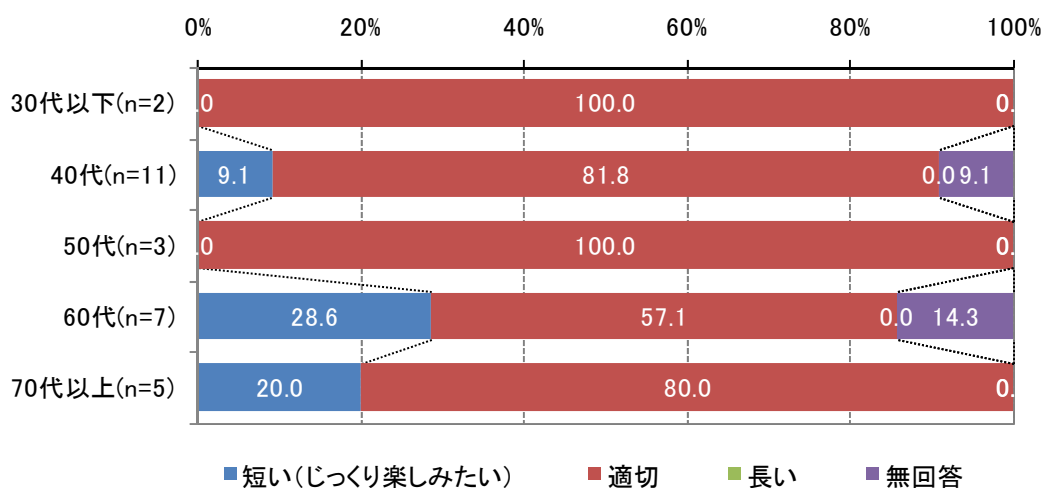


	短い(じっくり楽しみたい)	適切	長い	無回答	計
件数	4	22	0	2	28
割合 (%)	14.3	78.6	0.0	7.1	100.0

【年代別】

○ 全体的に「適切」が高い割合であるが、60代以上では「短い」もやや高くなっている。

図. 時間についての評価(単数回答, n=28)

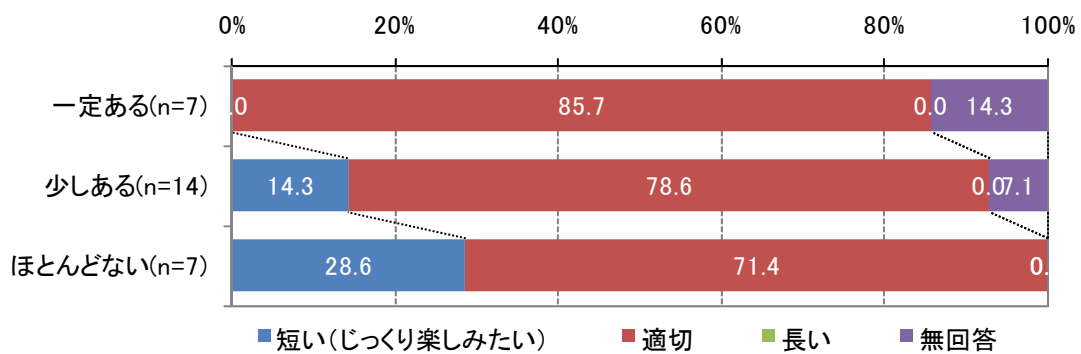


		短い(じっくり 楽しみたい)	適切	長い	無回答	計
件数	30代以下	0	2	0	0	2
	40代	1	9	0	1	11
	50代	0	3	0	0	3
	60代	2	4	0	1	7
	70代以上	1	4	0	0	5
割合(%)	30代以下(n=2)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=11)	9.1	81.8	0.0	9.1	100.0
	50代(n=3)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=7)	28.6	57.1	0.0	14.3	100.0
	70代以上(n=5)	20.0	80.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ いずれも「適切」の割合が高くなっている。

図. 時間についての評価(単数回答, n=28)



		短い(じっくり 楽しみたい)	適切	長い	無回答	計
件数	一定ある	0	6	0	1	7
	少しある	2	11	0	1	14
	ほとんどない	2	5	0	0	7
割合(%)	一定ある(n=7)	0.0	85.7	0.0	14.3	100.0
	少しある(n=14)	14.3	78.6	0.0	7.1	100.0
	ほとんどない(n=7)	28.6	71.4	0.0	0.0	100.0

③ 本見学会で特に良かったと思う点

【意見内容】

■先生の解説が良かった

- ・ 中村先生、岩崎先生に解説してもらえたこと。
- ・ 中村先生、岩崎先生のご説明がとても良かったです。
- ・ 中村先生の細かな説明にとっても感銘を受けました。機会がありましたら、またぜひ参加したく思っております。
- ・ 中村先生の説明です。
- ・ 中村先生のお話が奥深かったです。
- ・ 中村先生の説明をお聞きできたこと。
- ・ 中村先生のお話は今までよく拝聴させていただきましたが、本日のコースが一番深々よいお話を聞かせて頂きました。茶道文化検定受検のよい参考になりました。ありがとうございます。
- ・ 初めてでもわかりやすい説明がとても良かったです。
- ・ 解説がとても的確で良かった。見に行った建築のリストも良かった。

■非公開茶室の見学を先生の解説付きでできたことが良かった

- ・ 茶室を実際に見られたこと、その説明。
- ・ 非公開茶室に入室できる点。中村先生のお話が聞ける点。
- ・ 中村先生の解説付き見学がとても勉強になった。先生の著書を購入し、勉強したい。
- ・ 茶室の中まで入れて頂いたこと、露地など日頃なかなか見学できない所へも行けたこと、先生方が丁寧にご説明くださったこと。
- ・ 茶室に少人数で入ることができて、中村先生のお話がゆっくり聞け、本当によかったです。岩崎先生のお気持ちのこもったお話も嬉しかったです。
- ・ 内部空間を体験できてよかった。中村先生、岩崎先生の解説はわかりやすく、人柄も伝わってきてよかった。
- ・ 本に書いてある事を読むだけでは想像がつかないのですが、実際に自分の目で茶室を拝見し、その場に座って味わうことができ、中村先生、岩崎先生のお話も大変興味深く拝聴することができました。
- ・ 茶室の解説が興味深かった。茶室もこんなに一度に何か所も見ること、よりおもしろく感じられました。
- ・ 茶室の中に実際入らせていただき、座ってみて始めて、その茶室の醸し出す心にふれることができ良かったです。中村先生に見所を丁寧に説明していただいて良かったです。

■非公開茶室を見学できたことが良かった

- ・ 実際に茶室の中に入って実感できたこと。
- ・ 実際にお席に入って案内をしてもらえたこと。
- ・ 茶室の違いがわかって非常に良かったです。
- ・ 前回にくらべてゆっくり茶室を見られたと思う。しかし本当はもっとゆっくり時間をかけて見てみたいです。
- ・ どれも趣があり良かったです。金戒寺の澱看席が、狭いながら、感じさせないところが良かったです。

■その他

- ・ 少し難しいお話もありましたが、専門的な説明が聞けたことは良かった。何と言っても、普段入れない茶室の中に入れ、体験できたのは良かった。その意味で、最後の金地院は茶室の中を体験できなくて残念でした。
- ・ 3カ所とも大変良かった。中村先生がこれほど有名な方とは知らず、今回お出会いし、感激です。

④ 本見学会をより良くするためのアイデア(プログラム構成等)

【意見内容】

■プログラム構成・運営について

- ・案内や区切りがはっきりしないので、次にどうなるのかがわかりにくい。
- ・準備およびスタッフの方に申し訳ないが、人数を半数にして、1カ所の時間を延ばしてほしい。
- ・たくさん見せてもらえるのはありがたかったが、2カ所程度で時間をもう少しゆったりとっていただけたらありがたかった。
- ・周る順や、時間の見積もりの計画をしっかりとる。着いてからの流れを予測し、人を待たせないようにする。運営さん頑張って。
- ・資料を配付してくださったことはとてもありがたかったのですが、文字が読みやすいように、もう少し大きめにさせていただくとよかったです。また茶室が寺院全体の中に組み込まれているので、位置をわかりやすく理解できるように、間取りをもう少し広い範囲で示して頂けるとありがたいと思います。
- ・南禅寺周辺だけでもよかったのでは。観光プログラムと手を組んでやればよいと思う。

■今回の内容で充分満足した

- ・タクシーでの移動は良かった。
- ・今回のプログラムは京都を好きになるきっかけとなりました。今後もこういった見学会を企画していただけたら嬉しいです。食事休憩も良かったです。
- ・充分だと思います。
- ・良く考えられていたと思います。ありがとうございました。

■今後への期待など

- ・申込者全員が参加できる催しがあればよいと思います。
- ・申込者全員が参加できると嬉しいです。
- ・次回は待庵、密庵、憶昔(いくじゃく)の間をご案内してください。
- ・茶室以外にも後生に伝えるべき文化は関西は関東より多くの内容があると思います。茶室以外にもそういった別の文化を取り上げる事は非常に大切な事だと思います。

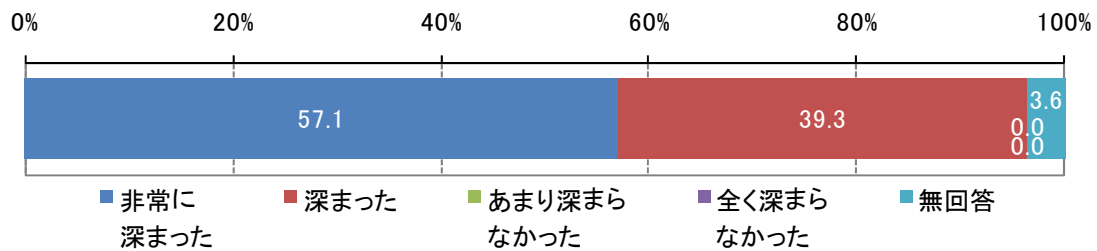
(4) 本プログラム全体について

① 今回のプログラムを通じて、「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか。

【全体】

○ 「非常に深まった」・「深まった」合わせて96.4%となっている。

図. 「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか(単数回答, n=28)

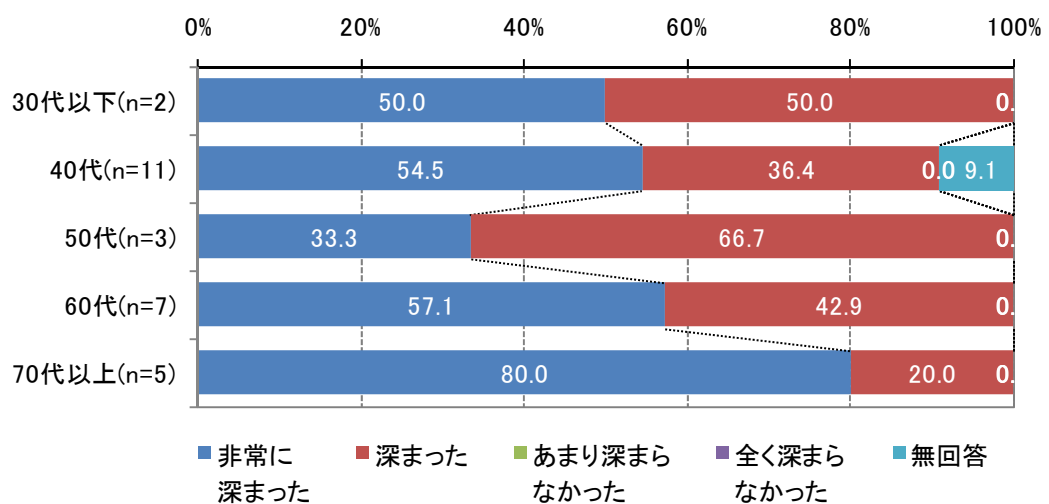


	非常に深まった	深まった	あまり深まらなかった	全く深まらなかった	無回答	計
件数	16	11	0	0	1	28
割合 (%)	57.1	39.3	0.0	0.0	3.6	100.0

【年代別】

○ いずれの年代も「非常に深まった」・「深まった」が高い割合となっている。

図. 「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか(単数回答, n=28)

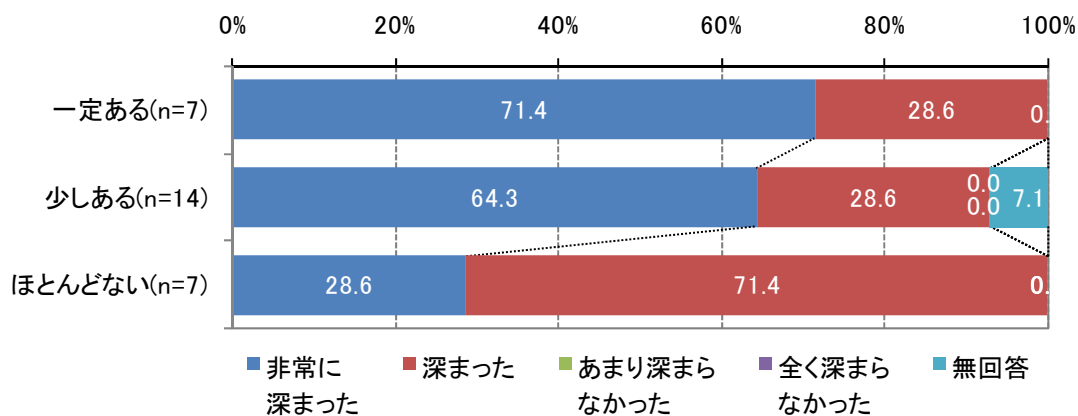


		非常に深まった	深まった	あまり深まらなかった	全く深まらなかった	無回答	計
件数	30代以下	1	1	0	0	0	2
	40代	6	4	0	0	1	11
	50代	1	2	0	0	0	3
	60代	4	3	0	0	0	7
	70代以上	4	1	0	0	0	5
割合(%)	30代以下(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=11)	54.5	36.4	0.0	0.0	9.1	100.0
	50代(n=3)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=7)	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代以上(n=5)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道の経験が「一定ある」または「少しある」人は「非常に深まった」が「深まった」より高いが、逆に経験が「ほとんどない」人は「非常に深まった」よりも「深まった」が高くなっている。

図. 「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか(単数回答, n=28)



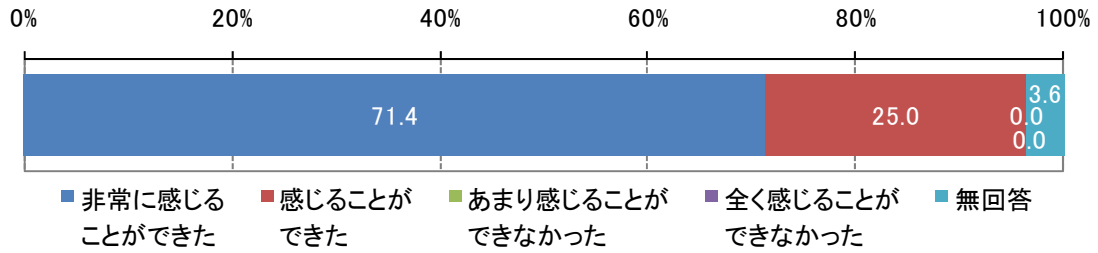
		非常に深まった	深まった	あまり深まらなかった	全く深まらなかった	無回答	計
件数	一定ある	5	2	0	0	0	7
	少しある	9	4	0	0	1	14
	ほとんどない	2	5	0	0	0	7
割合(%)	一定ある(n=7)	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=14)	64.3	28.6	0.0	0.0	7.1	100.0
	ほとんどない(n=7)	28.6	71.4	0.0	0.0	0.0	100.0

② 今回のプログラムを通じて、関西の「本物の文化」を感じることができたか。

【全体】

○ 無回答者を除くすべての人が「非常に感じる事ができた」・「感じる事ができた」と答えている。

図. 関西の「本物の文化」を感じることができたか(単数回答, n=28)

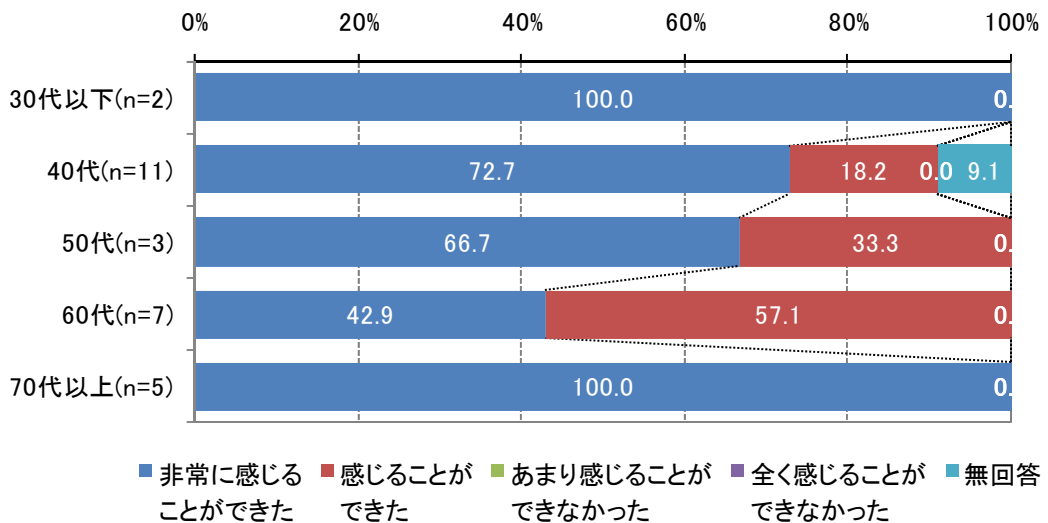


	非常に感じる事ができた	感じる事ができた	あまり感じる事ができなかった	全く感じる事ができなかった	無回答	計
件数	20	7	0	0	1	28
割合 (%)	71.4	25.0	0.0	0.0	3.6	100.0

【年代別】

○ 全体として「非常に感じる事ができた」が多く占めるが、60代では「感じる事ができた」が高くなっている。

図. 関西の「本物の文化」を感じることができたか(単数回答, n=28)

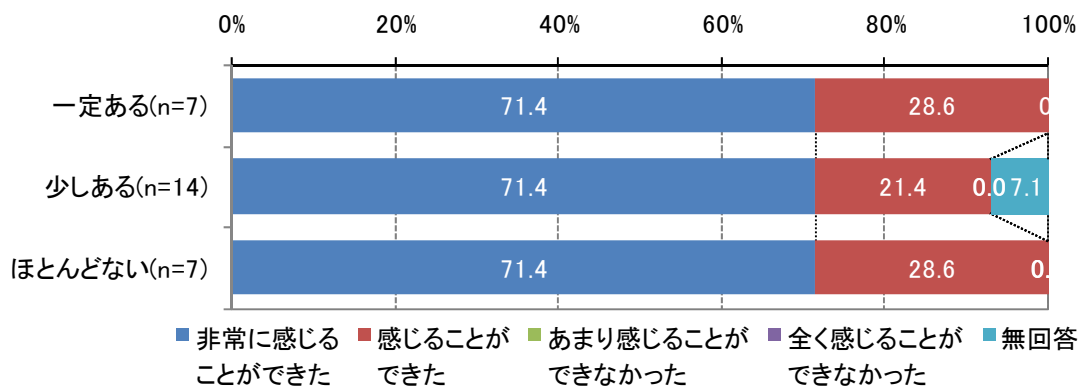


		非常に感じる ことができた	感じるこ とができ た	あまり感 じるこ とがで きなかつ た	全く感 じるこ とがで きなかつ た	無回答	計
件数	30代以下	2	0	0	0	0	2
	40代	8	2	0	0	1	11
	50代	2	1	0	0	0	3
	60代	3	4	0	0	0	7
	70代以上	5	0	0	0	0	5
割合(%)	30代以下(n=2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=11)	72.7	18.2	0.0	0.0	9.1	100.0
	50代(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=7)	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代以上(n=5)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ いずれの層も「非常に感じる事ができた」のが高くなっている。

図. 関西の「本物の文化」を感じる事ができたか(単数回答, n=28)



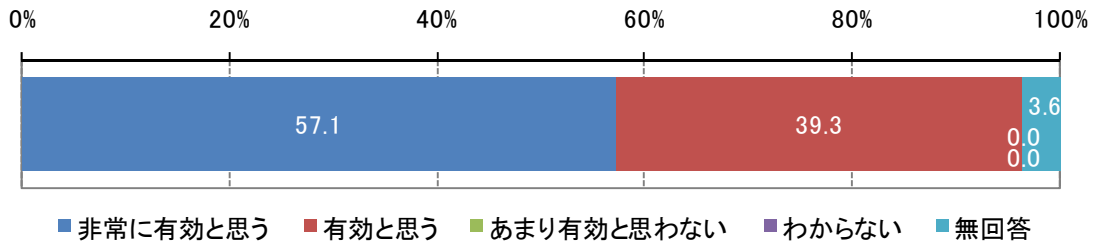
		非常に感じる ことができた	感じるこ とができ た	あまり感 じるこ とがで きなかつ た	全く感 じるこ とがで きなかつ た	無回答	計
件数	一定ある	5	2	0	0	0	7
	少しある	10	3	0	0	1	14
	ほとんどない	5	2	0	0	0	7
割合(%)	一定ある(n=7)	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=14)	71.4	21.4	0.0	0.0	7.1	100.0
	ほとんどない(n=7)	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	100.0

③ 今回のプログラムは、関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効と思うか。

【全体】

○ 無回答者を除くすべての人が「非常に有効と思う」・「有効と思う」と答えている。

図. 関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効か(単数回答, n=28)

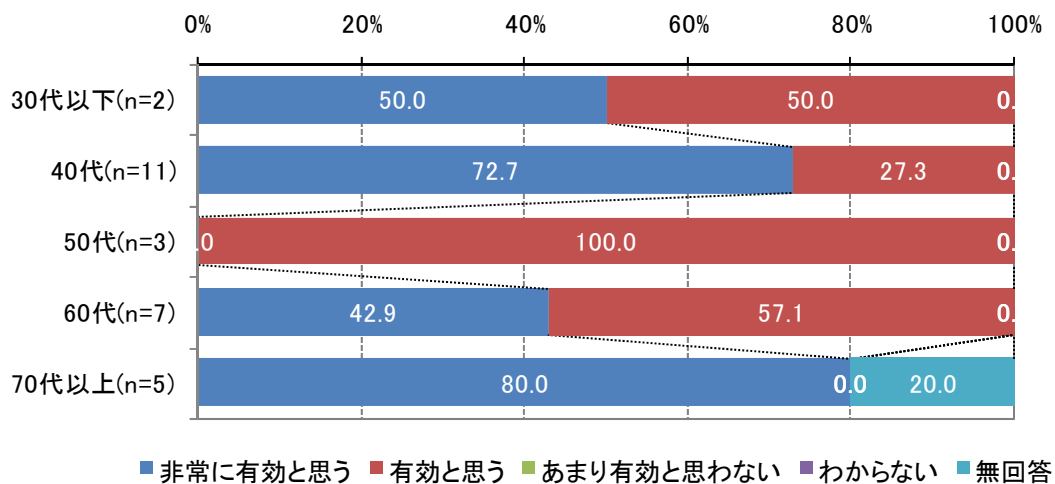


	非常に有効 と思う	有効と思う	あまり有効と 思わない	わからない	無回答	計
件数	16	11	0	0	1	28
割合 (%)	57.1	39.3	0.0	0.0	3.6	100.0

【年代別】

○ 50代では「有効と思う」が100%であった。

図. 関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効か(単数回答, n=28)

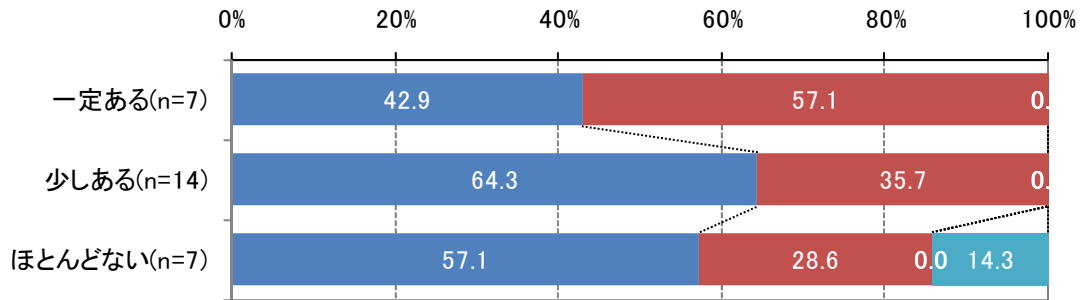


		非常に有効 と思う	有効と思う	あまり有効と 思わない	わからない	無回答	計
件数	30代以下	1	1	0	0	0	2
	40代	8	3	0	0	0	11
	50代	0	3	0	0	0	3
	60代	3	4	0	0	0	7
	70代以上	4	0	0	0	1	5
割合(%)	30代以下(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=11)	72.7	27.3	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=3)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=7)	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代以上(n=5)	80.0	0.0	0.0	0.0	20.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道の経験が「一定ある」人は「非常に有効と思う」を「有効と思う」が上回った。

図. 関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効か(単数回答, n=28)



■ 非常に有効と思う ■ 有効と思う ■ あまり有効と思わない ■ わからない ■ 無回答

		非常に有効 と思う	有効と思う	あまり有効と 思わない	わからない	無回答	計
件数	一定ある	3	4	0	0	0	7
	少しある	9	5	0	0	0	14
	ほとんどない	4	2	0	0	1	7
割合(%)	一定ある(n=7)	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=14)	64.3	35.7	0.0	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=7)	57.1	28.6	0.0	0.0	14.3	100.0

④ 関西の「茶の文化」に関して、見学・体験してみたいプログラムに関してアイデア。

【意見内容】

■今回のような茶室見学

- ・ 茶室見学。
- ・ 大徳寺を見学したいです。
- ・ やはり大徳寺さんを見学してみたい。
- ・ このような非公開の茶室、たとえば不審庵、今日庵、官休庵、燕庵など、お家元の茶室や露地。
- ・ 如庵の見学、松花堂の見学。
- ・ 密庵の見学ができればすばらしいです。
- ・ 待庵、密庵の見学会。
- ・ 待庵の見学。
- ・ 大徳寺茶会。
- ・ 各地の隠れた名茶席。

■その他

- ・ お茶づくり、特に抹茶づくり。
- ・ 世の中に「本物」と「偽物」がありますが、本物に接し感動をもらえるような企画を今後もよろしくお願いします。

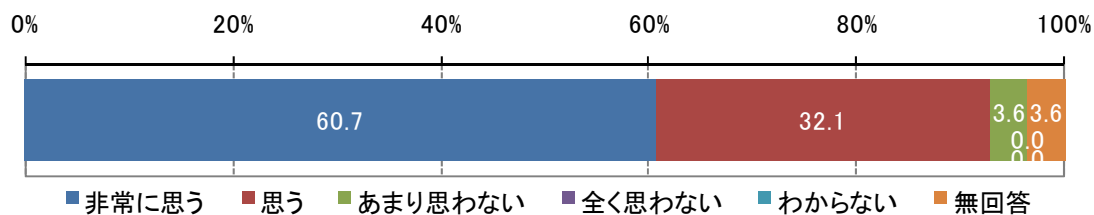
(5) 関西の「本物の文化」の継承・発展に向けて

① 関西の「本物の文化」が今も根付く、我が国一番の地域(文化首都)だと思うか。

【全体】

○ 「非常に思う」・「思う」が合わせて92.8%となっている。

図. 関西は文化首都と思うか(単数回答, n=28)

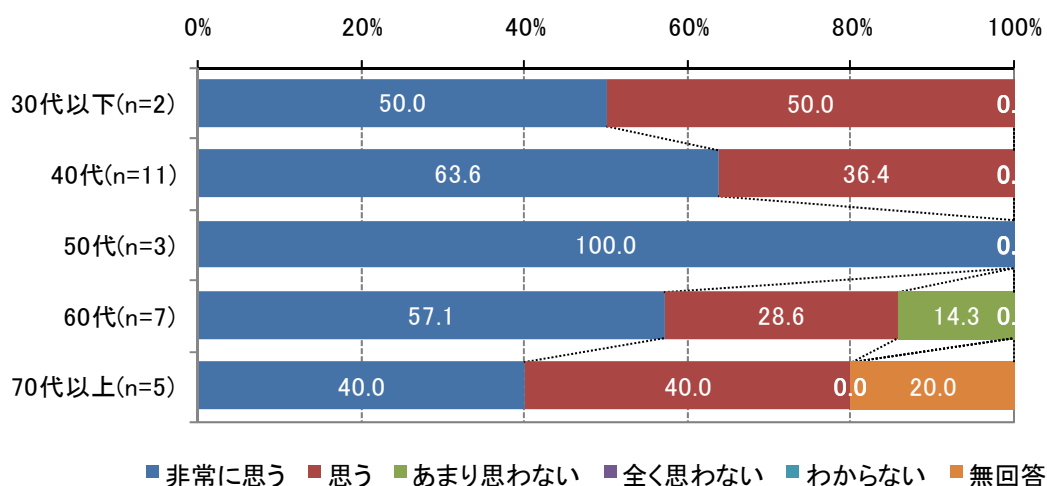


	非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	17	9	1	0	0	1	28
割合 (%)	60.7	32.1	3.6	0.0	0.0	3.6	100.0

【年代別】

○ いずれの年代も「非常に思う」・「思う」が高い。

図. 関西は文化首都と思うか(単数回答, n=28)

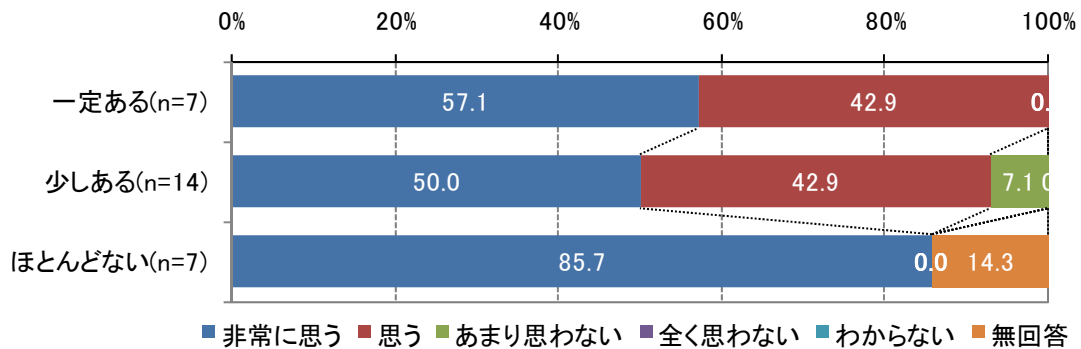


		非常に思う	思う	あまり 思わない	全く 思わない	わからない	無回答	計
件数	30代以下	1	1	0	0	0	0	2
	40代	7	4	0	0	0	0	11
	50代	3	0	0	0	0	0	3
	60代	4	2	1	0	0	0	7
	70代以上	2	2	0	0	0	1	5
割合(%)	30代以下(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=11)	63.6	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=3)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=7)	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代以上(n=5)	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ いずれの層も「非常に思う」・「思う」が高い割合となっている。

図. 関西は文化首都と思うか(単数回答, n=28)



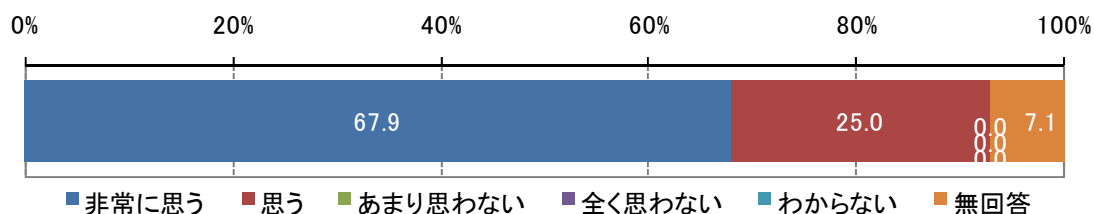
		非常に思う	思う	あまり 思わない	全く 思わない	わからない	無回答	計
件数	一定ある	4	3	0	0	0	0	7
	少しある	7	6	1	0	0	0	14
	ほとんどない	6	0	0	0	0	1	7
割合(%)	一定ある(n=7)	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=14)	50.0	42.9	7.1	0.0	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=7)	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	100.0

② 関西が「本物の文化」をテーマとし、文化の継承・発展に取り組むとともに、国内外へ発信することに意義があると思うか。

【全体】

○ 無回答者を除くすべての人が「非常に思う」・「思う」と答えている。

図. 文化の継承・発展、国内外への発信は意義があるか(単数回答, n=28)

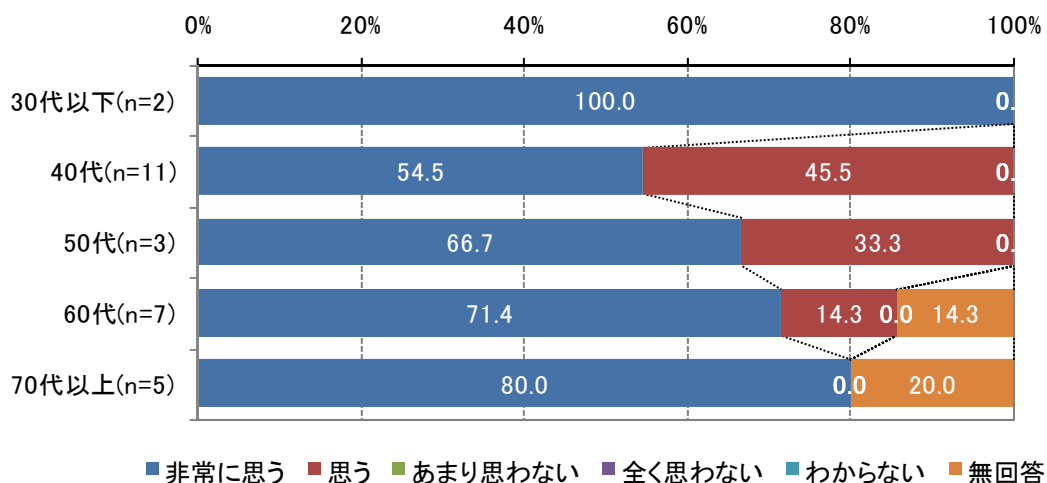


	非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	19	7	0	0	0	2	28
割合 (%)	67.9	25.0	0.0	0.0	0.0	7.1	100.0

【年代別】

○ いずれの年代も「非常に思う」が多い。

図. 文化の継承・発展、国内外への発信は意義があるか(単数回答, n=28)

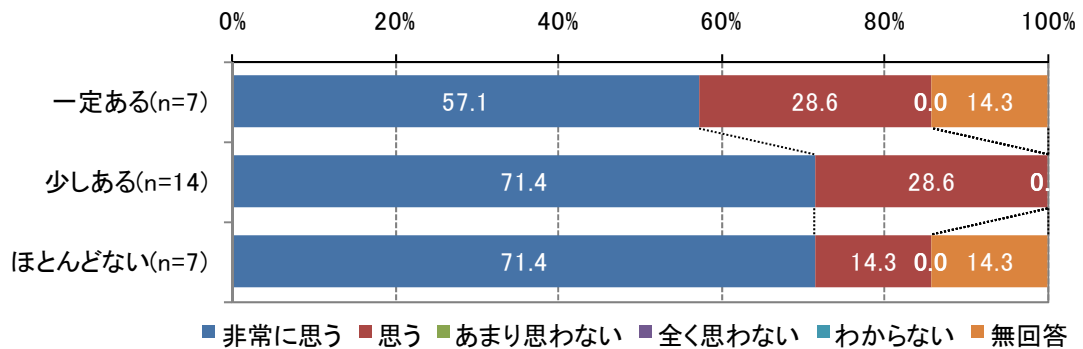


		非常に思う	思う	あまり 思わない	全く 思わない	わからない	無回答	計
件数	30代以下	2	0	0	0	0	0	2
	40代	6	5	0	0	0	0	11
	50代	2	1	0	0	0	0	3
	60代	5	1	0	0	0	1	7
	70代以上	4	0	0	0	0	1	5
割合(%)	30代以下(n=2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=11)	54.5	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=7)	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	100.0
	70代以上(n=5)	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ いずれの層も「非常に思う」が高くなっている。

図. 文化の継承・発展、国内外への発信は意義があるか(単数回答, n=28)



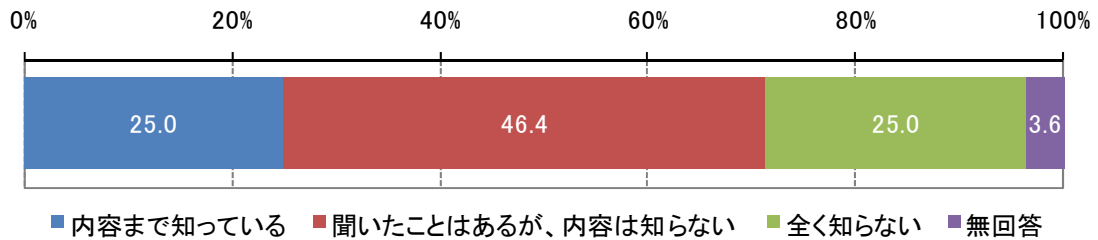
		非常に思う	思う	あまり 思わない	全く 思わない	わからない	無回答	計
件数	一定ある	4	2	0	0	0	1	7
	少しある	10	4	0	0	0	0	14
	ほとんどない	5	1	0	0	0	1	7
割合(%)	一定ある(n=7)	57.1	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3	100.0
	少しある(n=14)	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=7)	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	100.0

③ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の取組を知っているか。

【全体】

○ 「内容まで知っている」が25.0%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が46.4%、「全く知らない」が25.0%と、回答が分かれている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を知っているか(単数回答, n=28)

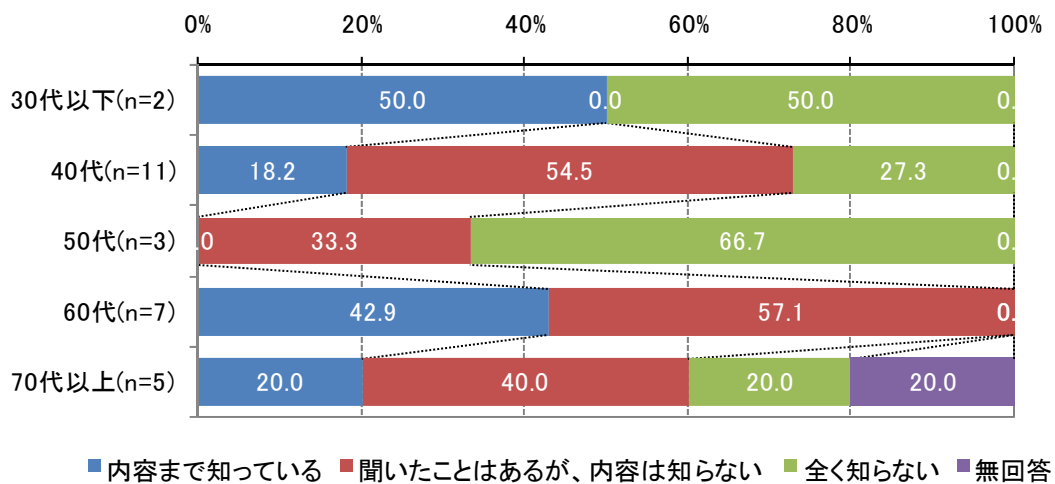


	内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	全く知らない	無回答	計
件数	7	13	7	1	28
割合 (%)	25.0	46.4	25.0	3.6	100.0

【年代別】

○ 各年代とも回答が分かれている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を知っているか(単数回答, n=28)

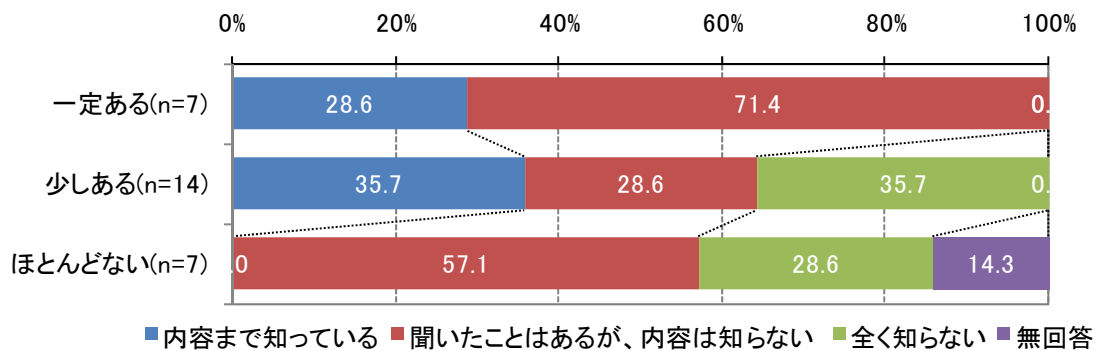


		内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	全く知らない	無回答	計
件数	30代以下	1	0	1	0	2
	40代	2	6	3	0	11
	50代	0	1	2	0	3
	60代	3	4	0	0	7
	70代以上	1	2	1	1	5
割合(%)	30代以下(n=2)	50.0	0.0	50.0	0.0	100.0
	40代(n=11)	18.2	54.5	27.3	0.0	100.0
	50代(n=3)	0.0	33.3	66.7	0.0	100.0
	60代(n=7)	42.9	57.1	0.0	0.0	100.0
	70代以上(n=5)	20.0	40.0	20.0	20.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道の経験が一定ある人は「内容まで知っている」・「聞いたことはある」合わせて100%となっている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を知っているか(単数回答, n=28)



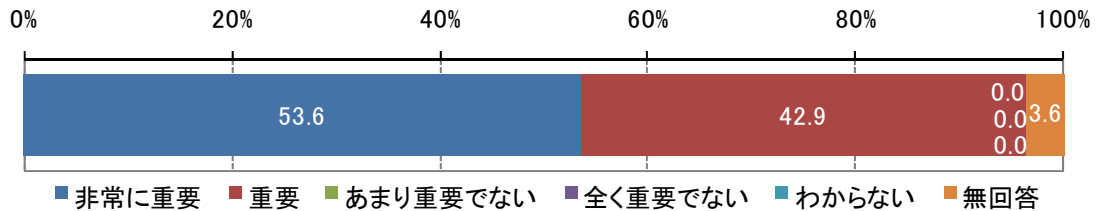
		内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	全く知らない	無回答	計
件数	一定ある	2	5	0	0	7
	少しある	5	4	5	0	14
	ほとんどない	0	4	2	1	7
割合(%)	一定ある(n=7)	28.6	71.4	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=14)	35.7	28.6	35.7	0.0	100.0
	ほとんどない(n=7)	0.0	57.1	28.6	14.3	100.0

④ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の取組を重要だと思うか。

【全体】

○ 無回答者を除くすべての人が「非常に重要」・「重要」と答えている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を重要だと思うか(単数回答, n=28)

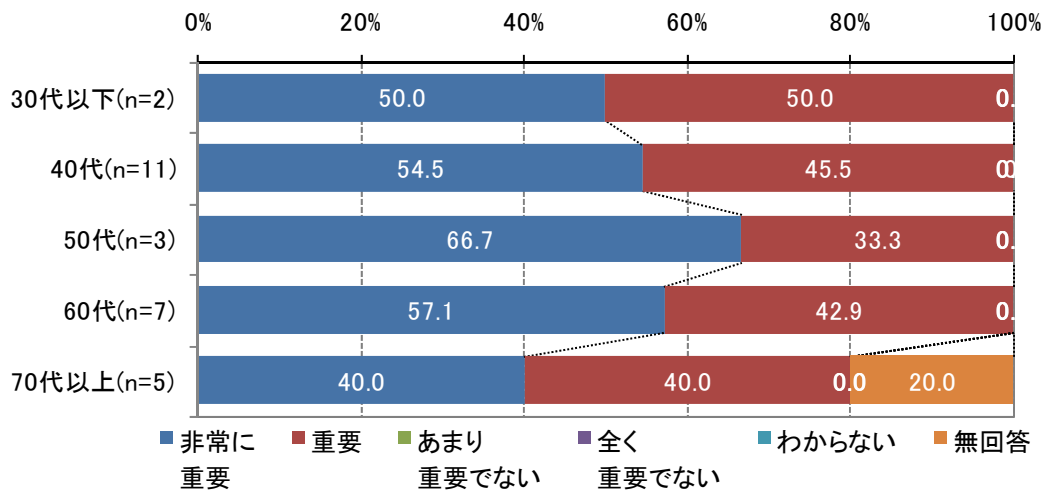


	非常に重要	重要	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	計
件数	15	12	0	0	0	1	28
割合 (%)	53.6	42.9	0.0	0.0	0.0	3.6	100.0

【年代別】

○ いずれの年代も「非常に重要」が高くなっている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を重要だと思うか(単数回答, n=28)

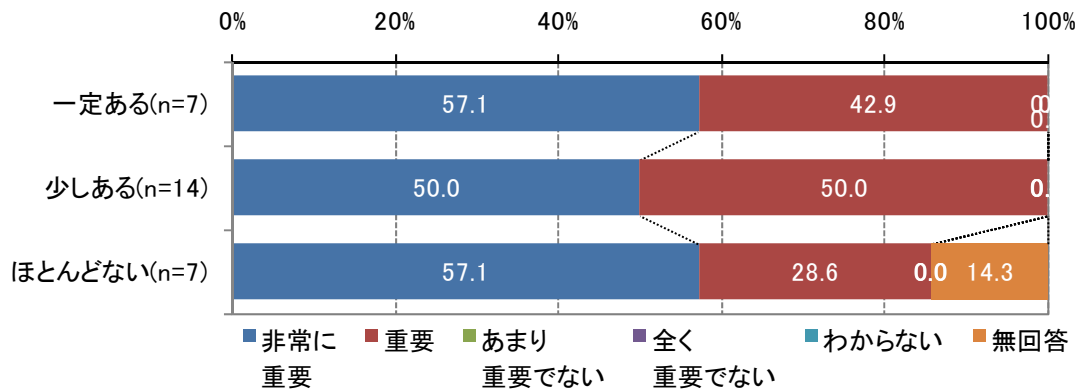


		非常に重要	重要	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	計
件数	30代以下	1	1	0	0	0	0	2
	40代	6	5	0	0	0	0	11
	50代	2	1	0	0	0	0	3
	60代	4	3	0	0	0	0	7
	70代以上	2	2	0	0	0	1	5
割合(%)	30代以下(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=11)	54.5	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=7)	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代以上(n=5)	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ いずれの層も「非常に重要」が高くなっている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を重要だと思うか(単数回答, n=28)



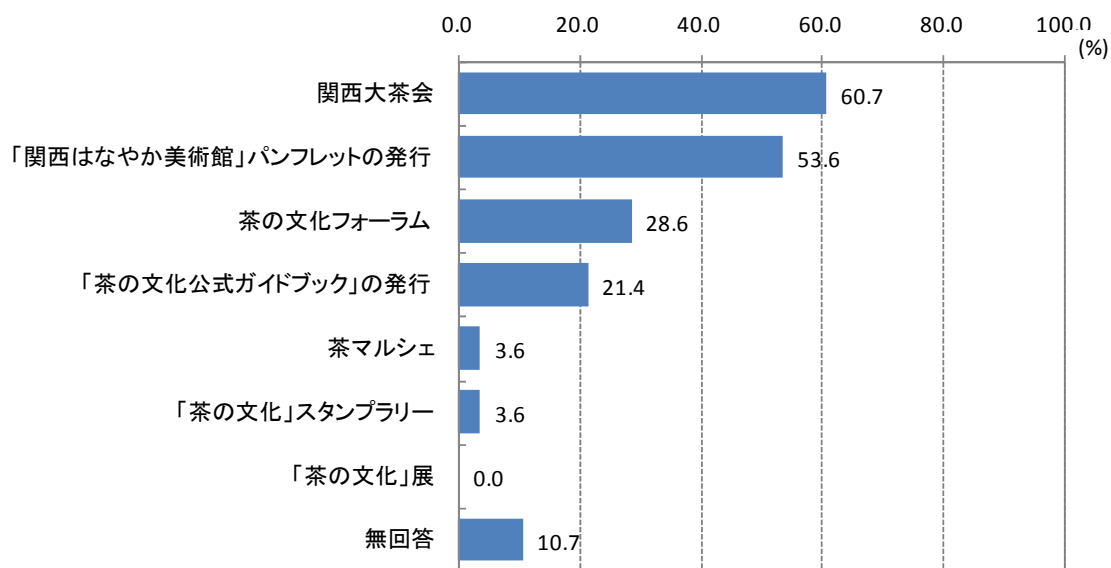
		非常に重要	重要	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	計
件数	一定ある	4	3	0	0	0	0	7
	少しある	7	7	0	0	0	0	14
	ほとんどない	4	2	0	0	0	1	7
割合(%)	一定ある(n=7)	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=14)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=7)	57.1	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3	100.0

⑤ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の取組に関して、見学会以外に特に関心のあるプログラムについて。

【全体】

○ 「関西大茶会」が60.7%、「『関西はなやか美術館』パンフレットの発行」が53.6%と高くなっている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組で関心のあるプログラム(複数回答, n=28)

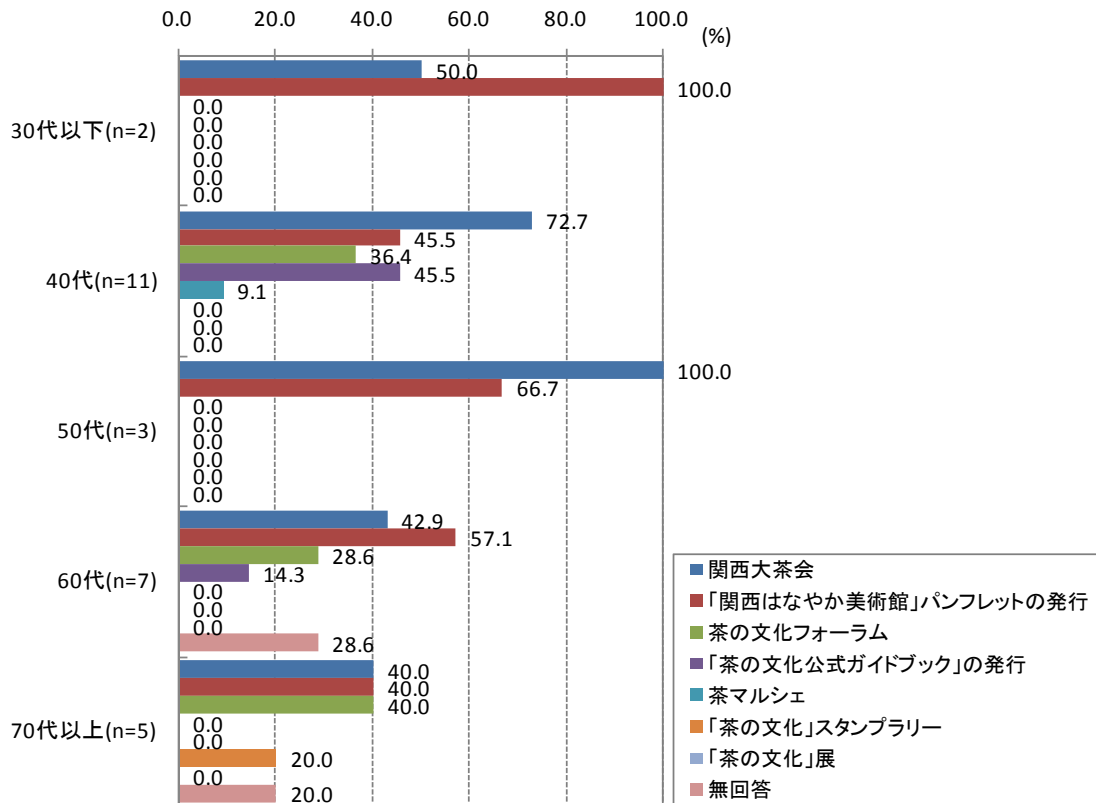


	件数	割合 (%)
関西大茶会	17	60.7
『関西はなやか美術館』パンフレットの発行	15	53.6
茶の文化フォーラム	8	28.6
『茶の文化公式ガイドブック』の発行	6	21.4
茶マルシェ	1	3.6
『茶の文化』スタンプラリー	1	3.6
『茶の文化』展	0	0.0
無回答	3	10.7
	51	

【年代別】

○ いずれの年代も「関西大茶会」、「『関西はなやか美術館』パンフレットの発行」が高い値となっているが、40代では『茶の文化公式ガイドブック』の発行、「茶の文化フォーラム」にも同様に関心が寄せられている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組で関心のあるプログラム(複数回答, n=28)

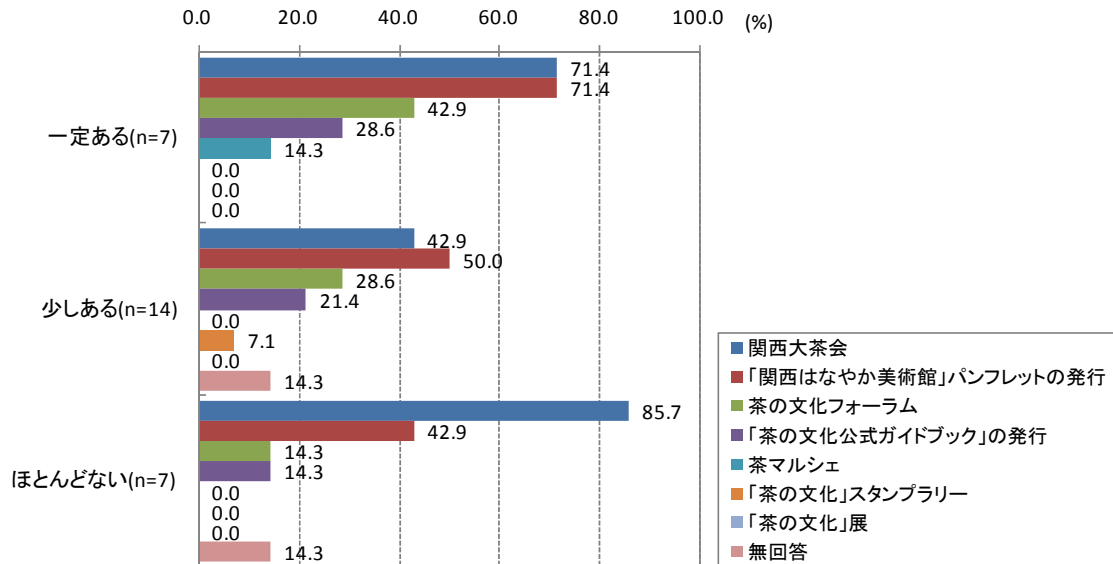


		関西大茶会	「関西はなやか美術館」パンフレットの発行	茶の文化フォーラム	「茶の文化公式ガイドブック」の発行	茶マルシェ	「茶の文化」スタンプラリー	「茶の文化」展	無回答
件数	30代以下	1	2	0	0	0	0	0	0
	40代	8	5	4	5	1	0	0	0
	50代	3	2	0	0	0	0	0	0
	60代	3	4	2	1	0	0	0	2
	70代以上	2	2	2	0	0	1	0	1
割合(%)	30代以下(n=2)	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40代(n=11)	72.7	45.5	36.4	45.5	9.1	0.0	0.0	0.0
	50代(n=3)	100.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代(n=7)	42.9	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6
	70代以上(n=5)	40.0	40.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0

【茶道の経験・知識の有無別】

○ 茶道経験の有無によらず、「関西大茶会」、「『関西はなやか美術館』パンフレットの発行」は高い値になっている。

図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組で関心のあるプログラム(複数回答, n=28)



		関西大茶会	「関西はなやか美術館」パンフレットの発行	茶の文化フォーラム	「茶の文化公式ガイドブック」の発行	茶マルシェ	「茶の文化」スタンプラリー	「茶の文化」展	無回答
件数	一定ある	5	5	3	2	1	0	0	0
	少しある	6	7	4	3	0	1	0	2
	ほとんどない	6	3	1	1	0	0	0	1
割合(%)	一定ある(n=7)	71.4	71.4	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0
	少しある(n=14)	42.9	50.0	28.6	21.4	0.0	7.1	0.0	14.3
	ほとんどない(n=7)	85.7	42.9	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3

(6) 関西の「本物の文化」をテーマとした取組について

【意見内容】

■今後の要望など

- ・ 本物の文化に触れることは非常によいことと思いましたが、時間が少なかった。
- ・ 「着物」「生け花」等にスポットを当ててみては、と思います。
- ・ 建築と文化の関係性を読み解く。
- ・ 聴竹居の見学。
- ・ お茶道具の中でも特に焼物関係をテーマとしたものが見てみたいと思います。ありがとうございました。
- ・ また違う年度でも企画してください。
- ・ 国立博物館などでの展示ができると、もっと広く大々的にPRできるように思います。そうすれば他府県にも広く(海外にも)アピールできる。

■その他・感想など

- ・ 前回に比べてゆっくり拝見できてよかったと思います。
- ・ いろいろお世話になりました。
- ・ 十分に楽しめ、勉強になり、ありがとうございました。
- ・ 本日はありがとうございました。貴重な体験ができました。
- ・ 「本物の文化」というものにふれられ、今まで知らない事をいろいろ知ることができ、とても嬉しかったです。それもじっくりと体感でき幸せでした。ありがとうございました。
- ・ 今まで何回も寺院、神社など行きましたが、今回のプログラム、関西の「本物の文化」に参加し、すばらしい中村先生(講師)のお話と本物に接し、昔の日本文化に接しました。このような企画に参加させていただいた事に感謝し、次回もこのような企画があれば応募したいと思っています。

「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」
“非公開茶室の見学”に関するアンケート調査
（山崎コース）

集計結果

平成 24 年 3 月

国土交通省 近畿地方整備局

- 目次 -

I. 実施概要	1
1. 実施概要	1
II. アンケート集計結果	2
1. アンケート集計結果	2
(1) 属性	2
(2) 本見学への参加・きっかけ・目的	4
(3) 本見学会への評価等	8
(4) 本プログラム全体について	16
(5) 関西の「本物の文化」の継承・発展に向けて	23
(6) 関西の「本物の文化」をテーマとした取組について	34

I. 実施概要

1. 実施概要

日時:平成 24 年 2 月 24 日(金)9 時 30 分～15 時 30 分

参加人数:30 名(応募者多数のため抽選で参加者を選定)

対象:参加者

回収数:30 件

回収率:100.0%

行程:山崎(八幡の松花堂+水無瀬神宮茶室灯心亭+妙喜庵茶室待庵)コース

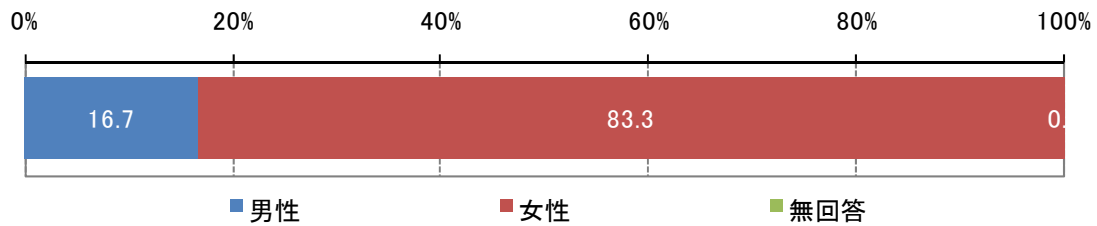
時間	項目
9:30～	八幡市立松花堂庭園・美術館 1 階講習室前に集合・受付(参加費用徴収・資料及びアンケート配付) 受付後、10:00 まで新春展「春と吉祥ー17 世紀から 20 世紀の日本、中国の絵画を中心にー」を各自鑑賞。
10:00～	実行委員会アドバイザー挨拶・案内解説者の紹介 (10 分)
10:10～	美術館展示室を見学、川畑薫学芸員によるギャラリートーク (30 分)
10:40～	茶室松花堂 (京都府指定有形文化財) (75 分)
11:55～	昼食「吉兆」松花堂弁当 (60 分)
13:00～	移動(車両) (15 分)
13:15～	水無瀬神宮 茶室灯心亭 (重要文化財) (40 分)
13:55～	移動(車両) (15 分)
14:10～	妙喜庵茶室待庵 (国宝) (70 分)
15:20～	モニタリングのためのアンケート用紙回収
15:30～	解散

II. アンケート集計結果

1. アンケート集計結果

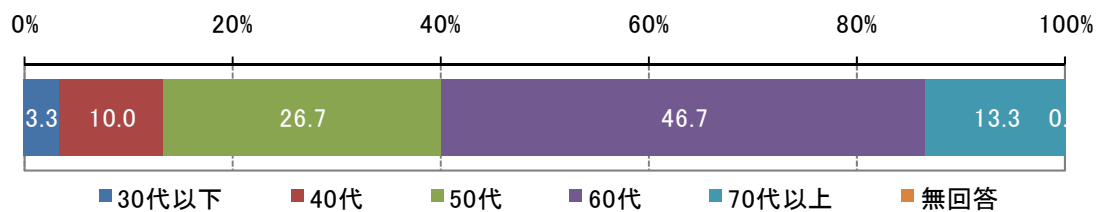
(1) 属性

① 性別



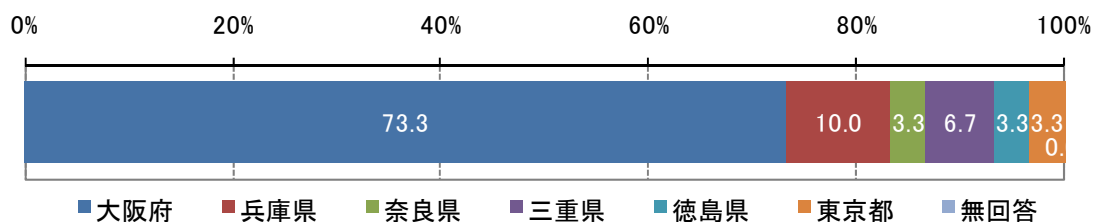
	男性	女性	無回答	計
件数	5	25	0	30
割合(%)	16.7	83.3	0.0	100.0

② 年齢



	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	無回答	計
件数	1	3	8	14	4	0	30
割合(%)	3.3	10.0	26.7	46.7	13.3	0.0	100.0

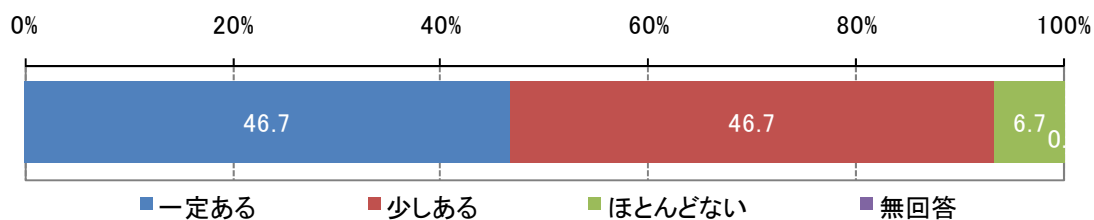
③ 居住地



	大阪府	兵庫県	奈良県	三重県	徳島県	東京都	無回答	計
件数	22	3	1	2	1	1	0	30
割合(%)	73.3	10.0	3.3	6.7	3.3	3.3	0.0	100.0

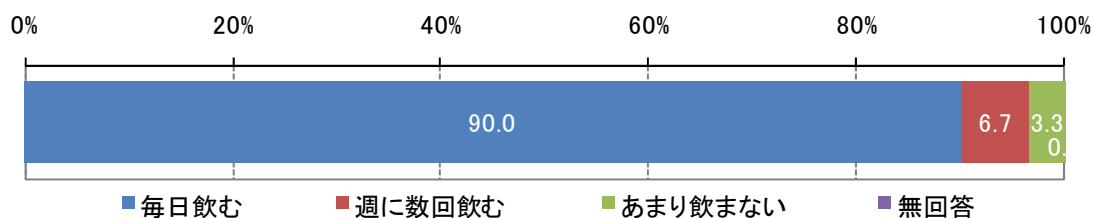
④ 「茶の文化」に関する活動

④-1. 茶道の経験・知識



	一定ある	少しある	ほとんどない	無回答	計
件数	14	14	2	0	30
割合 (%)	46.7	46.7	6.7	0.0	100.0

④-2. 日本茶を飲む習慣



	毎日飲む	週に数回飲む	あまり飲まない	無回答	計
件数	27	2	1	0	30
割合 (%)	90.0	6.7	3.3	0.0	100.0

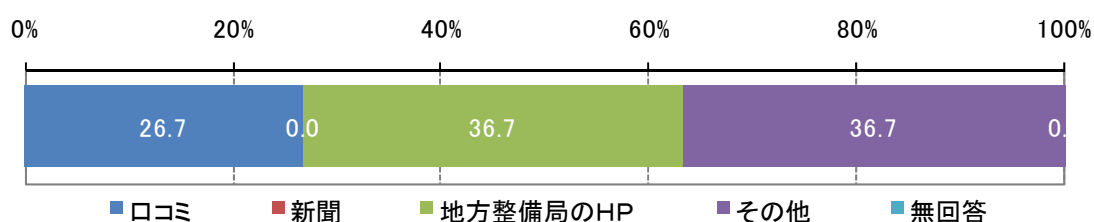
(2) 本見学への参加・きっかけ・目的

① 本見学会参加のきっかけ

○ 「地方整備局のHP」が36.7%、「口コミ」が26.7%の他、「その他」（インターネット、メールなど）も36.7%にのぼっている。

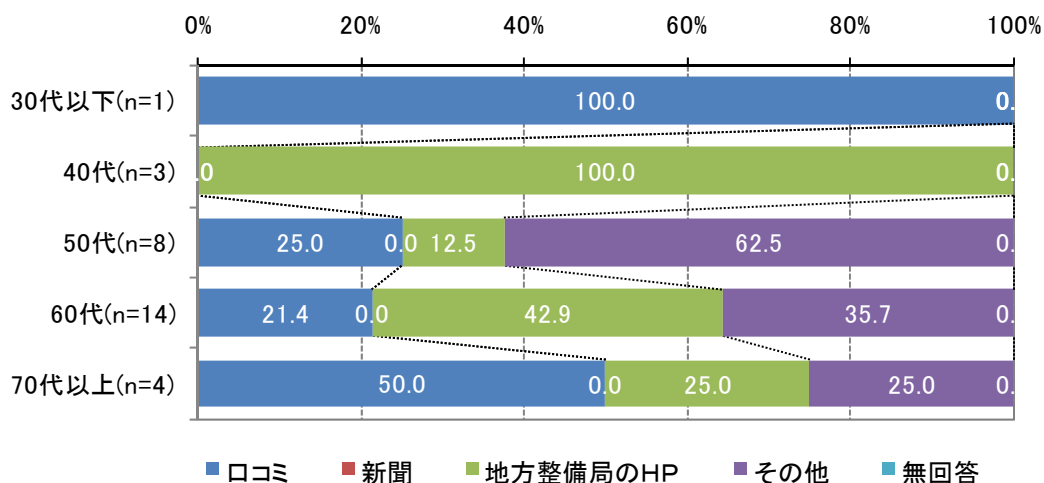
図. 本見学会参加のきっかけ(単数回答, n=30)

【全体】



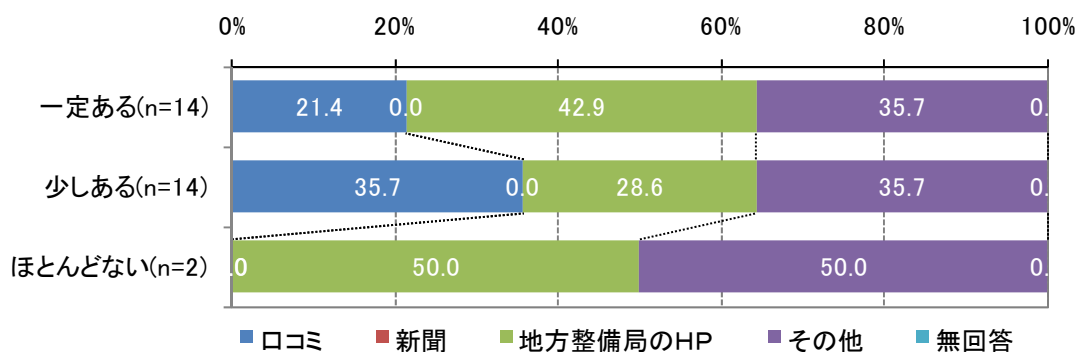
	口コミ	新聞	地方整備局のHP	その他	無回答	計
件数	8	0	11	11	0	30
割合 (%)	26.7	0.0	36.7	36.7	0.0	100.0

【年代別】



		口コミ	新聞	地方整備局のHP	その他	無回答	計
件数	30代以下	1	0	0	0	0	1
	40代	0	0	3	0	0	3
	50代	2	0	1	5	0	8
	60代	3	0	6	5	0	14
	70代以上	2	0	1	1	0	4
割合 (%)	30代以下(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=3)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=8)	25.0	0.0	12.5	62.5	0.0	100.0
	60代(n=14)	21.4	0.0	42.9	35.7	0.0	100.0
	70代以上(n=4)	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】



		口コミ	新聞	地方整備局のHP	その他	無回答	計
件数	一定ある	3	0	6	5	0	14
	少しある	5	0	4	5	0	14
	ほとんどない	0	0	1	1	0	2
割合 (%)	一定ある(n=14)	21.4	0.0	42.9	35.7	0.0	100.0
	少しある(n=14)	35.7	0.0	28.6	35.7	0.0	100.0
	ほとんどない(n=2)	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	100.0

【「その他」内容】

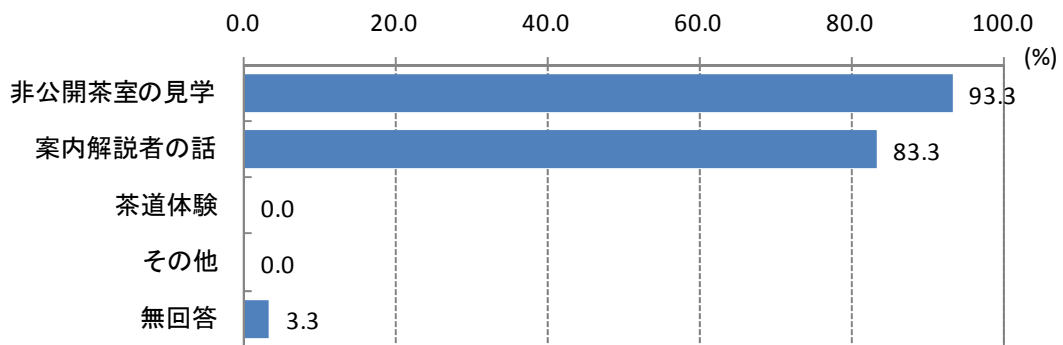
- ・ HP、ブログ、インターネットなど(4名)
- ・ 友人に誘われて(2名)
- ・ 岩崎先生ご紹介(1名)
- ・ メール(1名)
- ・ FAX でのお知らせ(1名)

② 本見学会への参加目的

○ 「非公開茶室の見学」が93.3%、「案内解説者の話」が83.3%と圧倒的に高く、「茶道体験」は0.0%であった。

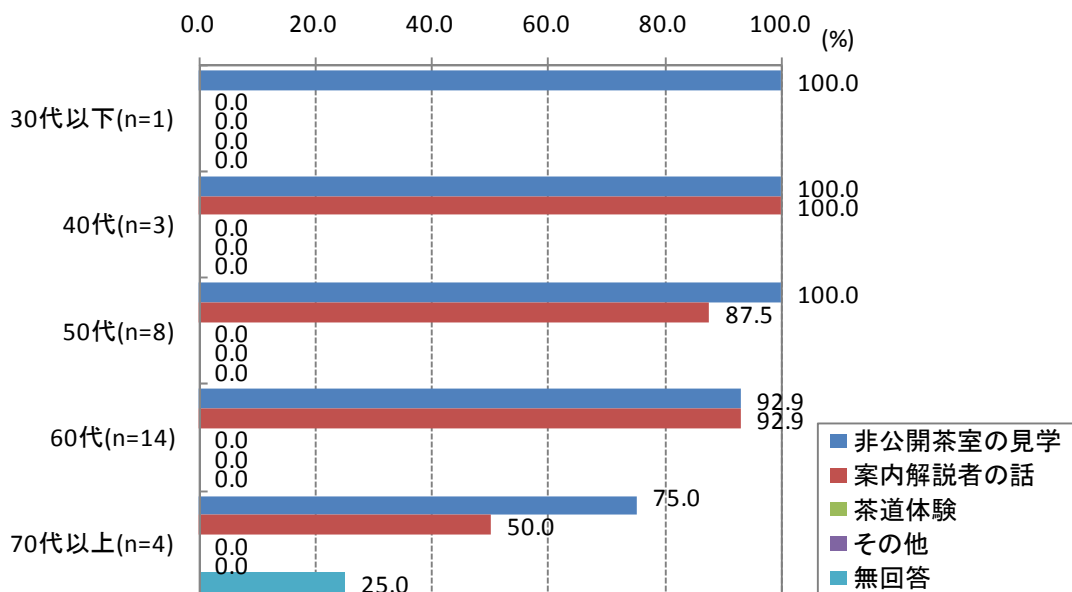
図. 本見学会への参加目的(複数回答, n=30)

【全体】



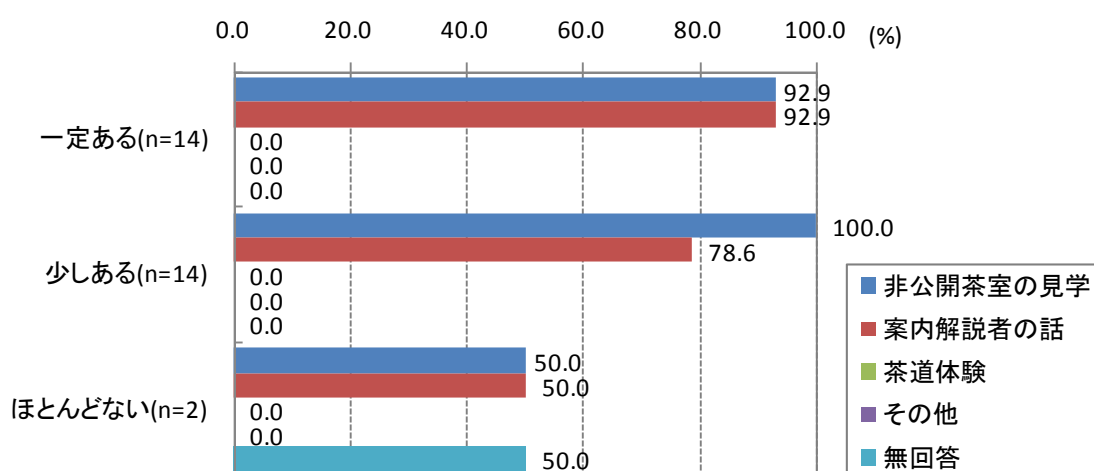
	件数	割合 (%)
非公開茶室の見学	28	93.3
案内解説者の話	25	83.3
茶道体験	0	0.0
その他	0	0.0
無回答	1	3.3
	54	

【年代別】



		非公開茶室 の見学	案内解説者 の話	茶道体験	その他	無回答
件数	30代以下	1	0	0	0	0
	40代	3	3	0	0	0
	50代	8	7	0	0	0
	60代	13	13	0	0	0
	70代以上	3	2	0	0	1
割合(%)	30代以下(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40代(n=3)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	50代(n=8)	100.0	87.5	0.0	0.0	0.0
	60代(n=14)	92.9	92.9	0.0	0.0	0.0
	70代以上(n=4)	75.0	50.0	0.0	0.0	25.0

【茶道の経験・知識の有無別】



		非公開茶室 の見学	案内解説者 の話	茶道体験	その他	無回答
件数	一定ある	13	13	0	0	0
	少しある	14	11	0	0	0
	ほとんどない	1	1	0	0	1
割合(%)	一定ある(n=14)	92.9	92.9	0.0	0.0	0.0
	少しある(n=14)	100.0	78.6	0.0	0.0	0.0
	ほとんどない(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0

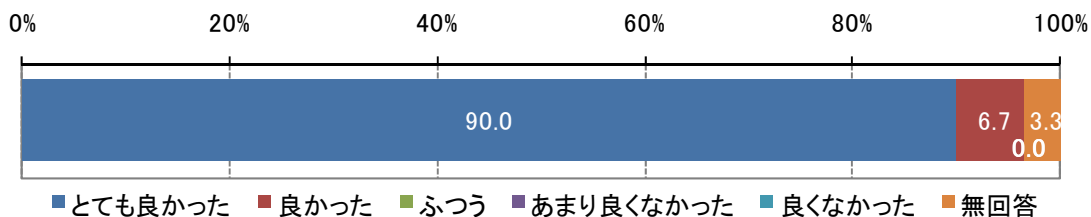
(3) 本見学会への評価等

① 全体評価

○ 「とても良かった」が90.0%、「良かった」が6.7%となっている。

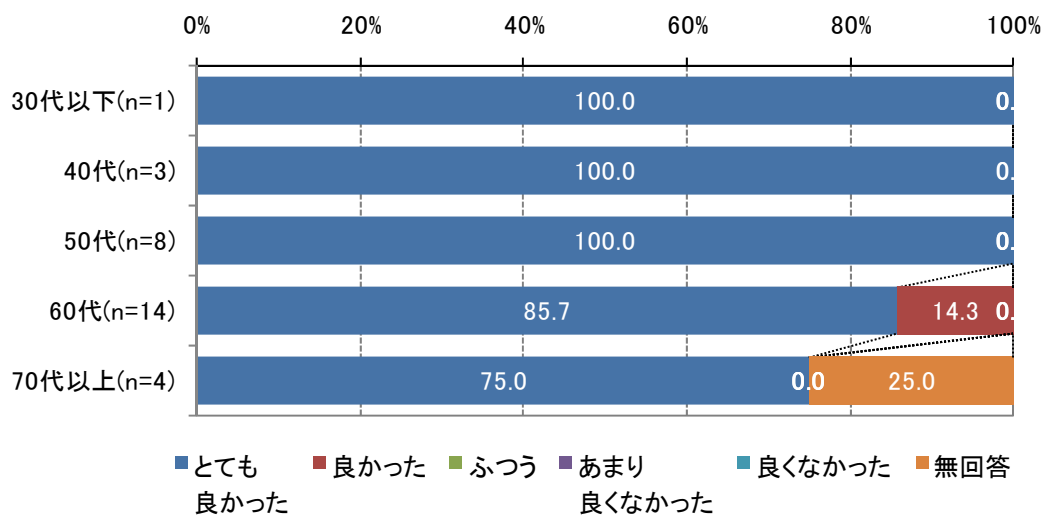
図. 本見学会の全体評価(単数回答, n=30)

【全体】



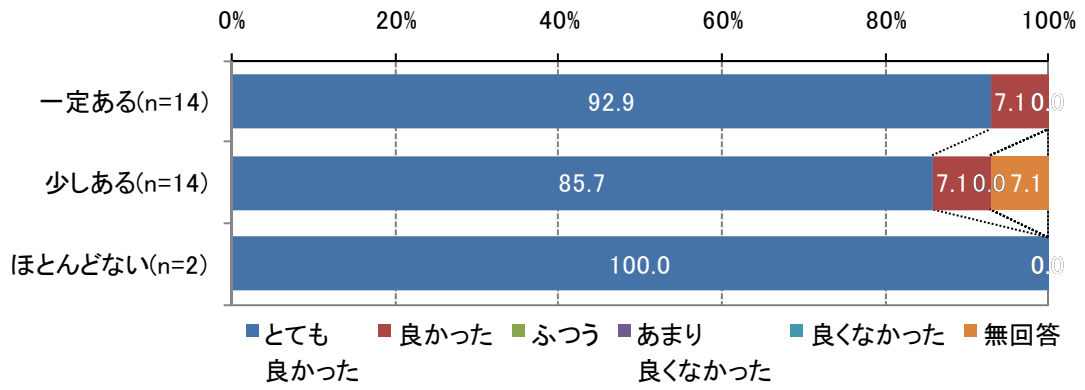
	とても良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	計
件数	27	2	0	0	0	1	30
割合 (%)	90.0	6.7	0.0	0.0	0.0	3.3	100.0

【年代別】



		とても良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	計
件数	30代以下	1	0	0	0	0	0	1
	40代	3	0	0	0	0	0	3
	50代	8	0	0	0	0	0	8
	60代	12	2	0	0	0	0	14
	70代以上	3	0	0	0	0	1	4
割合 (%)	30代以下(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=3)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=8)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=14)	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代以上(n=4)	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】



		とても 良かった	良かった	ふつう	あまり 良かった	良くなかった	無回答	計
件数	一定ある	13	1	0	0	0	0	14
	少しある	12	1	0	0	0	1	14
	ほとんどない	2	0	0	0	0	0	2
割合 (%)	一定ある(n=14)	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=14)	85.7	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	100.0
	ほとんどない(n=2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

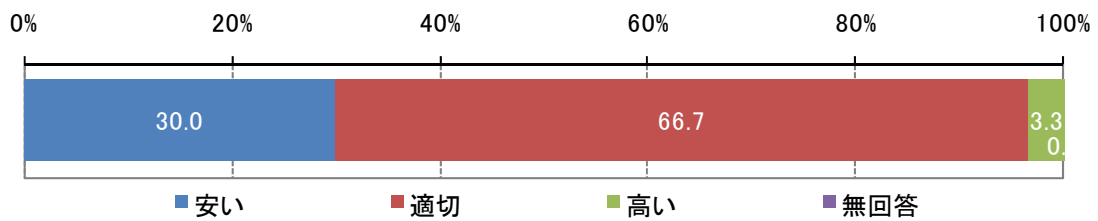
② 費用・時間に関する評価

②-1. 費用について

○ 全体では66.7%が「適切」、30.0%が「安い」と答えているが、茶道経験が一定ある人では「安い」が42.9%と若干高くなっている。

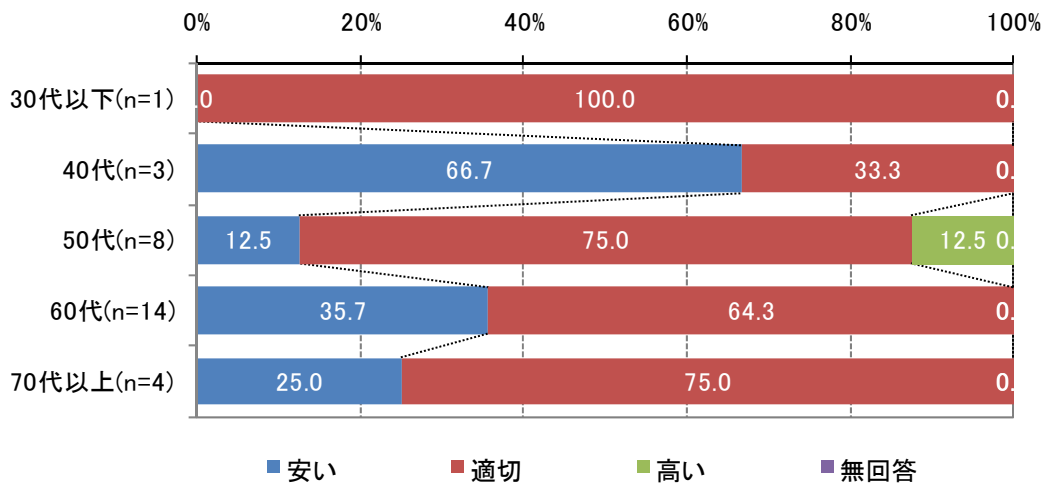
図. 費用についての評価(単数回答, n=30)

【全体】



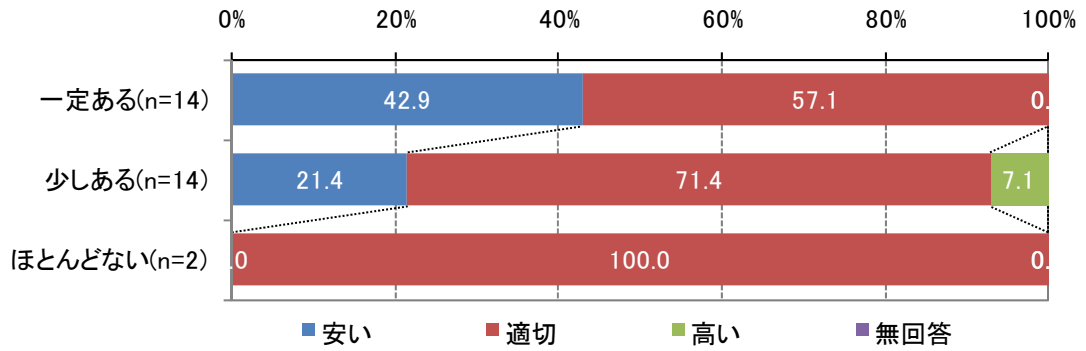
	安い	適切	高い	無回答	計
件数	9	20	1	0	30
割合 (%)	30.0	66.7	3.3	0.0	100.0

【年代別】



		安い	適切	高い	無回答	計
件数	30代以下	0	1	0	0	1
	40代	2	1	0	0	3
	50代	1	6	1	0	8
	60代	5	9	0	0	14
	70代以上	1	3	0	0	4
割合 (%)	30代以下(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0
	50代(n=8)	12.5	75.0	12.5	0.0	100.0
	60代(n=14)	35.7	64.3	0.0	0.0	100.0
	70代以上(n=4)	25.0	75.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】



		安い	適切	高い	無回答	計
件数	一定ある	6	8	0	0	14
	少しある	3	10	1	0	14
	ほとんどない	0	2	0	0	2
割合(%)	一定ある(n=14)	42.9	57.1	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=14)	21.4	71.4	7.1	0.0	100.0
	ほとんどない(n=2)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0

(適切と考える費用)

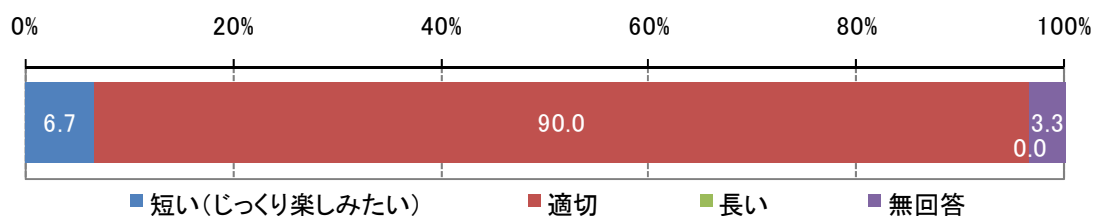
- ・ 30,000 円 (1名)

②-2. 時間について

○ 「適切」が90.0%と高いが、「短い」と回答した人も6.7%いた。逆に「長い」と答えた人は0.0%であった。

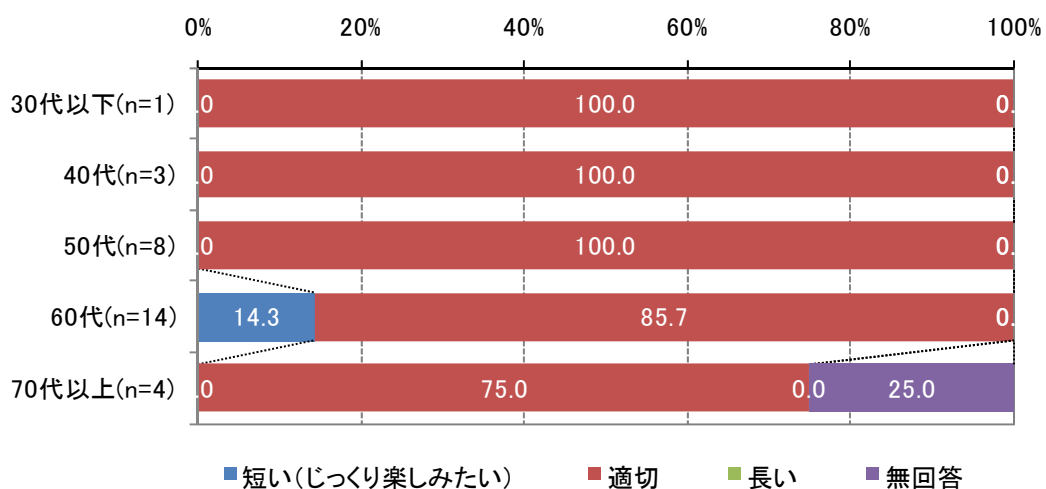
図. 時間についての評価(単数回答, n=30)

【全体】



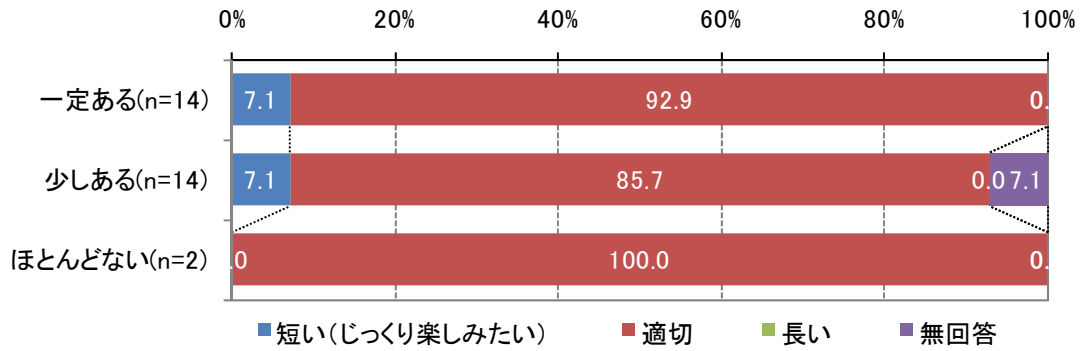
	短い(じっくり楽しみたい)	適切	長い	無回答	計
件数	2	27	0	1	30
割合 (%)	6.7	90.0	0.0	3.3	100.0

【年代別】



		短い(じっくり楽しみたい)	適切	長い	無回答	計
件数	30代以下	0	1	0	0	1
	40代	0	3	0	0	3
	50代	0	8	0	0	8
	60代	2	12	0	0	14
	70代以上	0	3	0	1	4
割合 (%)	30代以下(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=3)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=8)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=14)	14.3	85.7	0.0	0.0	100.0
	70代以上(n=4)	0.0	75.0	0.0	25.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】



		短い(じっくり楽しみたい)	適切	長い	無回答	計
件数	一定ある	1	13	0	0	14
	少しある	1	12	0	1	14
	ほとんどない	0	2	0	0	2
割合(%)	一定ある(n=14)	7.1	92.9	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=14)	7.1	85.7	0.0	7.1	100.0
	ほとんどない(n=2)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0

③ 本見学会で特に良かったと思う点

【意見内容】

■先生の解説が良かった

- ・ 中村先生の語り、これに尽きます。
- ・ 中村先生の詳細なご説明を直接うかがえて感激しました。
- ・ 中村先生のお話がとても良かった。茶室建築、その他の日本建築へのご造詣の深さが如実にあらわれていて素晴らしかったです。
- ・ 中村先生の解説が非常にわかりやすく、また親しみやすく語りがよかったです。
- ・ 中村先生のお話が良かった。
- ・ 中村教授のお話が聴けたこと。
- ・ 中村先生、岩崎先生の解説がすばらしかったです。
- ・ 中村先生の熱のこもった説明、ご自分の考えを表した表現がこちらの心にひびき、とても良かったです。
- ・ 建築に携わられた先生による説明で裏話等も心に残りました。
- ・ 全体を通じて中村先生の茶室建築に対する情熱と夢を感じて、とても感動しています。
- ・ 中村先生の魂のこもったお話の中、書物では想像できない世界でした。心身全体で感じたものでした。一生の宝物になる経験をさせていただきました。
- ・ 待庵、水無瀬、松花堂の茶室の説明。
- ・ 講師先生のご説明が良かった。
- ・ 先生のお人柄と深い知識からのお話に大変うれしく感謝の気持ちで一杯でございます。ありがとうございました。

■非公開茶室の見学を先生の解説付きでできたことが良かった

- ・ 中村先生の説明で茶室が見学できたこと。
- ・ 中村先生の解説、待庵の見学。
- ・ 待庵の中に入れ中村先生のお話を聞けたこと。
- ・ 待庵の中に入ることができ、中で中村先生のお話を聞くことができたこと。
- ・ 3カ所の各茶室、中村先生の説明はとても素晴らしく感激いたしました。
- ・ 実際に見学しながら中村先生のお話を聞けたこと。普段なかなか見られない茶室をみられたこと。

■待庵に入れたことが良かった、など

- ・ 待庵に入れてもらえると思ってもみませんでした。中に入ると身震いがしました。先達の心に思いをはせることができました。
- ・ 国宝の茶室に入ることができるとは思いませんでしたので、参加できて本当に良かったです。貴重な体験でした。
- ・ 待庵で茶室の中に入れていただいたこと(これは内緒なのかもしれませんが、とても感激しました)。
- ・ 待庵を拝見できたことです。
- ・ お茶室の中に思いがけず入って見学ができたこと。
- ・ 非公開茶室を外から拝見するだけでなく、中で座らせていただけたのは、とても嬉しくありがとうございました。
- ・ 待庵での屋敷体験は二度とないと思われ感動でした。他の草庵もそれぞれ印象深いものでした。
- ・ 国宝の待庵が見学できたこと。
- ・ 待庵見学ができたことがよかったです。
- ・ 茶室に入って座らせていただけて、当時の雰囲気にとろけることができました。
- ・ 妙喜庵では時空を超えた体験ができ、思いの外心の落ち着く空間に感動いたしました。ありがとうございました。

■その他

- ・ 体験できるとは思っていなかったことが体験できました。
- ・ すべて貴重な体験をさせて頂き感謝しております。
- ・ 全体的にとっても静かで落ち着いた見学ができた。
- ・ 企画して下さった方の心が伝ってくるようでした。待庵の心配り本当にありがとうございました。
- ・ 事務局様の対応。見学者の選定。

④ 本見学会をより良くするためのアイデア(プログラム構成等)

【意見内容】

■プログラム構成・運営などについて

- ・ 資料をもう少しはやく届けていただけるとよいと思います。
- ・ 茶室内の歩き方を事前に説明する。応募者全員に対する体制づくり。
- ・ 説明を詳しくいろいろとお願いできるとよい勉強になります。
- ・ ご説明のとき簡易マイクがあればと感じました。
- ・ 30名だと先生のお話が聞こえづらく、大切な部分で聞き逃したのが残念。スタッフの方々にフォローしていただければもっと良かった。
- ・ 人数が少し多いかと思いますが、これ以下ですと見学会としては成り立ちませんし、大変ですね。
- ・ どこかで簡易でよいので、お茶をいただけると嬉しいです。

■今回の内容で充分満足した

- ・ 大変良い構成で何も言うことはございません。感謝いっぱいです。
- ・ 無駄のない時間の使い方に満足しております。中村教授の話の内容も充分しており満足しております。ありがとうございました。
- ・ 現状でパーフェクト、スタッフ皆様お世話になりました。
- ・ 大変良かったと思いましたが新たにありません。
- ・ このプログラムでたいへんよかったです。
- ・ 今のままでよいと思います。

■今後への期待など

- ・ お茶の文化に加え歴史的に特色のあるものを対象にした催しの企画になれば良いと思います。

■その他

- ・ 男山と山崎が意外に近いのだと実感しました。

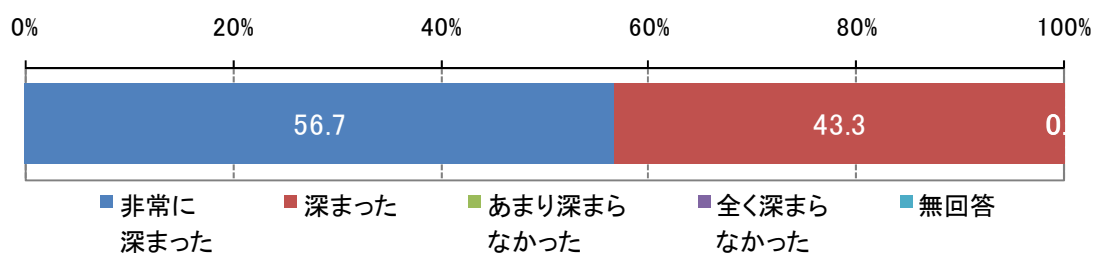
(4) 本プログラム全体について

① 今回のプログラムを通じて、「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか。

○ 全体では「非常に深まった」が56.7%であるが、茶道経験が一定ある人ではその割合が71.4%と高くなっている。

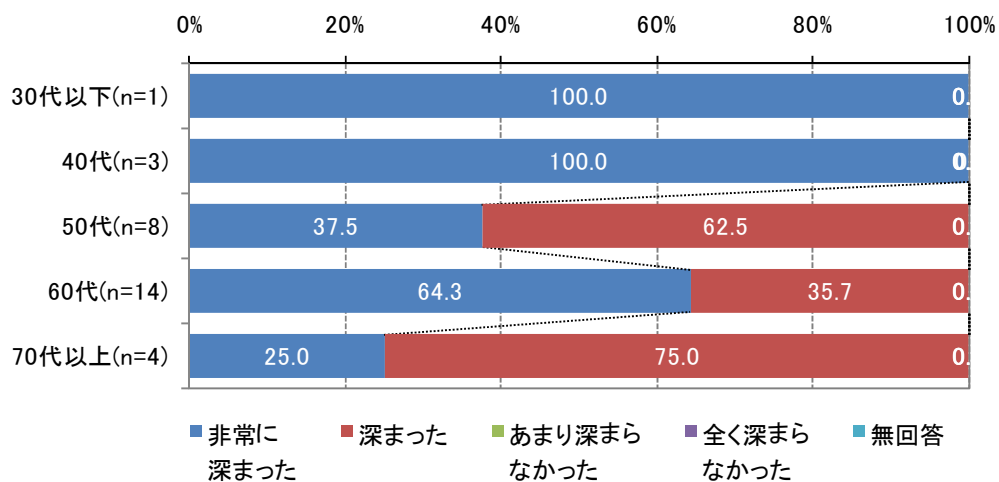
図.「茶の文化」に対する理解・関心は深まったか(単数回答, n=30)

【全体】



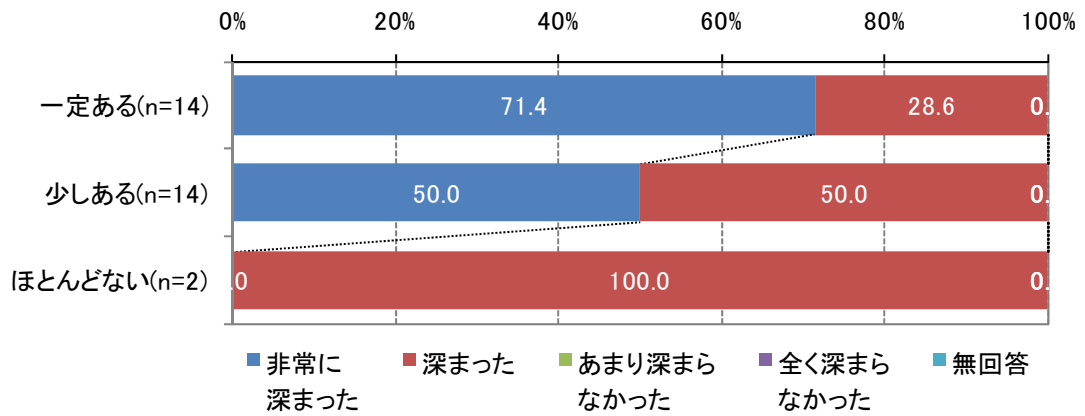
	非常に深まった	深まった	あまり深まらなかった	全く深まらなかった	無回答	計
件数	17	13	0	0	0	30
割合 (%)	56.7	43.3	0.0	0.0	0.0	100.0

【年代別】



		非常に深まった	深まった	あまり深まらなかった	全く深まらなかった	無回答	計
件数	30代以下	1	0	0	0	0	1
	40代	3	0	0	0	0	3
	50代	3	5	0	0	0	8
	60代	9	5	0	0	0	14
	70代以上	1	3	0	0	0	4
割合 (%)	30代以下(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=3)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=8)	37.5	62.5	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=14)	64.3	35.7	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代以上(n=4)	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】



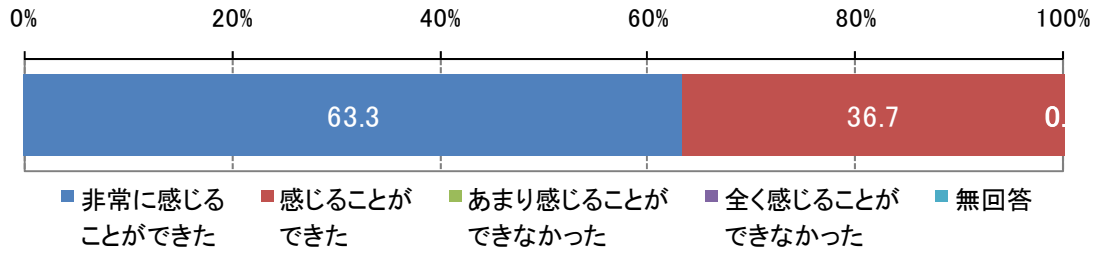
		非常に深まった	深まった	あまり深まらなかった	全く深まらなかった	無回答	計
件数	一定ある	10	4	0	0	0	14
	少しある	7	7	0	0	0	14
	ほとんどない	0	2	0	0	0	2
割合(%)	一定ある(n=14)	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=14)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=2)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0

② 今回のプログラムを通じて、関西の「本物の文化」を感じる事ができたか。

○ 全体では「非常に感じる事ができた」が 63.3%であるが、茶道経験が一定ある人ではその割合が 78.6%と高くなっている。

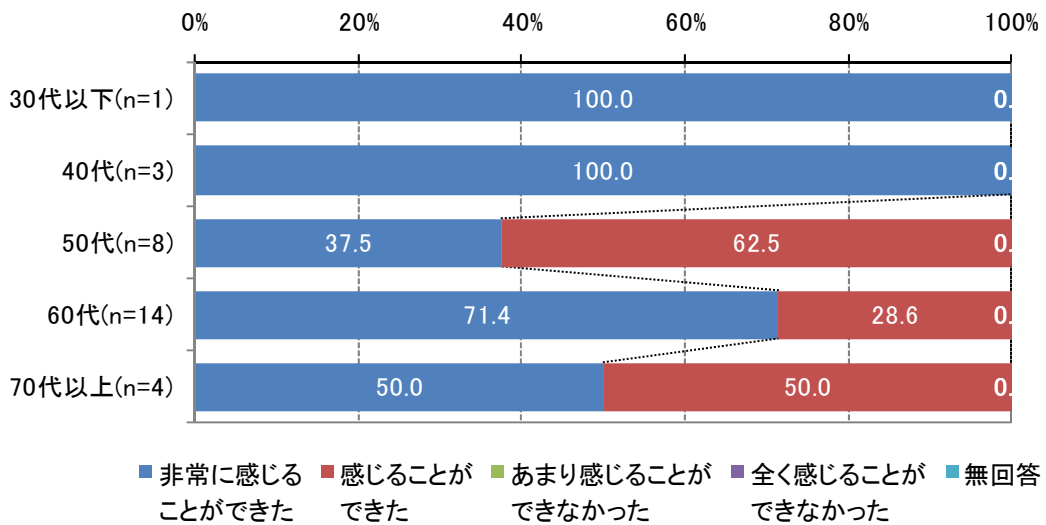
図. 関西の「本物の文化」を感じる事ができたか(単数回答, n=30)

【全体】



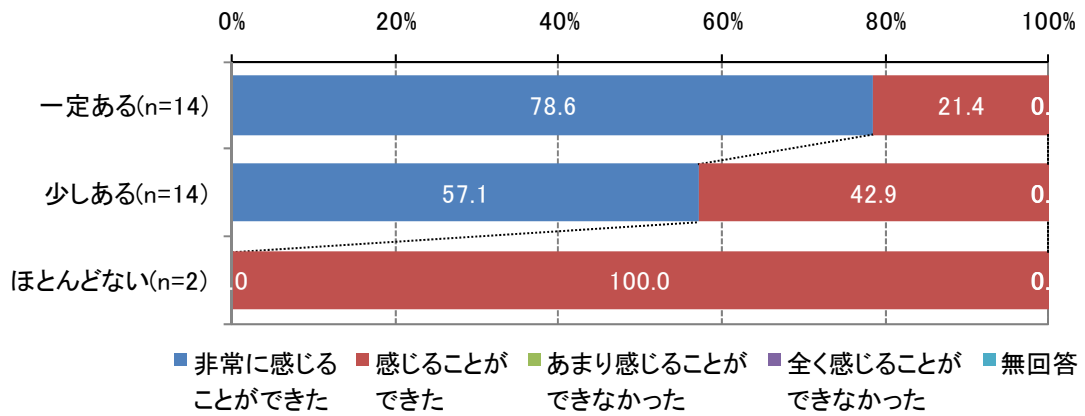
	非常に感じる事ができた	感じる事ができた	あまり感じる事ができなかった	全く感じる事ができなかった	無回答	計
件数	19	11	0	0	0	30
割合 (%)	63.3	36.7	0.0	0.0	0.0	100.0

【年代別】



		非常に感じる事ができた	感じる事ができた	あまり感じる事ができなかった	全く感じる事ができなかった	無回答	計
件数	30代以下	1	0	0	0	0	1
	40代	3	0	0	0	0	3
	50代	3	5	0	0	0	8
	60代	10	4	0	0	0	14
	70代以上	2	2	0	0	0	4
割合 (%)	30代以下(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=3)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=8)	37.5	62.5	0.0	0.0	0.0	100.0
	60代(n=14)	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	100.0
	70代以上(n=4)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】



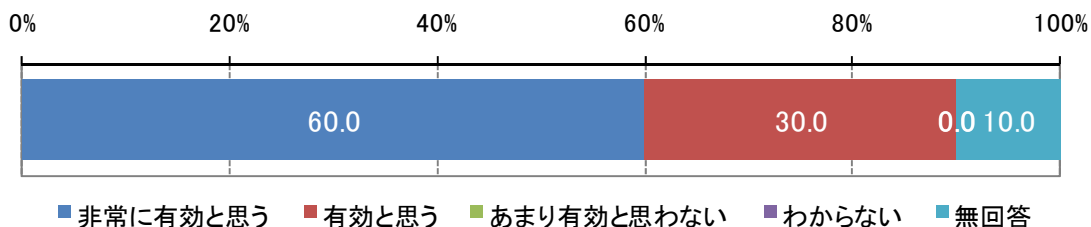
		非常に感じる ことができた	感じる事が できた	あまり感じる事が できなかった	全く感じる事が できなかった	無回答	計
件数	一定ある	11	3	0	0	0	14
	少しある	8	6	0	0	0	14
	ほとんどない	0	2	0	0	0	2
割合(%)	一定ある(n=14)	78.6	21.4	0.0	0.0	0.0	100.0
	少しある(n=14)	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	100.0
	ほとんどない(n=2)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0

③ 今回のプログラムは、関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効と思うか。

○ 「非常に有効と思う」 60.0%、「有効と思う」 30.0%となっている。

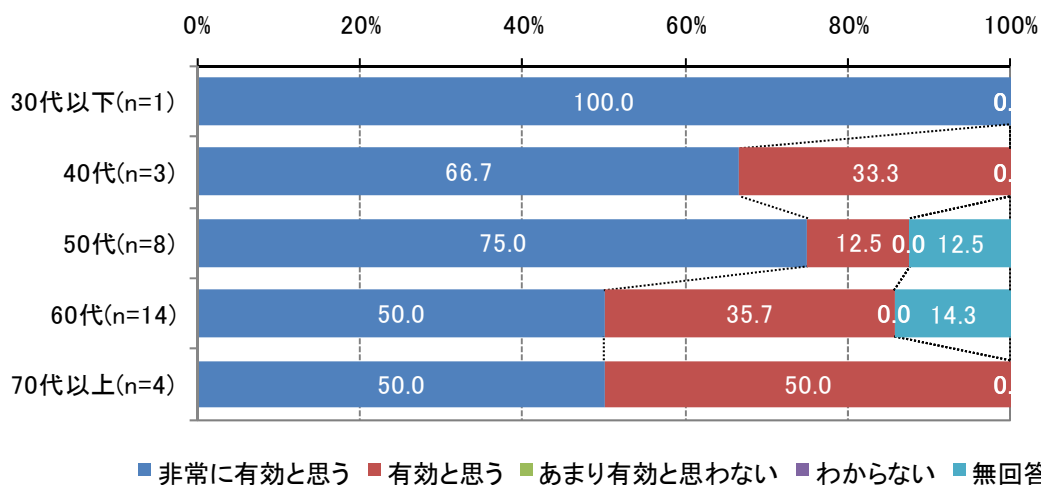
図. 関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効か(単数回答, n=30)

【全体】



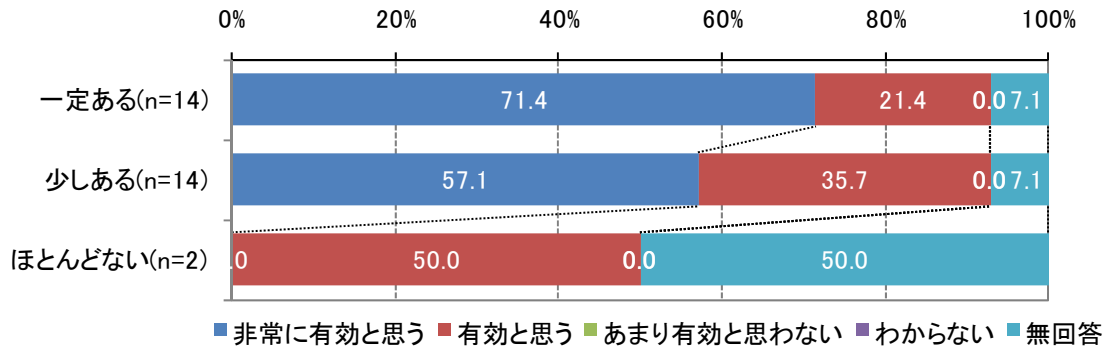
	非常に有効 と思う	有効と思う	あまり有効と 思わない	わからない	無回答	計
件数	18	9	0	0	3	30
割合 (%)	60.0	30.0	0.0	0.0	10.0	100.0

【年代別】



		非常に有効 と思う	有効と思う	あまり有効と 思わない	わからない	無回答	計
件数	30代以下	1	0	0	0	0	1
	40代	2	1	0	0	0	3
	50代	6	1	0	0	1	8
	60代	7	5	0	0	2	14
	70代以上	2	2	0	0	0	4
割合 (%)	30代以下(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=8)	75.0	12.5	0.0	0.0	12.5	100.0
	60代(n=14)	50.0	35.7	0.0	0.0	14.3	100.0
	70代以上(n=4)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】



		非常に有効 と思う	有効と思う	あまり有効と 思わない	わからない	無回答	計
件数	一定ある	10	3	0	0	1	14
	少しある	8	5	0	0	1	14
	ほとんどない	0	1	0	0	1	2
割合(%)	一定ある(n=14)	71.4	21.4	0.0	0.0	7.1	100.0
	少しある(n=14)	57.1	35.7	0.0	0.0	7.1	100.0
	ほとんどない(n=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0

④ 関西の「茶の文化」に関して、見学・体験してみたいプログラムに関してアイデア。

【意見内容】

■ 今回のような茶室見学、中村先生の語り、など

- ・ 今回のような非公開茶室の見学を継続して下さい。
- ・ このような茶室をもっと体験したいです。
- ・ 今回の3回の見学会のような機会がもっとあるとよいと思います。
- ・ 今回のようなのをまたしてほしい。中村先生のお話を聞きたいです。
- ・ 中村教授をはじめ著名な方の講演も楽しみにしております。
- ・ 継続して中村先生の語りをお願いします。

■ 茶会体験など

- ・ 昔の会記を再現した茶会、茶事の体験。
- ・ 抹茶会・煎茶会体験会。
- ・ お茶席もあればいい。
- ・ お茶礼(ひき臼)。
- ・ ちょっと入れないところでのお茶席(大きいところでもOKです)。
- ・ 抹茶、茶室には茶事がありますので、真剣な茶事の世界が知られるプログラムが良いと思います。
- ・ 普段、裏千家で稽古しているので、他の流派を体験したいと思いました。秋の大阪城でのイベントは参加できず残念でしたが、改めてあれば嬉しいです。
- ・ 各家元への訪問もできればと思います。

■ その他

- ・ 緑茶、抹茶の製造所見学。
- ・ お茶碗や掛物についてももっと見たいです(これからは美術館にもっと行くようにしたい)。

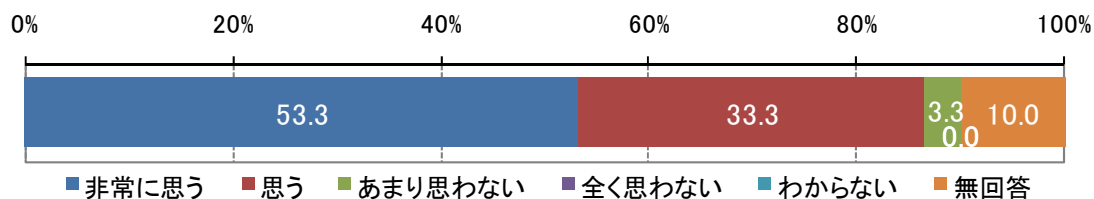
(5) 関西の「本物の文化」の継承・発展に向けて

① 関西の「本物の文化」が今も根付く、我が国一番の地域(文化首都)だと思うか。

○ 「非常に思う」 53.3%、「思う」 33.3%、「あまり思わない」 3.3%となっている。

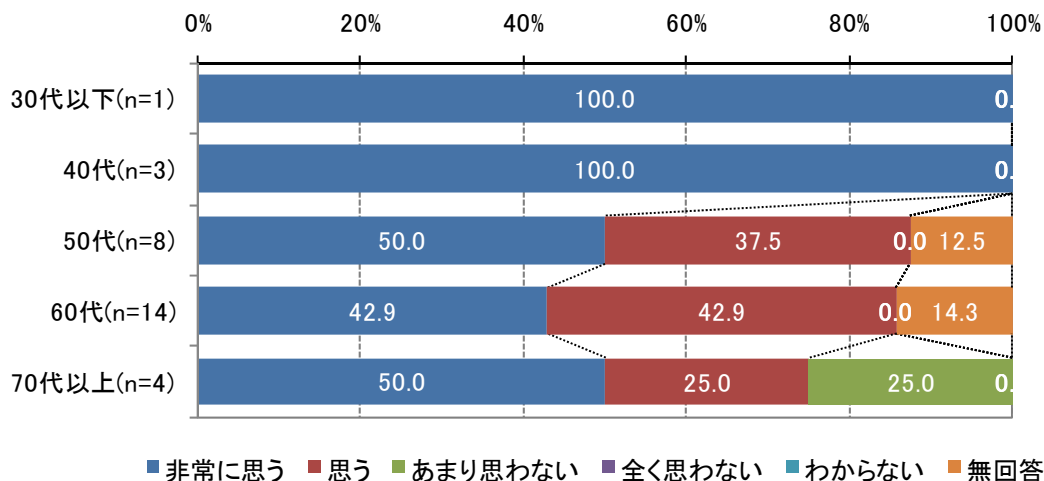
図. 関西は文化首都と思うか(単数回答, n=30)

【全体】



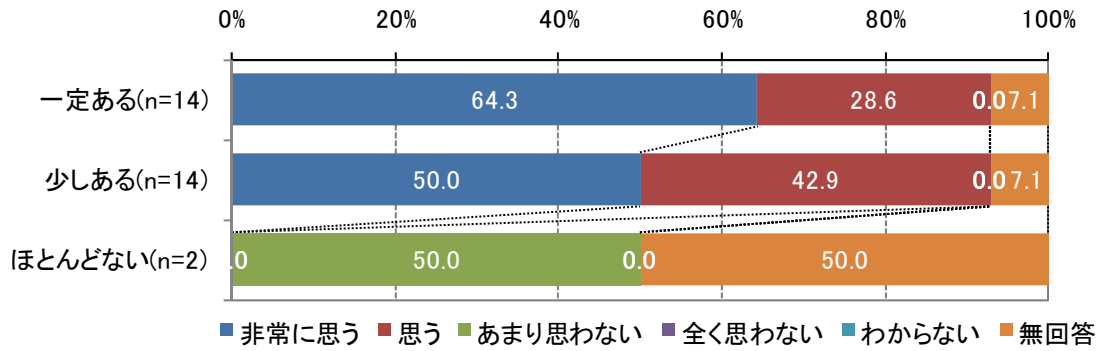
	非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	16	10	1	0	0	3	30
割合 (%)	53.3	33.3	3.3	0.0	0.0	10.0	100.0

【年代別】



		非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	30代以下	1	0	0	0	0	0	1
	40代	3	0	0	0	0	0	3
	50代	4	3	0	0	0	1	8
	60代	6	6	0	0	0	2	14
	70代以上	2	1	1	0	0	0	4
割合 (%)	30代以下(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=3)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=8)	50.0	37.5	0.0	0.0	0.0	12.5	100.0
	60代(n=14)	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0	14.3	100.0
	70代以上(n=4)	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】



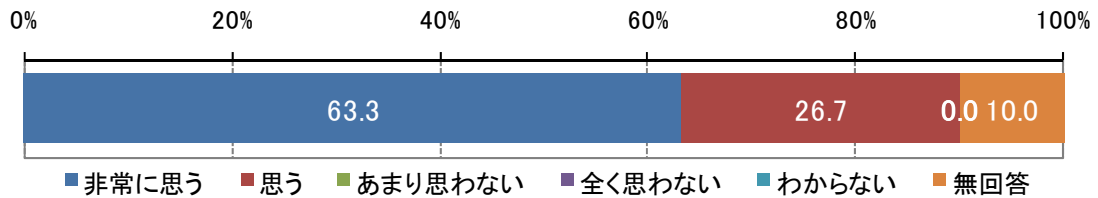
		非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	一定ある	9	4	0	0	0	1	14
	少しある	7	6	0	0	0	1	14
	ほとんどない	0	0	1	0	0	1	2
割合(%)	一定ある(n=14)	64.3	28.6	0.0	0.0	0.0	7.1	100.0
	少しある(n=14)	50.0	42.9	0.0	0.0	0.0	7.1	100.0
	ほとんどない(n=2)	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0

② 関西が「本物の文化」をテーマとし、文化の継承・発展に取り組むとともに、国内外へ発信することに意義があると思うか。

○ 「非常に思う」が63.3%、「思う」が26.7%となっている。

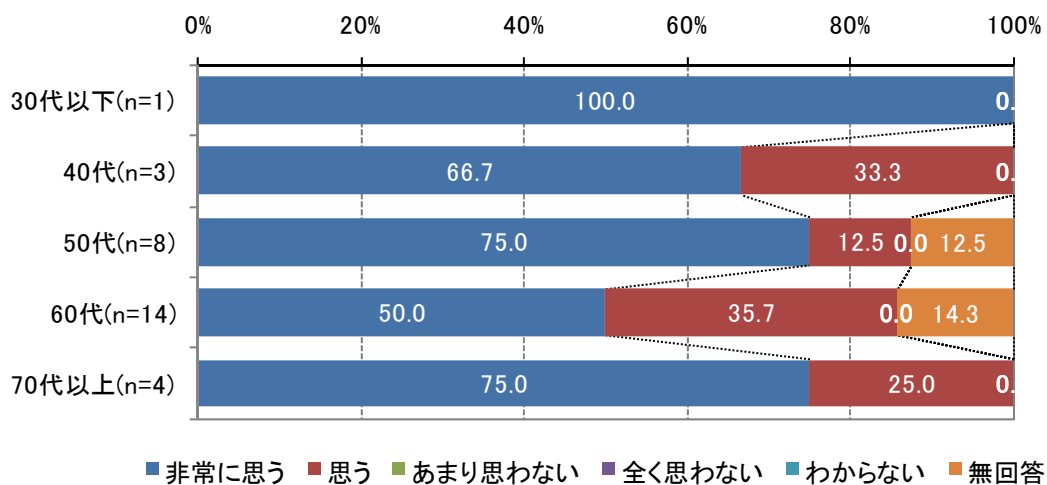
図. 文化の継承・発展、国内外への発信は意義があるか(単数回答, n=30)

【全体】



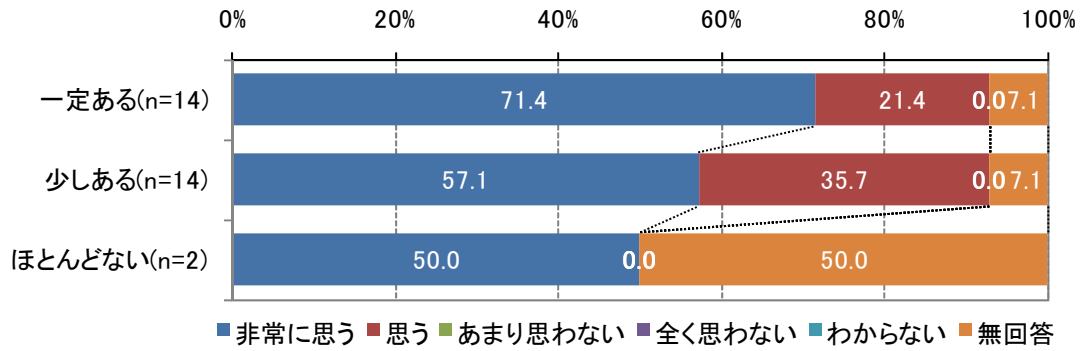
	非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	19	8	0	0	0	3	30
割合 (%)	63.3	26.7	0.0	0.0	0.0	10.0	100.0

【年代別】



		非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	30代以下	1	0	0	0	0	0	1
	40代	2	1	0	0	0	0	3
	50代	6	1	0	0	0	1	8
	60代	7	5	0	0	0	2	14
	70代以上	3	1	0	0	0	0	4
割合 (%)	30代以下(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=8)	75.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	100.0
	60代(n=14)	50.0	35.7	0.0	0.0	0.0	14.3	100.0
	70代以上(n=4)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】



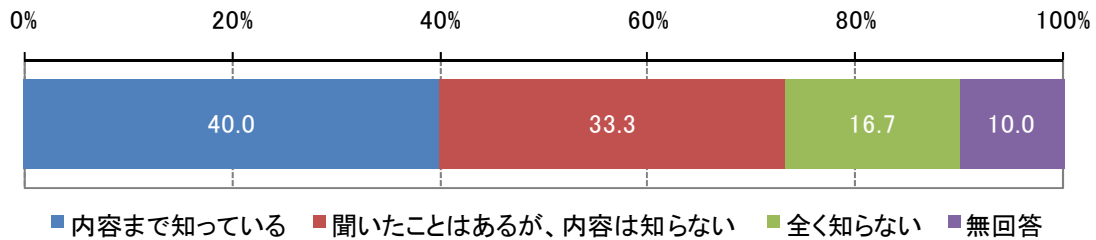
		非常に思う	思う	あまり思わない	全く思わない	わからない	無回答	計
件数	一定ある	10	3	0	0	0	1	14
	少しある	8	5	0	0	0	1	14
	ほとんどない	1	0	0	0	0	1	2
割合(%)	一定ある(n=14)	71.4	21.4	0.0	0.0	0.0	7.1	100.0
	少しある(n=14)	57.1	35.7	0.0	0.0	0.0	7.1	100.0
	ほとんどない(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0

③ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の取組を知っているか。

○ 「内容まで知っている」が40.0%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が33.3%、「全く知らない」が16.7%となっている。

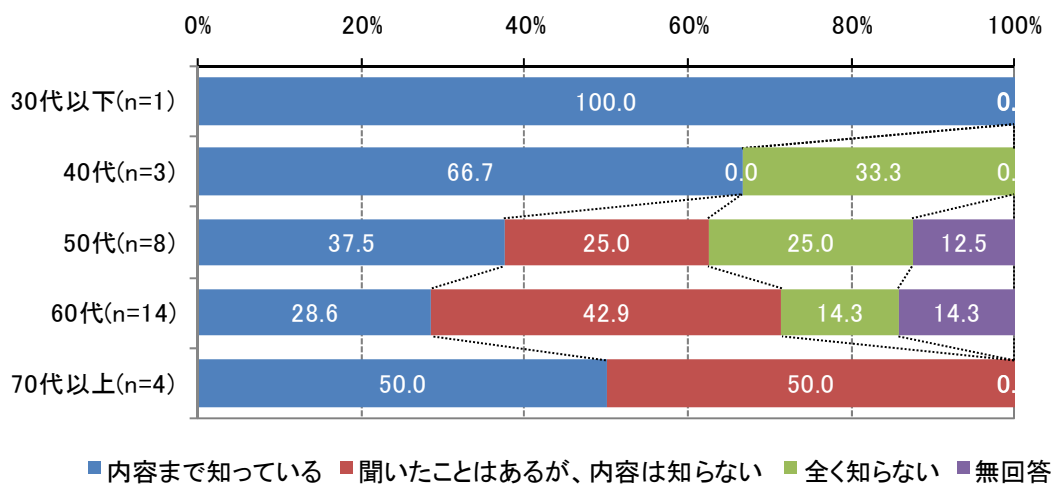
図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を知っているか(単数回答, n=30)

【全体】



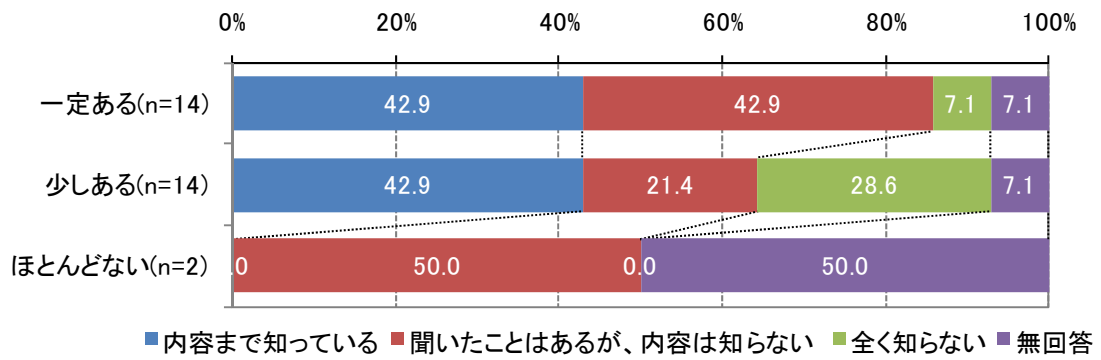
	内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	全く知らない	無回答	計
件数	12	10	5	3	30
割合(%)	40.0	33.3	16.7	10.0	100.0

【年代別】



		内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	全く知らない	無回答	計
件数	30代以下	1	0	0	0	1
	40代	2	0	1	0	3
	50代	3	2	2	1	8
	60代	4	6	2	2	14
	70代以上	2	2	0	0	4
割合(%)	30代以下(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=3)	66.7	0.0	33.3	0.0	100.0
	50代(n=8)	37.5	25.0	25.0	12.5	100.0
	60代(n=14)	28.6	42.9	14.3	14.3	100.0
	70代以上(n=4)	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】



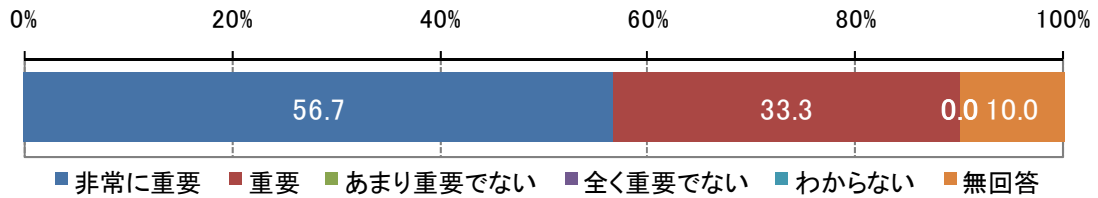
		内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	全く知らない	無回答	計
件数	一定ある	6	6	1	1	14
	少しある	6	3	4	1	14
	ほとんどない	0	1	0	1	2
割合 (%)	一定ある(n=14)	42.9	42.9	7.1	7.1	100.0
	少しある(n=14)	42.9	21.4	28.6	7.1	100.0
	ほとんどない(n=2)	0.0	50.0	0.0	50.0	100.0

④ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の取組を重要だと思うか。

○ 「非常に重要」が56.7%、「重要」が33.3%となっている。

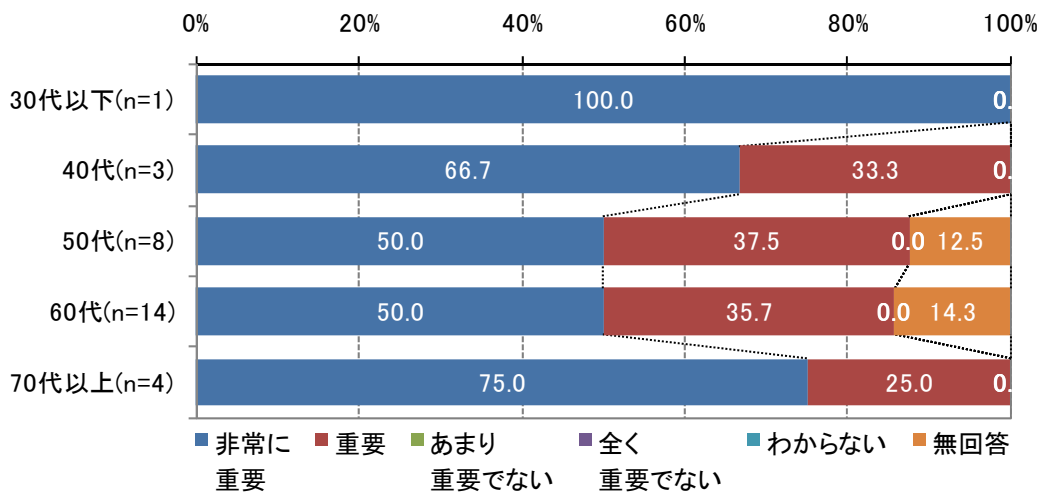
図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組を重要だと思うか(単数回答, n=30)

【全体】



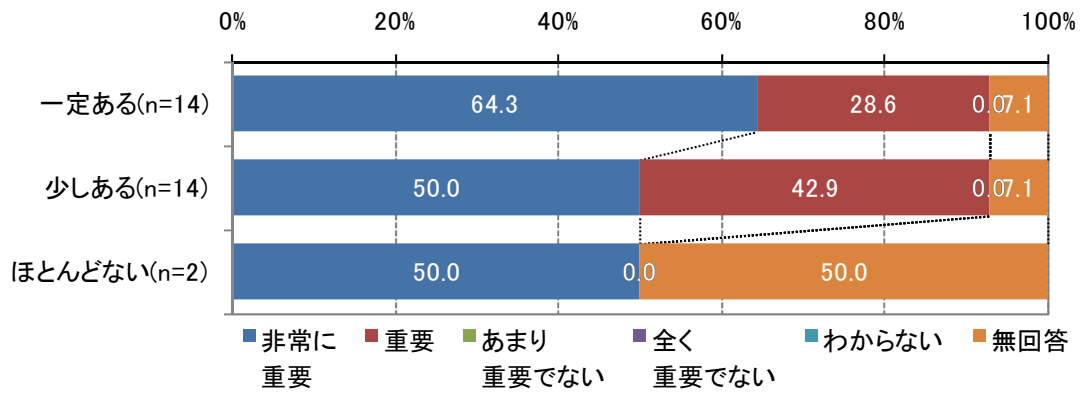
	非常に重要	重要	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	計
件数	17	10	0	0	0	3	30
割合 (%)	56.7	33.3	0.0	0.0	0.0	10.0	100.0

【年代別】



		非常に重要	重要	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	計
件数	30代以下	1	0	0	0	0	0	1
	40代	2	1	0	0	0	0	3
	50代	4	3	0	0	0	1	8
	60代	7	5	0	0	0	2	14
	70代以上	3	1	0	0	0	0	4
割合 (%)	30代以下(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	50代(n=8)	50.0	37.5	0.0	0.0	0.0	12.5	100.0
	60代(n=14)	50.0	35.7	0.0	0.0	0.0	14.3	100.0
	70代以上(n=4)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【茶道の経験・知識の有無別】



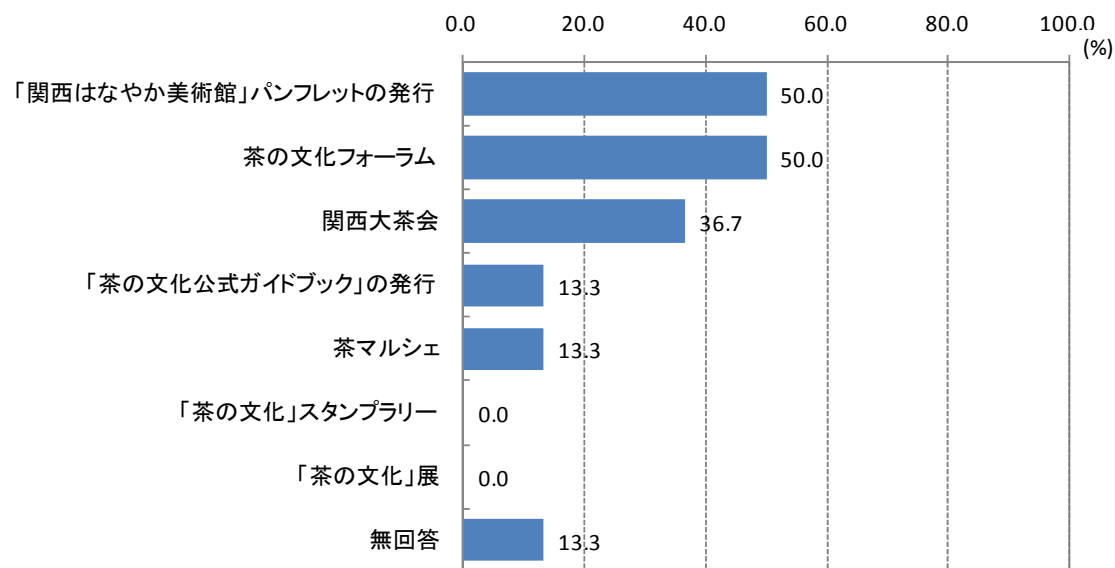
		非常に重要	重要	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	計
件数	一定ある	9	4	0	0	0	1	14
	少しある	7	6	0	0	0	1	14
	ほとんどない	1	0	0	0	0	1	2
割合(%)	一定ある(n=14)	64.3	28.6	0.0	0.0	0.0	7.1	100.0
	少しある(n=14)	50.0	42.9	0.0	0.0	0.0	7.1	100.0
	ほとんどない(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0

⑤ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の取組に関して、見学会以外に特に関心のあるプログラムについて。

- 「『関西はなやか美術館』パンフレットの発行」、「茶の文化フォーラム」がともに50.0%と高く、続いて「関西大茶会」が36.7%となっている。

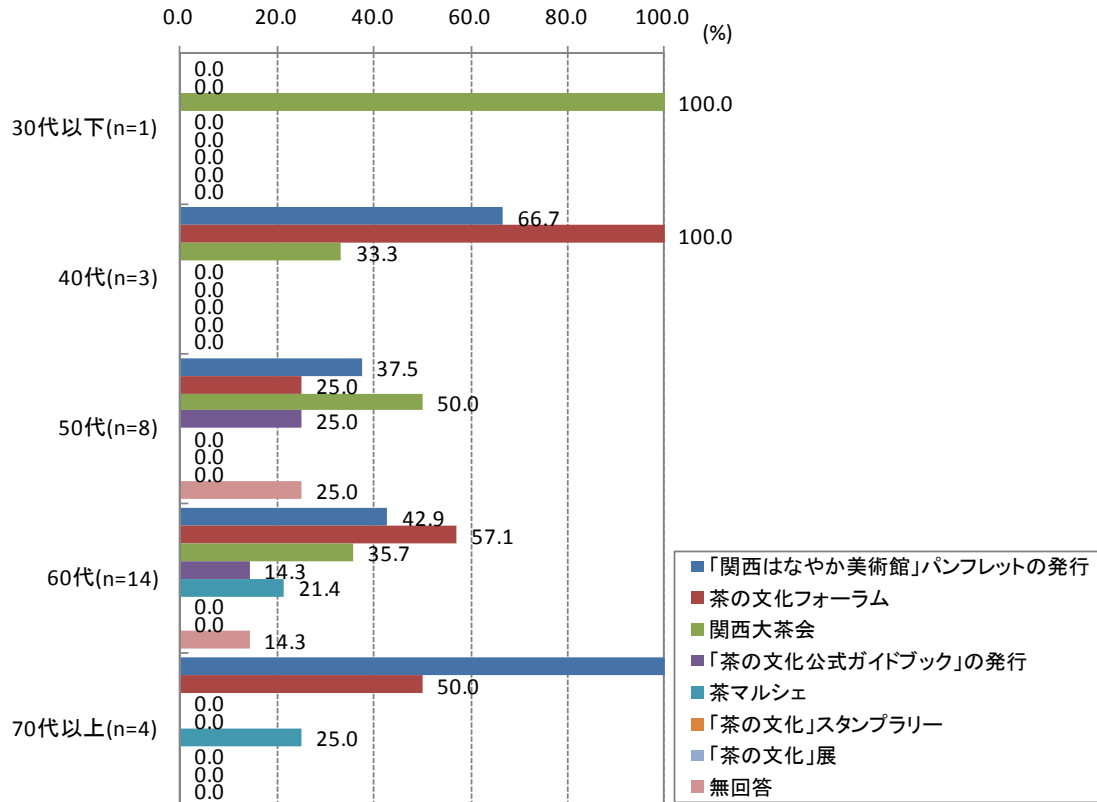
図. 「はなやか関西～2011『茶の文化』」の取組で関心のあるプログラム(複数回答, n=30)

【全体】



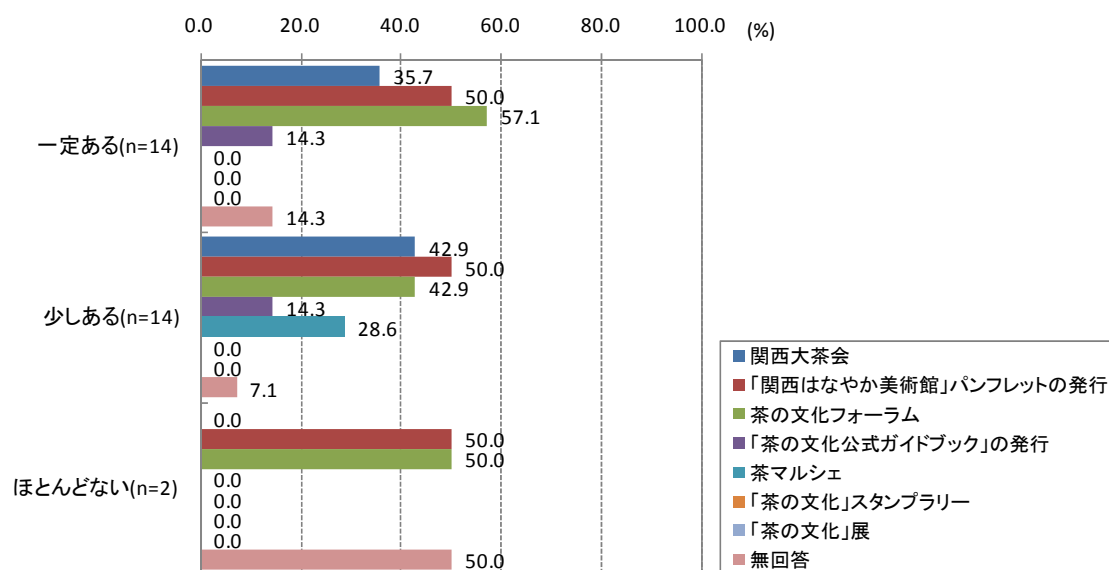
	件数	割合 (%)
「関西はなやか美術館」パンフレットの発行	15	50.0
茶の文化フォーラム	15	50.0
関西大茶会	11	36.7
「茶の文化公式ガイドブック」の発行	4	13.3
茶マルシェ	4	13.3
「茶の文化」スタンプラリー	0	0.0
「茶の文化」展	0	0.0
無回答	4	13.3
	53	

【年代別】



		「関西はなやか美術館」パンフレットの発行	茶の文化フォーラム	関西大茶会	「茶の文化公式ガイドブック」の発行	茶マルシェ	「茶の文化」スタンプラリー	「茶の文化」展	無回答
件数	30代以下	0	0	1	0	0	0	0	0
	40代	2	3	1	0	0	0	0	0
	50代	3	2	4	2	0	0	0	2
	60代	6	8	5	2	3	0	0	2
	70代以上	4	2	0	0	1	0	0	0
割合 (%)	30代以下(n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40代(n=3)	66.7	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代(n=8)	37.5	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	60代(n=14)	42.9	57.1	35.7	14.3	21.4	0.0	0.0	14.3
	70代以上(n=4)	100.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0

【茶道の経験・知識の有無別】



		関西大茶会	「関西はなやか美術館」パンフレットの発行	茶の文化フォーラム	「茶の文化公式ガイドブック」の発行	茶マルシェ	「茶の文化」スタンプラリー	「茶の文化」展	無回答
件数	一定ある	5	7	8	2	0	0	0	2
	少しある	6	7	6	2	4	0	0	1
	ほとんどない	0	1	1	0	0	0	0	1
割合 (%)	一定ある(n=14)	35.7	50.0	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3
	少しある(n=14)	42.9	50.0	42.9	14.3	28.6	0.0	0.0	7.1
	ほとんどない(n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

(6) 関西の「本物の文化」をテーマとした取組について

【意見内容】

■今後への要望、期待など

- ・ 芸能方面(古典)での鑑賞、各神社、寺の古い祭りの見学など。
- ・ 堺など町人文化の豊かさから利休が生まれたと思いますが、その雰囲気を知ることができる展示や美術館などがあればよいと思います。上に対しても必要以上にこびず、言いたいことを言える大人の町だった関西、というイメージは憧れです。
- ・ 「茶の文化」について今年限りではなく是非継続を希望します。歴史遺産について取り上げていただきたいと思います。
- ・ 本当に関西は文化財の宝庫！文化都市として大きく繁栄することを望みます。
- ・ 各種美術館による催しで関西、特に大阪が素通りになるケースが多く、関係者側が関西は文化人が少ないのではと思われているのではないかと懸念しています。関西の文化をレベルアップするのは大変意義あることだと痛感しています。
- ・ もっともっとたくさんの方々にご参加いただいて、もっともっと素晴らしい関西の本物の文化を再発見していただいて、みんなで守っていききたいと思います。
- ・ 情報の発信が大切。
- ・ 大変有意義である。継続して多くの方々に中村先生のお話を広く知ってほしい。著書を多くの方に読んでいただきたい。
- ・ 高名な先生のお話を拝聴出来る機会はなかなかありません。また、今まで興味のないテーマを知るきっかけになるので、今後も活動をご推進して下さるようお願い致します。

■その他・感謝の意など

- ・ 中村先生、岩崎先生ありがとうございました。
- ・ 中村先生、講師の先生におめにかかれ幸せでした。
- ・ お世話になりありがとうございました。また機会がございましたら茶の文化普及に努めたいと考えておりますので、お声掛けください。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 初めて参加させて頂きとてもよい勉強をさせて頂きました。これからも参加したいと思えます。
- ・ スタッフの方々ありがとうございました。貴重な体験をさせていただきました。
- ・ 矢田課長様はじめスタッフの皆様もありがとうございました。今後こうした活動を是非継続して下さい。

「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」

検証に関するアンケート調査

（対象：取組参加団体）

集計結果

平成 24 年 3 月

国土交通省 近畿地方整備局

- 目次 -

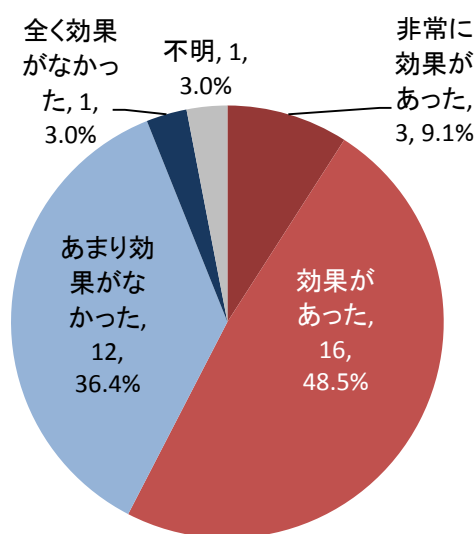
1. アンケート結果.....	1
(1) 貴団体の実施効果について.....	1
(2) 「本年度事業」イベント全体の実施効果について.....	7
(3) 今後に向けて.....	18
(4) 最後に.....	23

1. アンケート結果

(1) 貴団体の実施効果について

- ① 「本年度事業」は貴団体の活動・商品等の PR に効果があったと思いますか。(1つに○)

図表 エラー! 指定したスタイルは使われていません。 -1 参加団体の活動・商品 PR への効果



■ 「非常に効果があった」との回答者の意見

ブース内への来場者数は多く、内容について非常に興味をもっていただいた。共同研究の可能性について具体的な話もあった。

茶室での催しは、茶室の関係で人数が限定されているが、一席定員 15 名で行い、満席で行うことが出来た。

毎回アンケート調査を行っていますが、毎回「満足」の評価を得ている。

大和郡山市の「茶の文化」を紹介ということで、「やまと郡山百景」の中の「茶の文化」を取り上げ、今回の行事に参加しましたが、大和郡山市の茶の文化について理解をして頂けた。

当団体においては“音無茶”の試食・試飲と番茶・ほうじ茶の販売が中心であったが、音無茶は予想以上の注目を集め、商品はほぼ完売、試飲や茶粥の試食は行列ができるほどの盛況ぶりであった。また、熊野詣の平安衣装も好評で、写真撮影をされる方も多く、外国人観光客の方にも喜んでいただけた。さらに、台風 12 号の被害について尋ねられた方には、既に復興を終え、安心して旅行を楽しんでいただけることや、熊野本宮の魅力を紹介すると、「是非熊野へ旅行したい」という声を聞くことができた。そして、当団体の活動をブログで紹介をしてくださった方もおり、今回のブース出展は非常に効果があったものとする。多くの人々に熊野の魅力を伝えることができたのではないだろうか。

■「効果があった」との回答者の意見

1. 体験講座：神戸市の方が大勢参加して頂く。人数も32人と多く参加人数。兵庫県12人。
2. 「池田炭」の販売が約3万円と大きく伸びた。その後も色々問合せがある。PRは成功したと考える。

宇治茶の郷づくり協議会の取組としては、上記1-1に挙げたようなものがあるが、「はなやか関西」のロゴを活用したのは、(1)のみであった。

参加者数：約1,000名

各所で活動を報告し、宇治田原の京番茶を力強い言葉で紹介するできたこと。具体的な数値はない。

広報面でも効果があったと考える。関係流派の努力もあったが、全ての茶会において満員御礼の状況であった。

京都大徳寺茶会 … 400名×2日 茶席券 10,000円

枳穀邸茶会 … 400名×1日 茶席券 2,000円

南禅寺茶会 … 300名×2日 茶席券 2,000円

京都北中部茶会 … 1,000名×1日 茶席券 1,000円

植物園大茶の湯 … 16,000名×1日

<2日間イベント合計>

・入場者数：21,000人

・茶席利用者数：6,591人(南宗寺・・・3,739人、大仙公園・・・2,852人)

・茶券売上金額：3,730,100円

第30回の記念大会ということもあったと思うが、1席あたりの客数も前年と比べて100名以上増えており、個別の効果測定は出来ていないが、少なからず効果があったと思われる。

目に見えて客数、売り上げ等には効果はなかったが、当社の取組みについて知っていただく機会にはなったと思います。

前年の倍の有料入館者数であった。

虎御前山の保全顕彰に役立ったと考えている。

和歌山県田辺市本宮町を含めた紀伊半島南部は、昨年9月に発生した台風12号により、土砂崩れや洪水などの被害に遭いました。その後、メディアなどによる風評も加わって来訪者は激減していました。そこで、本事業に参加することによって、地域の安全性と活気をアピールすることに繋がったと強調できます。

関連性は不明ですが、現在、本宮町への来訪者と熊野本宮温泉郷における宿泊者数は少しずつ増加傾向にあります。

ブログのアクセス数があがり、認知度が向上したと感じています

イベント出展時売り上げ

19日 約5000円

20日 約40000円

当団体の事業について効果は数字としては現れないのですが、来場者の反応等、確実に少しずつではあるが、茶に対する理解は深まっていると確信します。

・数値化は出来ないが、本取り組みのイベントや冊子等により知られ、城陽茶まつりに来客された方は少なからずおられると思う。

広報用の冊子をご覧になった方にご来場頂いた。

茶券前売り 500 円×77 枚、当日券売り 500 円×220 枚 合計 297 枚 148,500 円

大阪府高等学校芸術文化連盟 茶道部会は普段、各学校の茶道部で活動している高校生をまとめる団体である。主な活動は、大阪府高等学校芸術文化祭での学生茶会開催や、講習会などであるが、今回のように、一般の方々に向けて呈茶席を設けて発表する活動は、初めて行ったので、活動PRに効果はあったと思われる。

■「あまり効果がなかった」との回答者の意見

特に販売等を行ったわけではなかったのと、主催団体をアピールするより、イベントの内容のPRに努めたので、効果については不明

全体参加数 1382 人

さわやか関西で参加 21 人

・入込数の減少による。

平成22年度:9,000人

平成23年度:8,000人

残念ながら、客数・販売数・販売額等には、効果があったとは思えませんが、関西全体で取り組んでいるという点では、ある一定の冠にはなったと考えます。全体として告知PRが上手くいかなかったというのが実感です。

・対象参加人数も20名と少なく、ほぼ市内参加者であったことから本取り組みに参加した効果はなかったと思われる。

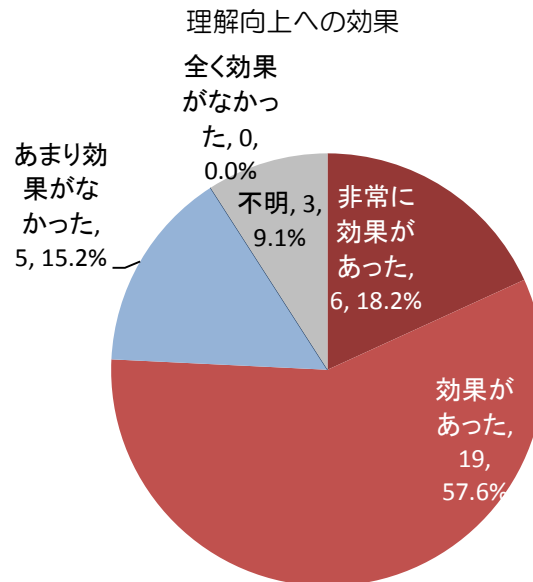
残念ながら、雨で野点席が中止となったことと、事前の広報が足りず、一般の方々の入場が予想を下回ったため。

また、茶席の入場者も同門者の関係がほとんどとなり、一般へのPRとしては物足りない結果となりました。

客数は2万人(3日間)、販売数?、販売額 9,400,000 円位

② 「本年度事業」における貴団体の活動は、来場者の「茶の文化」に対する理解の向上に効果があったと思いますか。(1つに○)

図表 エラー! 指定したスタイルは使われていません。 -2 来場者の「茶の文化」に対する



■ 「非常に効果があった」との回答者の意見

参加者は、始めはお茶の種類については、知見がすくなかったが、イベント終了時には、認識を深められた。

- ・ 京番茶を理解し、身近な存在とすることができた。
- ・ 宇治田原で多種多様な形態のお茶があることが理解できた。
- ・ 以上の理解は、私たちお茶の愛好家およびお茶と携わるものにとって、非常に有意義である。

京都大徳寺茶会 … 三千家の同会場での茶会は21年ぶりで、きわめて珍しく、京都の文化発信に繋がった

枳穀邸茶会 … 東本願寺の別邸で庭を見ながらの茶席、家元による歴史解説、道具の展示などの取り組み

南禅寺茶会 … 在京都の家元による解説など、京都らしさを出すことができた

京都北中部茶会 … お茶席に加え、野点席、お手前体験、初心者から楽しめるお茶会が開催できた

植物園大茶の湯 … 府民が亭主となる他、海外のお茶ブース、中高生の茶道部など、NPOなどの協力を得大変賑やかな、茶会が開催できた

普段なにげなく飲用しているお茶が、重要な生理作用を有していることを理解していただいた来場者が多かったこと、緑茶以外のマテ茶についても新たな認識をしていただいたこと。

大和郡山市に昔からある「茶の文化」に触れて戴く事が出来た。

毎回のアンケート調査でも、参加者に大変満足を戴いていた。
講演会2回とも好評であった。「茶室を中心に」、「茶の歴史について」
慈光院茶室と庭園、素晴らしい庭園とその解説に満足して戴いた。
尾川さんの懐石料理、ミシュランガイドの店だけあり、懐石料理に満足していただけた。
5段階評価項目に○を付けてもらうことにしていましたが、「満足」に◎を付けているのもありました。
和菓子の老舗「本家菊屋」、茶室「菊寿亭」で26代目当主によるお手前によりお茶を戴き、お菓子とお茶にまつわるお話しを聞いたことなど、良い雰囲気であった。
皆様着実にステップアップされ、茶事やお稽古に参加されるようになったと思います

■「効果があった」との回答者の意見

茶の文化の理解は、広められたと思う

1. 池田炭のPRは成功したと思う。
2. 茶道関係者に「菊炭体験講座」をPRし、お茶関係者の参加多数、成功したと考える。
宇治茶フェスタにおける「宇治茶手もみ製法の実演」や、「石臼による抹茶づくり体験」、「お茶当てゲーム」、宇治茶歴史街道ウォークにおける「茶香服体験」など、日頃体験できない茶にかかわるイベントを見ていただいたり、実際に体験していただいたりすることにより、参加者からは楽しかったという意見が多く寄せられ、一定効果があったものと思われる。

・利休が禅の修行をした南宗寺会場では、2日間で茶席利用者数が3739人と、過去最多の入場者となった。

関西圏だけでなく全国からも客が訪れ、利休の生まれた街・堺においての茶会が広く周知されてきたように思う。

また、三千家が一同に会する茶会は非常に稀であり、異なる流派のもてなしを同じ敷地内で受けることで、より「茶の文化」の理解を深める事ができたのではないかと思われる。

・大仙公園会場では、普段お茶に触れる機会のない市民や観光客が、気軽に立ち寄れる雰囲気となっている。大学や幼稚園児からのおもてなしを受け、お茶を身近に感じてもらう事ができたように思う。

特に幼稚園の茶席は非常ににぎわいを見せ、若い世代がお茶に関心をもつきっかけの場となったのではないか。

本事業は、7年前からの継続事業なので、徐々にですが浸透してきていると考えています。特に「茶畑景観」についての告知は、本事業だけでなく、様々な取組みの中でPRが功をそうして、観光雑誌やマスコミにも取り上げられ、棚田とともに農村景観としての地位を確立しつつあります。本年度京都府が景観を含む「茶の文化」を世界遺産登録を目指して検討委員会を設置しましたが、その一助になったことは間違いないと考えます。

「はなやか関西茶会記」などのイベントを通じて当社の活動について知っていただいたと思います。

・講演会の入場者数が多かったこと

・講演会は、日経・毎日・朝日等の新聞でとりあげられた

陣中点前や抹茶挽きたい件

来場者から、音無茶の歴史、栽培地、そして飲み方に関する質問を多く頂きました。このような来場者とのやり取りを通して、関西の多様な「茶の文化」への関心を惹きだす「きっかけづくり」ができたと考えられます。

紅葉の茶会、会場近江孤篷庵に 120 名来場いただいた

来館者へのアンケートの回答によると、解説の充実について肯定的な反応が見られた。

具体的な効果は読み取ることができないが、甲賀市のお茶の存在を知ってもらうことのできる良い機会であったと思います。

茶の文化の歴史を感じる祭典と、来場者が参加するお茶のみコンクール(茶香服)などの行事により厳かな伝統とともにお茶を味わう楽しさを伝えることができました。

地道な活動ではありますが、着実に、教室、体験を通じ、お茶の味や淹れ方について知識を深めていく中で、本物の味への感動等前進しているとお客様の声を聞き、確信している。

当団体の紹介した音無茶は、ももとの知名度が低かったこともあり、多くの来場者の注目を集めた。まずは音無茶の説明から始まり、実際に音無茶の試飲と茶粥の試食をしていただくことによって、音無茶や茶文化について理解していただけたのではないだろうか。来場者の「音無茶を初めて知った」、「とてもおいしい」、「赤みがかかった独特な色がきれい」等の多くの称賛の声も聴くことができた。

「お抹茶を頂くのは初めて」「お抹茶を頂くのは数年ぶり」というお客様に多くお越し頂いた。また外国人観光客の中には、お抹茶を頂く事そのものが、初めてであり、貴重な日本文化の体験の機会であると喜んで頂いた。

高校生茶道部員が呈茶席を行うことにより、若い世代の高校生が日本の伝統文化の一つである「茶の文化」に関わる活動を行っていることを、学校関係者だけでなく、一般の方々にも親しみを持って知ってもらう機会になり、理解向上に効果があった。

・平成 23 年 10 月 30 日に「楽しい煎茶会」を開催した。席主のご協力により、初心者でも楽しめる茶会にいただいた。102 名の参加があった。

・平成 24 年 1 月 22 日には、初釜を催した。参加者は 221 名であった。

両会とも初心者には好評であった。

■「あまり効果がなかった」との回答者の意見

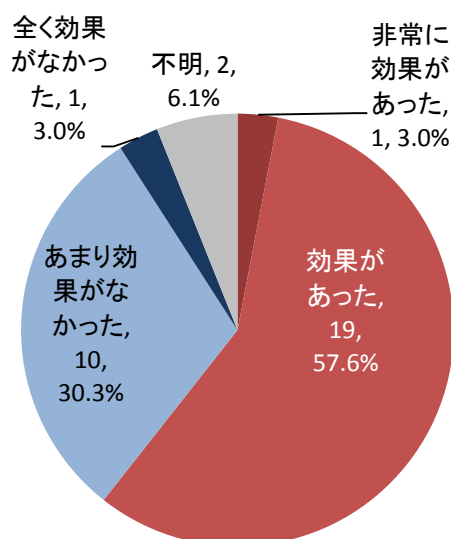
・城陽茶まつりでは、本取り組みに参加する前から、「茶の文化」に対しては取り組んでおり、この事業に参加したから向上した、とまでは効果が無かった。

・心和む抹茶ふれあい体験では、本取り組みに参加する前から、「茶の文化」に対しては取り組んでおり、この事業に参加したから向上した、とまでは効果が無かった。

(2)「本年度事業」イベント全体の実施効果について

- ① 今回の「本年度事業」は関西の文化を継承・発展させるための「ひとづくり」、「ものづくり」、「まちづくり」の面で効果があったと思いますか。

図表 エラー! 指定したスタイルは使われていません。-3 「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」への効果



■「非常に効果があった」との回答者の意見

「人づくり」の観点からは、地域でのお茶に取り組む人材や、中高生の茶道部との連携がとれた
特に、植物園大茶湯や各市町村会場でのもてなし茶会では、とくに地域団体や学生の活動が目についた
本事業を機に、京都府では全府立高校での茶道などの文化体験が実施されることになった意義は大きい
「まちづくり」については、京都、宇治、南山城の広域地域において「宇治茶」をブランド製品としてだけでなく、茶の
生産される茶畑景観、生産施設など産業遺産、茶室など、広くお茶の持つ文化的資産としての意識が浸透し、地
域への誇りが醸成しつつある

■「効果があった」との回答者の意見

イベントの開催にむけて、関係者があつまることで、一定の組織化が図れた。

茶会に関係する方の、意識が深まった。

1. 池田炭をPRできたと思う。
2. 世界で唯一の池田炭体験講座を理解して頂いた。

「宇治茶歴史街道ウォーク」においてお茶の体験に関するイベントを取り入れていただいたり、
新たな「宇治茶カフェ」を認定し、美味しい宇治茶を提供する店舗を拡大したりすることによ
り、宇治茶の魅力を伝える人材が育ったと考える。

・今回の事業をきっかけとして、茶の湯は堺から発信していかなければならないという認識を
強めることごができ、堺観光コンベンション協会の継続事業である「利休のふるさと堺大茶
会」を発展させ改革し、市や市民団体とも連携して「利休といえば堺」というイメージを内外に
知らしめることができるような事業案を、改めて考えていかなければならないと感じた。

お茶の生理作用について、科学的根拠に基づいた知見を広めることができたこと。

1. この様な「茶の文化」の催しで、これまでの人派以外の新たな人のつながりが出来たこと。
2. この催しに参加して下さった企業の方、新たな催しを理解して下さった。

環境系の我々ボランティアが歴史文化環境に取り組んだことで、他の組織商工会などにも刺激を与えた様だ。

スタートラインには、着いたのではないかと考えます。以前に委員会でも述べましたが、茶業に関わる団体が、様々な業界から参画した今回の事業は、今後継続することで、大きな効果を生むと期待しています。産地から、茶道、歴史文化、観光等あらゆる角度から「茶文化」について考えること、連携することは今後の「ひとつづくり」「ものづくり」「まちづくり」に大きく貢献すると考えます。

当社としてはあまりそのような効果はありませんでしたが、イベント全体としては効果があったのではないかと思います。

民芸と茶の関係を展示できたこと。

大変暑い時期の開催で、また山の上という地理的な面からも、参加者を多く集められなかったと考える。

大きく3つの効果があげられます。

①和歌山県田辺市本宮町について、学生はもともと世界遺産地域として関心がありましたが、本事業へ参加することによって地域そのものへの興味が生まれました。

②学生は来場者に対して音無茶や茶粥を振る舞うことで、「おもてなし」を勉強する機会となりました。

③栽培・製茶振興の動きがあるため、産学連携による展開へ向けたあしがかりとなりました。上記3点より、「ひとつづくり」「ものづくり」「まちづくり」のいずれについても効果があったと考えられます。

茶室でのイベントに関して新しい企画を試みるチャンス頂きました

地域の再認識

茶室で実施する簡易式の体験教室は、当会議所でも実施経験が少なく、今後のノウハウとなったと思われる。完売商品等を持ち合わせていないので、実質的な振興や宣伝活動に限定されている。

イベント企画に取り組むことを決めた当初、学生の多くは「茶の文化」に対しての関心が薄く、産官学連携のイベントに参加するのも初めてであったため、どういった取り組みをすればいいのか分からなかった。しかし、熊野の茶文化をテーマに選定し、活動を進めていくうちに、次第と「茶」に対する興味を抱き、深く知ろうとする関心へと発展した。本研究会は観光を対象に研究活動を行っているが、観光を考える際に、地域の文化を継承・発展についても配慮する必要があるということを改めて認識した。また、企画の準備が順調に進まず、活動が困難となる場面もあったが、無事に企画を成し終えたのも、学生自身が成長したからではないだろうか。直接的に関西の文化を継承・発展させるための「ひとつづくり」「ものづくり」「まちづくり」の面での効果には成しえなかったかもしれないが、自身にとっては有意義な活動であり、今後の活動に

何らかの効果をもたらすと思う。

抹茶の提供時に、お手伝い頂く学生さん達の意識が上がった。

国登録文化財の能楽堂で、抹茶を頂く事そのものが、日本の伝統を感じられる、落ち着いたほっこりと和む時間であり、これからも継続してほしいとの声を多く頂いた。

茶業界での横のつながりが出来たのは良かったと思います。

ひとつくり・・・茶道部員として伝統的な茶道の作法を学んでいる高校生が、その実践として、新たな主客の交わりを体験できる機会を得て、茶の文化に関わる人材として確実に育っていると思われる。

ものづくり・・・今回、大阪の代表的な菓子司である「鶴屋八幡」にお願いして、野点席に相応しい主菓子を作っていただいた。新商品 菓子銘「城の錦」

■「あまり効果がなかった」との回答者の意見

魅力を表現するには、まだ力不足と感じています。

本来は、民間参加取組団体に参加いただきかったが、行政主体のイベント出展となったため、その効果も読み取ることができません。

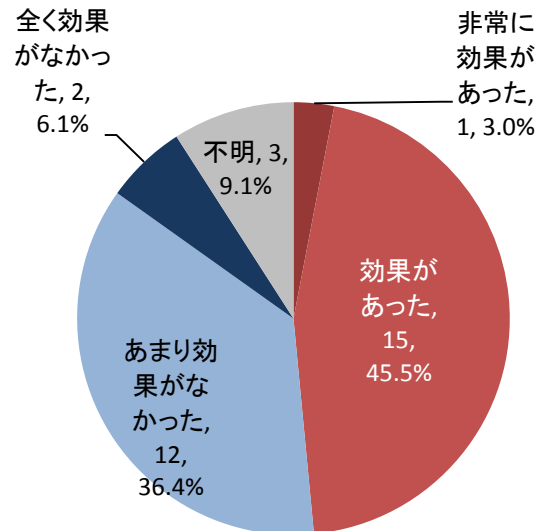
- ・本事業に参加したから、とって特別な効果はなかった。
- ・本事業に参加したから、とって特別な効果はなかった。

効果は不明

弊館の講座受講生のなかには、待庵や大徳寺の見学会に参加された方もいらっしゃって、普段見ることができないところを見ることができ良い機会を作っていただけたと思っております。しかし、弊館の関連するのは「茶の湯」に関する部分のみで、新しい茶の製法等を考える場ではありません。あるいは抹茶よりも日常的に親しまれている「煎茶」や「番茶」を扱っているところでもありません。また、美術館という性格上、「茶」の販売促進することは難しく思います。美術館としてこれまでの業務に徹すること以外に、「本年度事業」のなかの関連事業は、それほど多くはありません。美術館としては、関連する事業を行っていただければありがたいことですし、活用いたしたいと思っております。しかし、「ものづくり」や「まちづくり」といわれますと、美術館の関連する「茶の湯」よりもむしろ別の分野の方で進めるべきことのように思われます。

② 今回の「本年度事業」は関西の各地域の取組を“つなぐ”ことに効果があったと思いますか。

図表 エラー! 指定したスタイルは使われていません。-4 各地域の取組を“つなぐ”ことへの効果



■ 「非常に効果があった」との回答者の意見

本研究会に関しては、まず、学術機関だけでなく、「熊野本宮観光公社」や「JAみくまの」といった関西における他の地域の人々との“つながり”ができた。普段は大学内で研究活動を行い、フィールドワークを行う際にもヒアリングを行うだけといった場合が多かった。しかし、今回のイベントを通して、地域の人と密に関わり、一緒に取り組むことができた。また、イベントに出展した他の団体との“つながり”もできた。とくに、当研究会と同じく京都で観光について学んでいる“京都嵯峨芸術大学”の多くの学生と知り合い、活動内容の紹介や意見交換等の交流を行った。これからの活動においても交流し、関西で観光を学ぶ学生のネットワークを形成できたらと思う。

■ 「効果があった」との回答者の意見

人数は少ないが、この企画に参加される方があったということは、効果があったと考えられる。

1. 横のつながりが出来た。
2. 来年度が課題。今後はネットワークを作り、活動を継続した方が良いか。

「宇治茶歴史街道ウォーク」において、ボランティアガイドクラブ等との連携を図ることができた。また、「宇治茶フェスタ2011」において、ふるさと産品出展団体とのつながりができた。京都府域の各会場では、お茶とお花で、もてなし茶席と迎え花により、お客を迎え、各流派支部や高校生などが連携して取り組めた。

また、府南部地域における「宇治茶の郷フェスティバル」和東町「お茶のある風景フォトコンテスト」などとの連携をとり集客などにつながった。

特に、京都、宇治、南山城の広域地域において「宇治茶」をブランド製品としてだけでなく、茶の生産される茶畑景観、生産施設など産業遺産、茶室など、広くお茶の持つ文化的資産としての意識が浸透し、地域への誇りが醸成しつつある

同じ「茶の文化」というテーマでの取組として、他地域の団体がどのような活動をしているか知る事ができ、参考になった。また、堺の茶文化を発展させるような事業案を考える上で、他団体との連携が取りやすい体制になったと思われる。

各地区の取組み状況を知ることが出来た為、参考になった。必要があれば、今後、それらの情報をもとに他地区とも情報を共有してゆきたい。

3-1でも回答したように、本年度については物的効果よりも「つなぐ」ということで効果があったと考えます。それが生かせるかが今後の命題となると考えます。私たち自身は、参画団体とつながりができ、他の事業で連携することができました。また、大阪城のイベントを通しては、他団体と活動が見ることができ、良い参考になったと考えています。

講演された先生とのつながりができたこと。

茶臼の出土を啓発したことにより、以後の来館者に説明案内ができ、関心が高まった。

例えば、私たちの隣のブースでは、京都嵯峨芸術大学が関西内の茶をペットボトルにした場合のラベル政策・発表を行っていました。そのなかに音無茶の作品も含まれていました。このように、取組みを通して共通点や相違点を知ることができ、それによってお互いを関連づけてアピールすることもでき、その意味で「横のつながり」が構築できたと考えられます。

お茶室見学等でご縁がつながりました

大池寺(小堀遠州)、戦国の茶会(虎御前山)との当地との関わり。

関西一円での「茶の文化」に対する様々な取組みを知る事ができた。

また、出展された他の団体とのつながりも生まれた。

上記の通り、横のつながりは出来ましたが、単発行事なので、今後如何に、継続していくかが問題と思います。継続しなければ、大きな効果があったとはいえません。

出展した他団体、特に同じ裏千家流の迎賓館席に学生が入れていただき、全員が立札席を体験させていただいた。今回出展されていた菓子店と交流ができ、後日別の学生茶会などで菓子の注文相談もさせていただくことになりそうである。

■「あまり効果がなかった」との回答者の意見

関西の他の地域との連携については、行っていないため、不明。

1. あまり良い効果は考えられなかった。
2. 県外からの参加者は、会員の知人の範囲で会った。

ボランティア活動ということで、あまり力はありませんが、関西地区の催しということで、他府県にも知人を通してチラシを流すことが出来た。

参加企業さんには、良いPRになったと思います。

民間取組団体が他の行事を重ねたことにより、行政がイベント出展することとなったため。今年度はほかの行事との競合日程や震災関係のこともあり、1回しか参加できなかったため、

他地域との連携や交流面での実感は薄かった。

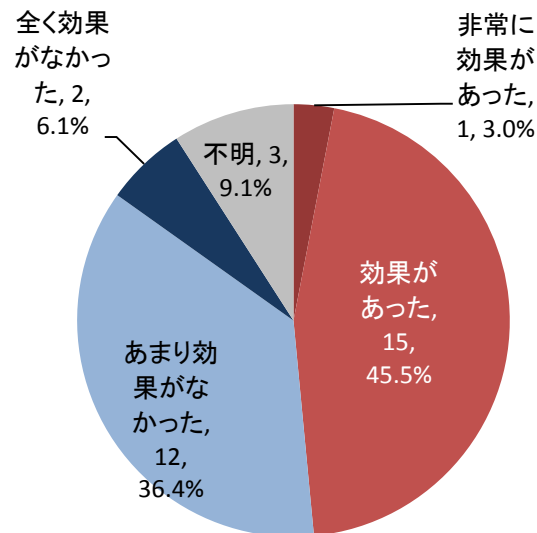
「茶の湯」に関する美術館・資料館はほかにございますが、これまでもおつきあいがあるところばかりなので、特に目新しいところはありません。それ以外の所では、特に新しくつながりが出来てきたところもございません。

■「全く効果がなかった」との回答者の意見

横のつながりがまったくなかった。他団体は問合せなどへの対応が不十分であった。

③ 今回の「本年度事業」は関西の各地域の取組を“発信する”ことに効果があったと思いますか。(1つに○)

図表 エラー! 指定したスタイルは使われていません。-5 各地域の取組を“発信すること”への効果



■ 「効果があった」との回答者の意見

1. 体験講座に茶関係者が多数参加。
2. 池田炭のPRが市民に浸透してきた。

「はなやか関西」事業であることにより来場者が増えたかどうかまでは把握していないものの、「はなやか関西」のロゴを活用することにより、関西一丸となった取組のひとつであることをPRすることはできたと思われる。

広報媒体等を見て来場者が増えたことが、想定される。

特に、各流派の先生や生徒の来場が多く見受けられた。

・「本年度事業」の広報媒体等により、関西各地で開催されるお茶に関するイベントを情報発信することができた。

・各地域でのイベントを通じ、今までにない宣伝効果が期待でき、市内だけでなく市外や県外からの来場者も増加したように思う。

上記 2-1 と同じ

学生が主となって研究発表を行うことに対して、興味をもっていた来場者が非常に多かったこと。また、大学のアピールにもなったこと(受験したいと希望する高校生がいた)。

1. 関西地域の催しということで、チラシなどは会員の知人を通じて他府県に配布しているので、この様な催しが行われているとの情報を少しは流すことが出来た。

各地区の取り組みを共通テーマで紹介したことにより、茶の文化や歴史について、多くの方に分かりやすく伝えることが出来た。

新聞、テレビ(NHKアートシーン)の掲載

はなやか関西のホームページに掲載されたことから、当館への関心も高まった。

当日、来場者から熊野本宮温泉郷に関する質問を多く頂きました。内容は、交通アクセスや宿泊施設に関するものが多く、その場では「訪ねてみたい」といった感想を得ておりました。そのため、「茶の文化」の取り組みを通して地域を「発信することに効果があった」と考えられます。

茶室イベントへのお問い合わせやご参加、茶室利用が増えたと思います
判らない

効果はあったと思われるが、具体的実感はやや薄い。菓子や茶道具等の関連他業種とのコラボ出典やイベント等仕掛けも欲しかった。

今回の事業で、ブースの運営やポスターの展示を通して、当団体の活動や研究内容を世間一般の多くの人に紹介することができた。普段は学会や研究会等で、ごく限られた人のみに認知されていたことから、今後の活動に何らかの効果があるのではないだろうか。また、熊野本宮観光公社の観光客誘致に向けた様々な取組を発信する良い機会になり、今後の観光客誘致や商品開発につながる効果があったと思われる。

広報冊子をご覧になられて来場された方がいらっしやっつた。

1日だけで目に見える効果があったかは分かりませんが、茶文化に縁ある大阪で出来たことは大きな意義があったと確信しております。

■「あまり効果がなかった」との回答者の意見

「はなやか関西～文化首都年～」の広報自体を見かけなかったもので、効果は薄かった。

2-1でも回答しましたが、告知PR不足は否めないと考えています。特に関西圏以外には殆ど告知ができなかったのではないのでしょうか？

・本体験の趣向からも参加人数が小規模であり、効果はなかった。

24年1月末の芸文祭学生茶会の参加校と参加人数はかなり増加しているが、今回の広報の成果かどうかは、なんとも言えない。

効果は不明

いろいろな方面に広告・宣伝をしておりますので、効果についてはよくわかりません。

■「全く効果がなかった」との回答者の意見

スタンプラリーの実施状況からみても「本年度事業」の広報媒体等を見て来られた来場者が確認できなかった。

④ 今回の「本年度事業」に関して、改善点等がございましたら、以下に記載して下さい。

今年度は、初めての取り組みなので、すぐには効果が表れるものではない。継続的に5年とか10年行うことによって効果が定着して来る。1年ポッキリで辞めるのなら、労力や経費の無駄遣いと言われかねない。

1. 2日間は合格、1日は雨で不合格。
2. 雨天時の対策・延期の決定。
3. 発表会の人数が無くてやるかどうか。
4. 屋外のイベントが少ない。もう少し 音楽会等も入れたらどうか。

取組団体は、これまでからもお茶に関する様々な取組を独自に行っており、これらをまとめて関西一丸となって紹介していくという考え方は良いが、一つのものとしてアピールしていくことはなかなか難しいように思われる。

今後も、様々なテーマで関西をアピールしていく際に、ターゲットをどこに絞り、どのような取組にしていくのが良いか、これまでのシンポジウムや見学会だけではなく、それ以外の方法も検討する必要がある。

また、今年度実施された見学会の場合、非公開施設等が多かったせいもあるかも知れないが参加費用が高いものが多かった。もう少し、気軽に参加できるような企画も検討するのが良いのではないかと思う。

活動の理念は非常に評価できるものと考えているが、断片的に終わったことが残念である。コアの活動が弱かったと感じた。茶室見学も人数が限られ、一部の方にその理解が行き届かなかった。

気軽に交流できる場を設け、横のつながりの強化を図っていただきたい。

国民文化祭・京都府実行委員会が主催する事業であり、関西一円からの誘客には力を入れることができたが他府県との具体的な事業連携には、今後の課題が残った

23年度のテーマは「茶の文化」であったが、1年間で終わりという形ではなく、何らかの形で継続していけるような取組をしていただきたい。

初めての試みで、良く研究され、熱心に企画され、意義が有ったと思います。

改善よりも 継続が重要だと思います。

我々も本事業に初めて参加してこのような事業の存在を知ったので、もっと大々的に広報する必要がある。

全体のまとまりがあまり感じられなかったため、横のつながりをもっと充実させた方がよいと思う。

1. 関西地域の催しということで、チラシなどは会員の知人を通じて他府県に配布しているが、この様な催しが行われているとの情報を組織的に流すことが出来る必要がある。
2. 私達は、ボランティア活動の一環として行っているので、力不足のところがあり、全体の広報活動について、関西地域内で総括的に取り組むシステムが必要である。
3. 市の広報紙には、催しを載せてくれるが、県の広報誌は催し紹介を載せてくれない。

改善点と言うよりも、毎年テーマが変わると聞いております。「茶の文化」について、次年度以降どのように継続を考えているのか、逆に考えをお聞かせいただきたいと思います。

もっと広報媒体を活用し、「本年度事業」に対する一般の方の認知・理解を促進してはどうかと思います。売上げ、利益も要求される一企業としては、少し参加しにくい事業であったと思います。

①初日は雨天であり降雨量も多かったのですが、排水が悪くてテント内へも大量に流水しておりました。そのため、雨天対策が必要かと思われます。

②音無茶と茶粥を無料でふるまったこともあり、多くの来場者に来ていただきました。それに伴い、排出するゴミも多くなり、当初は持ち帰りを予定していましたが電車移動では困難となり、主催者側へ処理をお願いする結果となりました。そのため、遠方から事業へ参加の場合、ゴミの持ち帰りは課題の一つになると考えられます。

はなやか関西～文化首都年～自体のPRにもっと努めるべきと思います。

出店の時期など検討してほしい。同時期のイベントが多く対応できなかった。また告知の仕方は検討の余地有りとする。

・会議等の開催場所について、各都道府県なりの輪番制で開催して頂きたかった。

①今回、出展団体に対する説明会がかなり遅く、団体の準備がかなり急務となった。出展団体が決まったら、すぐに簡単な説明会を開いてみてはいかがでしょう。

②はなやか関西茶会記の広報開始が多少遅いと感じた。広報を早めに取り掛かれれば、このイベントのことをより多くの人に認知して頂くことができ、来場者も増えるのではないのでしょうか。本年度の一番大きな事業であった、大阪城西の丸庭園でのイベントに、海外公演の予定と重なり参加できず残念であった。できれば、年に数回、同様のイベントがあればよいのと思う。

・会議等の開催場所について、各都道府県なりの輪番制で開催して頂きたかった。

1. 十分な広報活動が必要→結果は集客に表れます。

2. パンプ、ポスター、茶席設営図、駐車券、当日の進行予定、などの準備を早めにしていただきたい。→段取りが思うように進まず、当団体での広報も遅れました。

3. アドバイザーの先生にも取組団体の進捗状況や問題点を理解して欲しい。→運営や準備段階で茶道や業界に詳しい方が入る方がスムーズに進められた点があったかと思いません。

4. ある程度の予算(補助金)が必要。なければ当日運営費がまかなえるよう集客に力を入れてほしい。

1. 予算の件・・・呈茶席を受け持つには、茶菓子代以外にも必要な経費がかなりかかる。それらを予め、予算化し、ある程度保証してほしい。準備の段階で、予算面の保証が曖昧で、茶会の目的や内容に相応しい形態を作るのに大変苦労した。今回、高校生を含め、水屋を担当する方々も、ほとんどボランティアで参加いただけたが、人的な面だけでなく、道具類などの消耗も考慮して、今後もこのような企画をされるならば、内容や予算についての確実な情報を提示してほしい。最終的には、破損した朱傘の補充も含めて補助をいただけることになり、ありがたいと思っているが、準備段階でのあの綿密な企画と予算書の作成は、結果に反映したのか

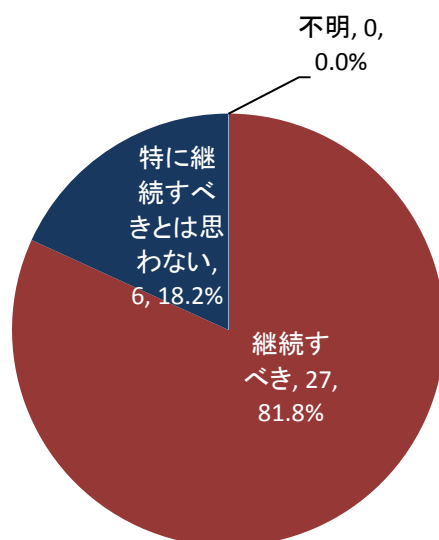
と、やや疑問に思う。

2. 駐車場及び準備等の件・・・大阪城西の丸庭園における野点席ということで、大阪市の公園事務所と随分交渉にご苦労があったことは、後日うかがったが、やはり準備のための駐車に、はじめ指定されたところから移動を言われたり、またその移動場所が遠かったりして、準備や片づけには少なからず不自由で手間がかかった。利用する側の状況ももう少し大阪市には配慮してほしいと思う。

3. 茶券金額について・・・それぞれの主催団体に意向もあると思うが、各茶会の茶券金額にかなりな違いがあるのは考えものだと思う。売上げ等にも影響があったろうと思うが、だいたいの目安は必要ではないだろうか。

(3) 今後に向けて

- ① 「本年度事業」は今年3月を持って終了となりますが、今後も「茶の文化」に関して「地域が一丸となって行う取組」を継続する必要があると思いますか。(1つに○)



■ 「継続すべき」との回答者の意見

茶の生産者と文化面での結びつきが強化できれば、一体的な活動が可能になり効果があがると思う。

同じ形もしくは、反省点を考慮した形で継続をして戴きたい。

1. ネットワークで結び付けたい。
2. 関西・茶の文化ネットワーク連盟を結成すべきである。
3. WEB発信し、年に春、秋に持ち回りで 開催したら如何か。

地域の自治体や教育関係など、はばのひろい関係者とともに展開する必要があると考えます。

子どもや青少年、ガイドボランティアやまちづくりに興味関心の高い方などは、お茶の本質を知っていただくことは有意と思います。

継続すべきとは考えるが、各県とも農林担当所管のところや、文化担当が所管するところもあり、体制が異なる全体的なコーディネートは、難しいと考えられる。

近畿農政局や広域連合などの連携した取り組みが好ましいと考えるが、具体的なイメージが湧かないのが現状

・400年の歴史を経て今では国際性のある文化として世界的にも知られている茶の湯事業を今後も国の施策として継続する必要がある。

今年度の企画内容の内、シンポジウム、討論などは縮小し、直接茶の文化を経験できる場、目に出来る場、食を体験できる場など文化を実感できるような企画を望みます。

広報連携の継続により、広域でのPR、交流につながると思う。

もっと目的を明確にして、広く多方面からの参加を促すようにすればよいと思う、

1. 1年だけの催しでは、新しい発想が生まれてこない、何事も継続が必要である。
2. 文化はある面では市民の中から湧いてくるものではあるが、「茶の文化」は我が国の固有の「文化」として意識させることも重要である。優れた文化も、経済戦争の中で衰退してきているが、少しの手助けで発展します。

関西の茶処として、パンフやチラシ等によるPRを実施

間違いなく、継続していくべきと考えます。

茶という素材には、文化性、健康性、空間性、と多面にわたり、大きな広がりがあり、関西はその中心ですので、このような取組みは重要だと思います。

それだけに、それをとりまとめる団体に多大なリーダーシップが必要だと思います。

内容にもよるとは思いますが、公共団体や組合中心で企画・運営された方がよいかとも思います。

「関西の茶の文化」を発信するためには、「横のつながり」構築が必要かと思えます。そのためにも、何かしらの形で継続して関わっていければと考えております。

誰でも参加できるイベントがどこかで常にあるということが、茶道への入口のハードルを下げてくれますし、理解を深めることにつながっていくと思います。

「本年度事業」が継続された際に作成される広報媒体等を、より多くの目に触れる場所など、効果的に設置されるよう希望します

イベント出展される団体をもっと増やすことが必要に思われる。

(関西圏域でお茶を特産、取組みをしておられる団体はもっといると思います。

継続すべきと考えますが、はなやかな茶道や祭事ごとのみの追求でなく、生活に密着した、些細ながら密着しているような習慣や慣例的なものにも光をあてるような取組みもあってよいのでは？

・関西地区においても宇治茶を筆頭に大和茶、朝宮茶、信楽茶等各産地のお茶があり地域同士での取組みは行われている。

ただし、関西圏統一としての取組は行われていないため、本取組みは今後も継続して行われても有益なものであると考えられる。

こうした事業を通さない限り、関西広範が一丸となって取組みが行われることはないため、継続する必要があると思う。また、産官学に加え、地域の人々が連携する機会として、この事業は大変有意義なものだろう。しかし、継続するに当たっても、事業の質を高めるためには経験の蓄積が重要であるため、定期的に行う。また、より多くの若い世代が取り組むことのできる機会も提供すべきだと思う。

「茶の文化」は、日本独特のものであり、同時に海外からの深い関心もある。しかも、日常生活に深く、広く根付いた文化でもある。今更言うまでもないが、お家元もほとんどが関西にあり、日本を代表する文化であると同時に、関西を代表する文化でもある。関西が一丸となって「茶の文化」の周知に取り組んで行く事は、歴史的にも大変有意義な事であると考えます。

昨今、茶を素材にしたスイーツが人気であるが、原料の茶の産地が関西であることをアピー

ルするようもっと生産者に働きかける。

・関西地区においても宇治茶を筆頭に大和茶、朝宮茶、信楽茶等各産地のお茶があり地域同士での取り組みは行われている。

ただし、関西圏統一としての取組は行われていないため、本取り組みは今後も継続して行われても有益なものであると考えられる。

継続しなければ今回の意味がありません。関西・大阪の縁ある地域を利用し、茶に纏わる講演やイベントを定期的に行うことが、大阪と茶文化を結びつけることとなります。

長引く不景気とともに、生活様式も大幅に変化していく現在においては、日本の文化も時代と共に姿を消していきます。

この茶文化は日本人としての「心」が詰まっているものです。いわば日本文化の集大成とも言えるものが大阪を中心に栄えてきました。今後も茶文化に纏わる業種が集い、大阪から全国に発信できるイベントを続けていただきたいと熱望します。

今回、参加団体の有志で新たにはなやか関西 茶文化普及委員会等設立いただき、定期的なイベントを考えていただきたいです。

伝統文化を継承し、育てるためには、継続して活動を支援し、事業を育てていかなければならない。特に、今の大阪及び関西には、それが是非必要と思われる。

今回の事業の中で、望ましい連携や効果のあった内容については継続してゆくべきと思う。

「茶の文化」とした場合、どうしても「茶の湯」と「茶業」を扱わないといけませんし、切り離すことが難しいところです。しかし、そうかといって両方を扱おうとすると焦点がぼけて事業のねらいが不明確になりがちになってしまいます。難しいところですが、どちらかに重心を定めてもらえれば、ねらいがもう少し明確になり、各方面の関わり方もはっきり出来るように思います。また、一般的にも分かり易くなるように思います。

■「特に継続すべきとは思わない」との回答者

特にお茶に関する取組は、各地域が独自の活動として取り組み、それぞれが一定の顧客をつかんでいると思われ、あえて関西が一丸となって取り組む必要性が薄いように思われる。

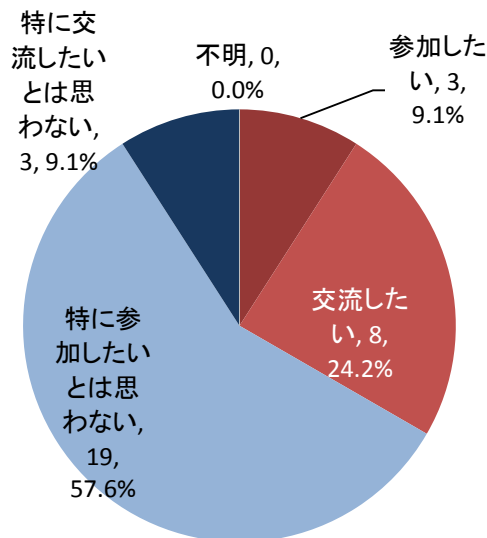
特に効果等を感じる事ができなかったため。

数年後、また「茶の文化」を取り上げることはよいと考える。

宇治市としては宇治市産の茶について振興を図りたいと考えています。「宇治茶」といっても様々な地域で生産された茶の総称であり、すでに各地域でおのおの取り組みが行われています。今回の本年度事業では、例えば他の自治体とイベントを共同実施するなど、新たな取り組みに向けて足並みをそろえることができなかったのが残念でした。まず、それぞれの自治体・団体・地域間で共通の方向性を持つことが先決かと考えます。

あまり効果がなかったため。

- ② 2012年度の「はなやか関西～文化首都年～」のテーマは「人形浄瑠璃」です。今年度と同様、様々な取組団体に参加いただき、実行委員会を組成する予定ですが、「茶の文化」の取組団体として次年度事業に何らかの形で参加・交流したいと思いますか。
(1つに○)



■「参加したい」との回答者の意見

本事業の取り組み主体である「第26回 国民文化祭京都府実行委員会」は、今年度をもって解散となる。

今後、ポスト国民文化祭として、文化芸術の振興を図るべく、新たな組織を検討中。

現状で大茶会と人形浄瑠璃との連携は未定

しかし、京都府域においては、和知人形浄瑠璃と佐伯灯籠があり、伝統文化の振興とPRにむけなんらかの形で参画したいと考える。

チラシ等を民芸館にて置く等の協力

「初心者のための上方伝統芸能ナイト」、「能、文楽、落語による三体公演」などで、文楽を上演して頂いているので、そちらで参加させて頂こうと思っております。

■「交流したい」との回答者の意見

1. 開催時に 昨年のお茶の文化を紹介し、お茶会を開催する。

・人形浄瑠璃の催しの際や、その他の国の文化的事業における情報提供をお願いしたい。さらに、可能であれば「利休のふるさと堺大茶会」の宣伝PR(チラシ配布・ポスター掲示など)をさせていただき、より多くの人に「利休といえば堺」というイメージを定着させていきたい。

我々の所属では、「人形浄瑠璃」と直接なつながりがないため、具体的に参加することは困難ですが、何らかの形で貢献したいと考えております。

例えば、和歌山県内の人形浄瑠璃に関する照会や催しを行う際に、音無茶を振る舞うことが考えられます。

様式・形態は今考え付きませんが、よい機会があるのなら検討したいと思います。
そもそも当団体は「茶の文化」の取組団体ではないため、交流するに当たっても、「茶の文化」
に縛られず、「人形浄瑠璃」の取組団体と何らかの交流して、取組も出来たらと思う。

イベント時の煎茶会等

日程や目的が合えば、伝統文化の継承という名目のもとに協力できるかもしれないと思う。検
討は早めにしたい。

■「特に参加したいとは思わない」との回答者の意見

「特に参加したいとは思わない」と答えましたが、茶の産地としてどのように関わったら良いのか
が今のところ見当たりません。ただ、本町にも昔「人形浄瑠璃」があったようですので、伝統文
化を復活させるという命題ならば、参画し、
ご教授をいただきたいと考えます。

(4) 最後に

- ① 「はなやか関西～文化首都年～」の活動を拡げていく上で、何かご意見等ございましたら、自由にお書き下さい。

1、開催に必要な予算措置を望みます。

2、当方は遠方の為、参加者が少なかったのではないかと考えられる。アクセスなどわかりやすい広報をお願いしたい。

3、交通費も影響しているようです。

1. 1年目はまずまず成功したので これからは ネットワーク作りを中心に展開したい。

2. NPO 茶の文化支援協議会(仮称)を結成し、活動を持続的に継続する。

ボランティアの活用は積極的に進めるべきと考えますが、定常的に人と金など資源不足である状況があります。

また、まちづくりやひとづくりは長期的な視点を持って推進して行くべきことと考えます。

わずかでも人的に資金的に活動支援が必要で、また長期的に優良なコンセプトを取捨選択しながら、自治体や教育委員会など地域が主体で、そして連動して進めることが肝要と思います。

関西のブランド力向上の取組は、非常に意義のある活動であると思われる。関西の各地域を広域的に連携させることにより、同じ分野で様々なイベントや取組が行われているという事を知る事ができ、お茶に対して理解を深めることができた。特に、「茶の文化」フォーラムでの角山名誉教授の話は印象に残り、お茶の文化は堺から発信していかなければという思いを強くした。

今後も関西の文化的魅力を十分に引き出せるよう、予算も含めて様々な企画を検討していただきたい。

日本の優れた伝統文化にスポットライトを当て、年単位で順次活動を企画される事と思います。

特に伝統文化は維持する為には、継続した力強さが必要だと思います。

私どもの取り組みも継続は力なりの合言葉で、守って居りますが、気力、財力との勝負の感があります。

伝統文化を維持する手段として、社会人に期待を掛けられない現状から、学校教育課程、特に義務教育の場での取り組みが効果的だと考えます。

伝統文化の一つとして、体育系で柔道が必須化されましたが、総合文化である茶道も必須化されれば、心の文化としての、効果も期待できると思います。

関西における文化の発展、継続性をよりよいものにしていくためにも、まず周知してもらうことが第一だと思います。

専門家のみならず一般の方々が興味をもって事業に取り組めるような企画などがあればよいと思います。

1. 準備期間にもっと余裕を持たせること。

継続して実施すれば、経験を生かして和を大きくできるのではないかと。

2. 動き出すまでの準備に、金銭的バックアップが必要である。

3.

本年度一年間大変お世話になりました。本協議会としてこの事業に参画させていただき、微力ではございましたが、何らかのお力になれたのなら幸いです。今後ともご指導、ご協力の程よろしく願いいたします。感謝

民間企業では実現できないことも、行政主導であれば実現できることがあると思われるので、是非リーダーシップをとってとりまとめ、運営をいただきたいと思えます。

多くの方に来場して頂くためにも、広報などの情報発信が課題となるのではないのでしょうか。それを含め、事業全体に大学生が関わっていくことも可能ではないかと考えられます。

日本の伝統文化を広く知っていただき、関心を多くの方に持っていただく事に各地とのつながりは重要と考えています。

文化は、現地、現物が大切で、その地域を訪ねて触れてみることは、欠かせないと思えます。今後ともよろしく願い申し上げます。

はなやか関西は広域での取り組みであり、官民間問わず様々な立場から参加を促す魅力がありますが、その代わりに各参加団体の目的意識をそろえるのが難しいと感じました。すでに行っている個々の取り組み・活動についての報告の場となるだけでなく、協働することでしかできない大きな取り組みが発展することを期待しています。関西は特に個性あふれる文化ある地域が多いので、事業として「地域」をどう設定し、同じレベルで共通認識を持つかが今後の課題と考えます。

・本取り組みへ参加したものの、会議等に参加できずに申し訳なく思っています。

・地域単位の取組(本市でいえば宇治地域で開催される、宇治茶の取組)となりますが、範囲も広くなり関西圏となると本市の知名度も低く、イベント自体も小規模なため、あまり効果を発することが出来なかったと思えます。

大変意義のある取組みだと思えます。継続され、様々な関西の文化が全国に、そして海外へ向けて発信されればよいと思えます。

・本取り組みへ参加したものの、会議等に参加できずに申し訳なく思っています。

・関西圏での取り組みとなり範囲も広いことから、本市の知名度も低く、イベント自体も小規模なため、あまり効果を発することが出来なかったと思えます。

1年目で模索されていたと思えますが、大変お世話になりました。

このようなイベントに参加でき、大変勉強になりました。

個々の力だけでは、日本文化の継承も難しくなっています。

行政の後押しをいただき、チャンスがあれば、少しずつでも茶の文化の重要性を広められればと思えます。

継続した活動を、どの年代にもわかるように、参加しやすいように拡げてほしい。ネットだけの情報は、年齢の高い方には伝わりにくいと思う。

「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」

検証に関するアンケート調査

(対象:準備会構成機関等)

集計結果

平成 24 年 3 月

国土交通省 近畿地方整備局

- 目次 -

I. 実施概要	1
1. 実施概要	1
II. アンケート集計結果	2
1. アンケート集計結果	2

I. 実施概要

1. 実施概要

期間:平成 24 年 3 月

対象:準備会構成機関

配布数:23 件

回収数:20 件

回収率:87.0%

no	機関名	
1	福 井 県	○
2	滋 賀 県	○
3	京 都 府	○
4	大 阪 府	○
5	兵 庫 県	○
6	奈 良 県	○
7	和 歌 山 県	○
8	三 重 県	○
9	徳 島 県	○
10	鳥 取 県	○
11	京 都 市	○
12	大 阪 市	○
13	堺 市	○
14	神 戸 市	○
15	公益社団法人 関西経済連合会	○
16	大阪商工会議所	○
17	(社)関西経済同友会	×
18	京都商工会議所	×
19	堺商工会議所	×
20	神戸商工会議所	○
21	旧関西広域機構	○
22	農林水産省 近畿農政局	○
23	経済産業省 近畿経済産業局	○

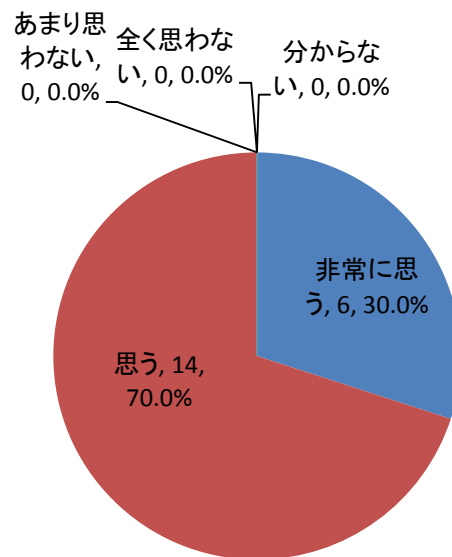
II. アンケート集計結果

1. アンケート集計結果

- ① 関西が「本物の文化」をテーマとし、一体となって関西のブランド力向上を推進し、「文化首都圏」を確立していくことは意義があると思うか。(1つ)

○ 「非常に思う」、「思う」で100%となっている。

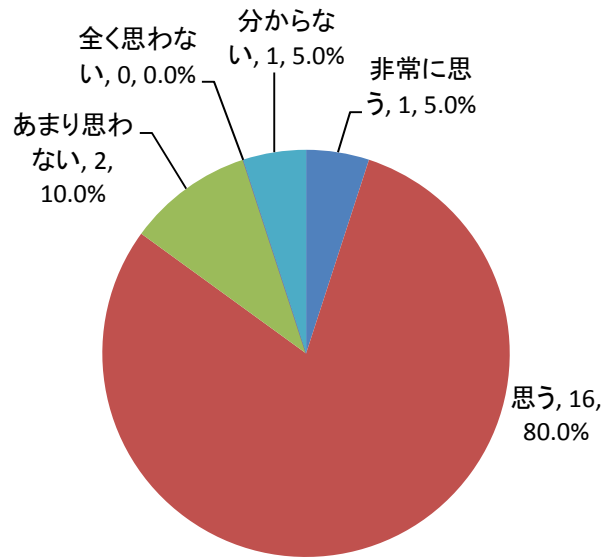
図. 関西が「本物の文化」をテーマとし、一体となって関西のブランド力向上を推進し、「文化首都圏」を確立していくことは意義があると思うか。(単数回答, n=20)



② 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」は関西が文化首都圏を確立する上で有効な手段と思うか。

○ 「非常に思う」、「思う」が 85%となっている。

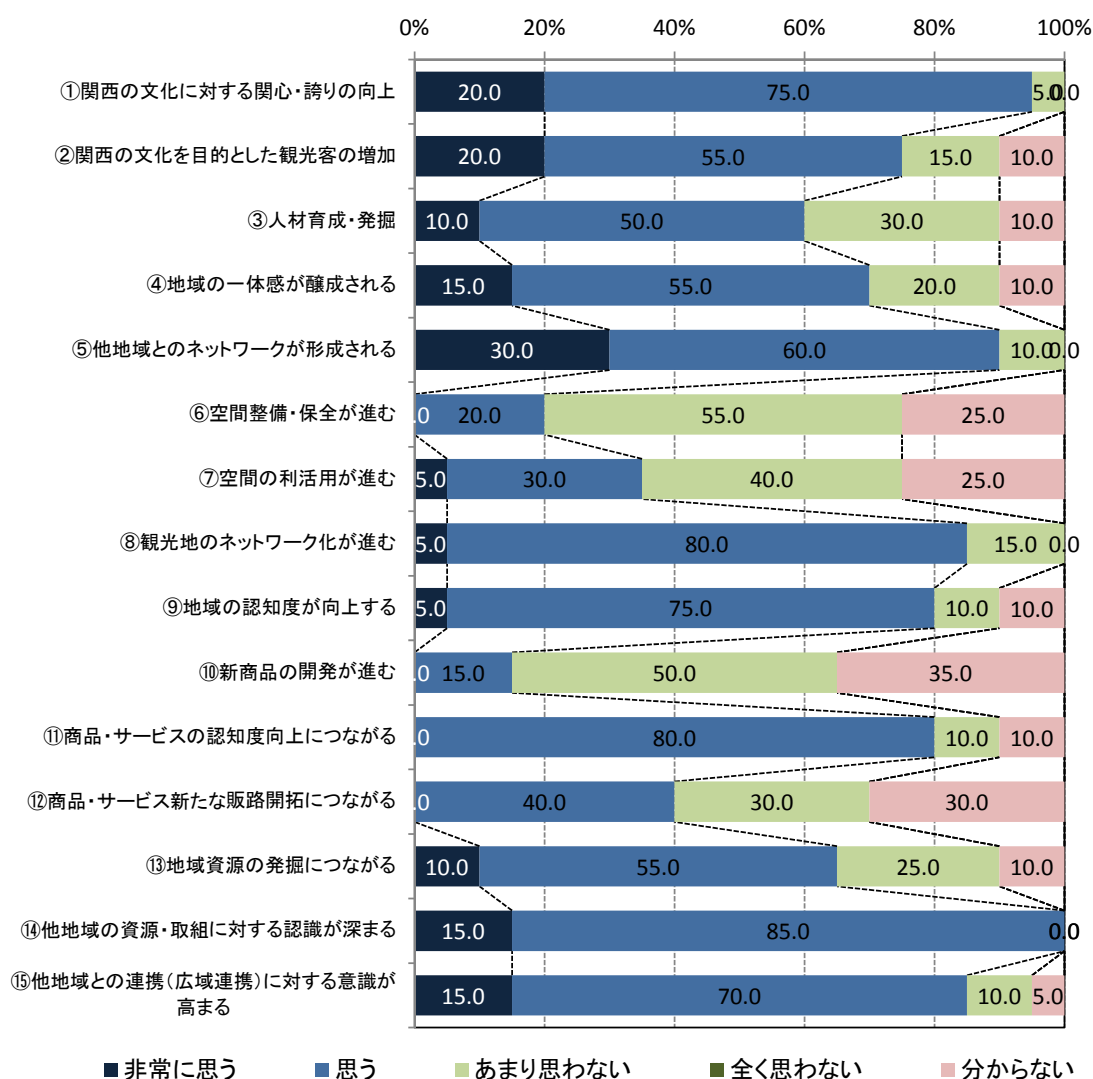
図. ② 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」は関西が文化首都圏を確立する上で有効な手段と思うか。(単数回答, n=20)



③ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の実施を踏まえ、文化首都年事業はどのような点で効果があると思うか。

○ 「関西の文化に対する関心・誇りの向上」、「他地域とのネットワークが形成される」、「観光地のネットワーク化が進む」、「他地域の資源・取組に対する認識が深まる」などの割合が高い。

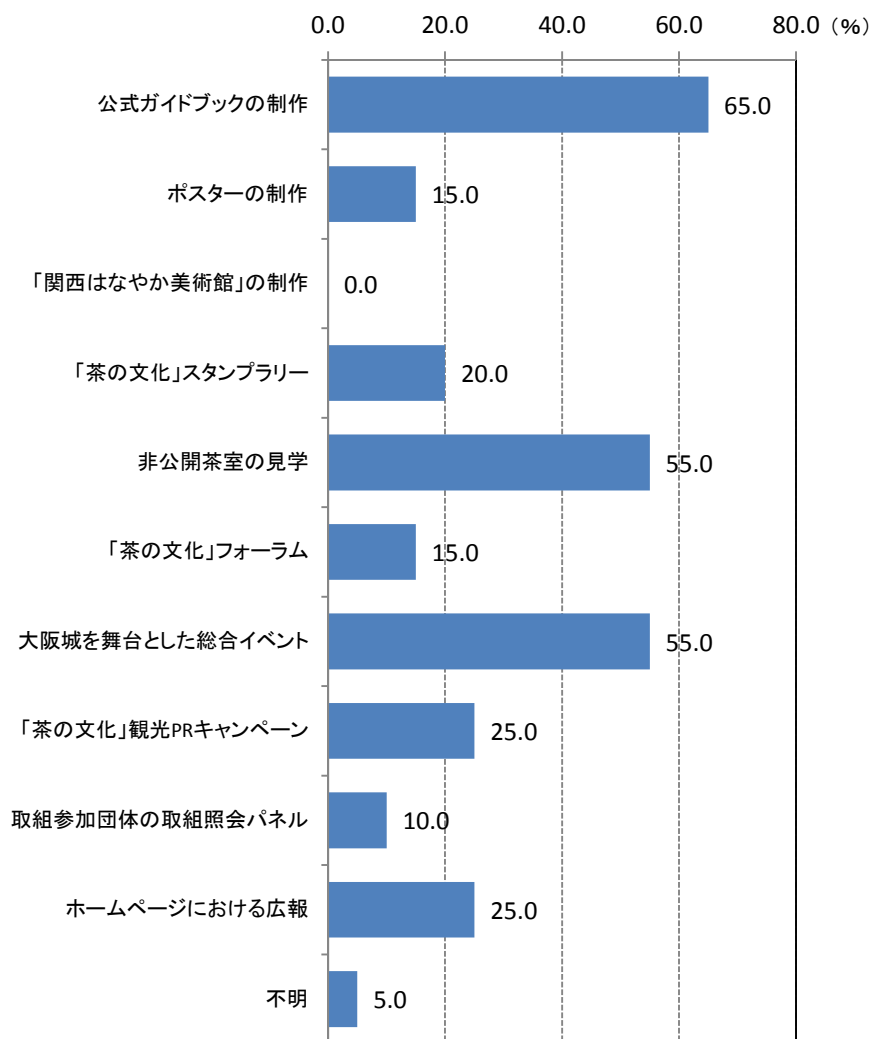
図. 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の実施を踏まえ、文化首都年事業はどのような点で効果があると思うか。(各単数回答, n=20)



④ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」について良かったと思うプログラム（複数回答可）。

○ 「公式ガイドブックの制作」、「非公開茶室の見学」、「大阪城を舞台とした総合イベント」などの割合が高い。

図. 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」について良かったと思うプログラム（各単数回答, n=20）



⑤ 「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」の成果について、特筆すべき効果などご意見

【意見内容】

- ・ 今後「茶」を観光文化資源として活用するうえで、「茶」に関する映像資料の存在など、他地域の資源を知る良い機会となりました。
- ・ 追加で一団体のみであったため、効果はわからない。
- ・ “茶の生産から消費、文化に関する分野まで、これだけたくさんの各府県の取組団体が参加したことは大きな成果であると思う。本取組によって、せっかくできたネットワークを今後も活かしていくことが重要だが、今後、中心となる役割をどこが、どう担っていくか決めないと取組が一時的なもので終わることが懸念される。効果を計ることは難しいが、何らかの指標が必要と思われる。
- ・ 「茶の文化」のテーマのもとに、関西各地のさまざまな関連団体が集まり、連携して取り組みを実施できたことは、関西の魅力をPRする上で、非常に意味のあることと感じた。また、「茶の文化」関連のイベントが学生の研究・発表の場として活用されるなど若者も参加した取り組みが展開されており、「茶の文化」の継承・発展という意味で効果があると感じた。
- ・ 「お茶」は広域で取り組むにはよいテーマであった。当会としても、京都の大山崎の茶室「待庵」や、堺の茶室「伸庵」での茶の湯体験、また宇治での抹茶づくり(お茶挽き)、冷茶の淹れ方講座などの体験の場だけでなく、「茶文化の形成過程と武家の関わり」から「茶と経済人」の関係などを当会の会員企業などに発信することができたのは、コンテンツ(メニュー)が豊富だからであると考えている。
- ・ 大阪城西の丸庭園を舞台に茶会等のイベントを実施したことで、普段市民の利活用が限定的な西の丸庭園のポテンシャルが認知された。
- ・ 茶をテーマに各地域で繋がりが出来たことは大きな効果だと思います。また、非公開茶室の見学のように公的なイベントでない限り、実現出来なかったプログラムは非常に有効であったと思います。

⑥ 今後の「はなやか関西～文化首都年～」の継承・発展に向けたアイデア

【意見内容】

- ・ 守る部分と進化する部分が組み合わされることにより、さらに魅力ある文化を育むこともあると思うので、本当に人をひきつけるものになるのか、どう魅力を出していくのか、関西一体で議論し、進めていくことが重要だと思う。一回限りで終わらないよう、また、関西で志を同じくする団体とも、バラバラに取り組むことのないよう、事業展開などの調整を図りつつ、継続と進化をミックスさせて進めていくことが大事だと考えます。
- ・ “「関西のブランド力向上を図る目的で、同事業は有効とは考えるが、PR・周知が不足しており、参加者以外の一般の方々が関西のブランド力を見直すに至るまでのムーブメントになっていないのではないかと。
- ・ その意味では、マスコミ等を巻き込んだPR戦略の強化や、参加者・参加団体だけでなく一般の方々に対するブランド意識向上効果の検証が必要と考える。”
- ・ テーマについては、単年度で終わるのではなく、同一テーマで2～3年続けた方が、より効果が上がるのではないかと。
- ・ 過去のテーマについても「はなやか関西」の取組であることがわかるように、何年間かはロゴマーク(必要であれば、年度とテーマを入れて)の使用ができるようにすればよいのではないかと。また、そのテーマの年度は「はなやか関西」の取組を知らず参加していなかった団体もあると思うので、希望があれば、過年度のテーマであってもロゴマークの使用ができるようにしてはどうか。そうすれば少しでも多く「はなやか関西」について人の目にふれる機会が増えるのではないかと。
- ・ お茶のように一部の地域に集中しているテーマでは、地域間で取組に温度差が出る。
- ・ “毎年、それぞれのテーマに関して、取組団体のネットワークができてくるが、テーマへの取組が1年限りでは非常にもったいない。5年後に各テーマを集約した集大成イベントを実施するなどの目標をたて、各ネットワークが目標に向かって取組を継続出来るように工夫すべきである。
- ・ “・毎年度新たなテーマに取り組むことにこだわらず、場合によっては、複数年の取組みとしてはどうか。
- ・ “・取り組むテーマ間の連携による経年的な展開を考えてはどうか。”
- ・ 継承・発展ということでは、テーマに基づいて実施した1年間の取組み(平成23年度では「茶の文化」)をそれ以降どうつなげていくかが重要と考える。そのためには、1年間が終わった後も、取組み団体が引き続き主体的に取り組んでいけるよう、1年間でその土台作りをしておく必要があると感じた。
- ・ —
- ・ 「本物の文化」をテーマとしているが、“本物”の定義が曖昧。テーマも公募方式に切り替えたものの、応募が1件のみという状況なので、今後の継続に向けたコンセプトの再構築と応募方法の再考が必要。「はなやか関西」として「本物の文化」を定義し、構成機関からテーマを募るなどしてはどうか。
- ・ 24年度の人形浄瑠璃のテーマのように、歴史的に関西の各地域にゆかりのあるコンテンツをテーマに設定することは意義があると思います。

⑦ 今後の「はなやか関西～文化首都年～」に関して、貴機関に積極的な参加をいただくために、必要なこと

【意見内容】

- ・ 関西で広域的な調整を行っている自治体や民間団体との調整をお願いしたい。
- ・ “関係団体等への参加を呼びかける際に、「はなやか関西～文化首都年～」参加することによるメリットが説明しにくい。何かアピール出来るものがあれば声をかけやすくなるのではないかと思う。
- ・ “取組団体にとって具体的なメリットが見えない。
- ・ 2年目の募集において、応募数が少なかったことについて、分析する必要がある。”
- ・ “取組団体等に対して、具体的取組内容が説明できる状況にしていただければ、基本的に協力させていただく。
- ・ なお、参加した取組団体に対して、実行委員会で具体的なフォローができないことで、取組団体からの不信感がおきないようにご配慮いただきたい。
- ・ 取組団体にとって公式ガイドブックへの掲載などのメリットはあるが、取組団体への直接的な支援(初年度)などがあれば、募集時に参加要請もし易く、また、各団体等の賛同・理解も得やすい。
- ・ “○地方整備局が「文化」を扱うことに対する違和感の解消。取組名称が「文化観光首都」「観光首都」でなく「文化首都」とされている以上、当該取組に関する事務局は文化庁で持つべきではないか。また文化庁が行っている関西文化元気圏の取組との重複点、相違点、国において整理の上、提示してほしい。
- ・ ○参加に対するメリットの内容提示。例えば公式ガイドブックを配布するとしても、何部刷ってどういう所へ置く・配布するか不明であるため、当方から民間等の団体へ積極的な参加勧奨がしにくい。また、参加に対するメリットの強化。「名義後援」や「ロゴマークの使用」でなく、国から財政的支援があるとなれば、民間等の団体へ積極的な参加勧奨が可能となる。
- ・ ○前述より一歩進めて、関西広域連合で同様な取組を実施している広域観光・文化振興事業への一本化。例えば平成24年度に実施を予定している人形浄瑠璃のPRは、関西広域連合で行おうとするPRと重複している。少なくとも重複を解消することが必要。”
- ・ 本市の取組とテーマなどが一緒でないと難しい。
- ・ 関連付けしやすいテーマ設定であれば、幅が広がり様々な取り組み主体が参加しやすくなると思う。
- ・ 当会だけの認識ではないと思うが、本取組みのPRにもっと力を入れてもらいたい。認知度が高まらなければ、ブランディングが確立しないため。
- ・ ワーキンググループの会合等に出席してみると、関西各地から関係機関の担当者が集まっているのに、ほとんど発言や質疑のないまま終了することが多い。広域連携のチャンスを活かし切れていない気がするので、「はなやか関西」に直接関わりのないテーマでも、各機関の出席率も向上し、連携の可能性も高まるのではないか。
- ・ “当局では、地域資源を活用した取り組みに対する支援策(地域資源活用支援策、JAPANブランド支援事業など)があるため、事業の商品開発、販路開拓等でご協力出来る可能はあります。
- ・ はなやか関西では、イベント的なものが多いため、現時点ではご協力できる範囲は限られておりますが、今後、参画団体、参加企業が個別に商品開発、販路開拓等への取り組まれる場合は、施策をご活用いただける可能性があります。
- ・ その他、当局と関係省庁で実施している領事館フォーラム等を通じての海外発信は、ご協力できると思います。

⑧ 今後の「はなやか関西～文化首都年」において、扱ってほしい「テーマ」

【意見内容】

■今回のような茶室見学

- ・ “街道 各地域に存在する。”
- ・ 酒
- ・ “「お酒（日本酒）」をテーマにしてはどうか。本テーマであれば、事業者とのタイアップは実現しやすいと想定され、また、同事業者の情報発信力も活用できると考える。
- ・ また、「お茶」をリポートすることも重要であろう。瞬間的な花火ではなく、ブランディングには、継続性を重視する必要がある。”
- ・ 関西の上質な食文化(海外からの観光客を意識した内容で)
- ・ 日本の美の心(着物、陶器、食、庭園、お花)